

# 年齢階級別、薬効分類別ジェネリック医薬品使用割合について【概要版】

国民健康保険・協会けんぽ、後期高齢者医療分析結果

## 1. 目的

国では、医療費の抑制や患者の負担軽減につながるため、令和3年6月に閣議決定した骨太の方針2021で、使用促進の新たな目標として、ジェネリック医薬品使用割合を令和5年度末までに全ての都道府県で80%以上にすることを目標に掲げている。

令和6年3月14日開催された、社会保障審議会医療保険部会において、医薬品の安定的な供給を基本としつつ、後発医薬品の数量シェアを令和11年度末までに全ての都道府県で80%以上を主目標とする方針が明らかにされた。

山梨県の使用割合については、令和5年9月時点で84.4%となっており、国の目標は達成しているが、順位は変動していない状況である。

ジェネリック医薬品使用割合（年代別等）に関する状況を把握し、今後の事業の検討材料にするため、国民健康保険と協会けんぽのデータを統合した分析及び後期高齢者医療のデータ分析資料を作成した。

## 2. 集計対象

- 国民健康保険と協会けんぽ及び後期高齢者の内科、DPC、歯科、調剤レセプトについて集計（電子レセプトに限る、再審査分を除く）
- 令和5年9月診療分（10月審査分）レセプトを使用

## 3. 算出方法

- [後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出
- 項目の「対象薬剤数」とは[後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]
- 「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう

## 4. 統計分析

### (1) 薬効分類別の使用割合（0歳～74歳）

#### ①使用割合の状況（総数）

※資料No.1-4より

	令和4年9月診療分	令和5年9月診療分	差(%pt)
使用割合（総数）	79.3%	81.1%	1.8

- 0歳から74歳までの使用割合の総数は、81.1%であり、昨年度より1.8%pt伸びており、国で掲げた目標値80%を超えている。

#### ②使用割合の状況（薬効分類別）

【0歳から74歳において使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】

※資料No.1-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤+対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤+対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (1,608+1,682)	95.6%	放射性医薬品 (40+2,225)	1.8%
ビタミン剤 (665,543+752,774)	88.4%	その他の治療を主目的としない医薬品 (41+480)	8.5%
泌尿生殖器官及び肛門用薬 (254,213+287,701)	88.4%	人工透析用薬 (53+141)	37.6%

- 使用割合が高い薬剤は、歯科口腔用薬、ビタミン剤、泌尿生殖器官及び肛門用薬という状況である。
- 使用割合が低い薬剤は、放射性医薬品、その他の治療を主目的としない医薬品、人工透析用薬という状況である。

#### ③昨年度との比較【薬効分類別使用割合】

※資料No.1-4より

薬効分類別	令和4年9月診療分	令和5年9月診療分	差(%pt)
末梢神経系用薬	57.7%	65.1%	7.4
泌尿器生殖器官及び肛門用薬	82.1%	88.4%	6.3
ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	73.8%	78.3%	4.5

- 昨年度から最も伸びたのは、末梢神経系用薬であり、7.4%pt伸びている。

### (2) 年齢階級別の使用割合（0歳～74歳）

#### ①使用割合の状況

※資料No.2-1、2-2より

年齢階級	0歳～4歳	5歳～9歳	10歳～14歳	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳
使用割合	75.0%	73.1%	74.9%	75.6%	81.5%	80.9%	79.9%	79.2%
年齢階級	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	
使用割合	80.0%	80.5%	81.8%	82.0%	82.3%	82.9%	81.4%	

- 0歳から19歳までの若い世代の使用割合が低く、その中で最も低い年齢階級は5歳から9歳で73.1%である。
- 20歳以上において使用割合は概ね80%を上回っており、その中で最も高い年齢階級は65歳から69歳で82.9%である。

### (2) 年齢階級別の使用割合（0歳～74歳）

#### ②昨年度との比較【年齢階級別使用割合（%）】

※資料No.2-3、2-4より

年齢階級	令和4年9月診療分	令和5年9月診療分	差(%pt)	年齢階級	令和4年9月診療分	令和5年9月診療分	差(%pt)
0歳から4歳	78.5	75.0	△3.5	40歳から44歳	77.8	80.0	2.2
5歳から9歳	72.1	73.1	1.0	45歳から49歳	77.9	80.5	2.6
10歳から14歳	70.2	74.9	4.7	50歳から54歳	80.2	81.8	1.6
15歳から19歳	71.2	75.6	4.4	55歳から59歳	80.0	82.0	2.0
20歳から24歳	75.8	81.5	5.7	60歳から64歳	80.6	82.3	1.7
25歳から29歳	78.5	80.9	2.4	65歳から69歳	81.2	82.9	1.7
30歳から34歳	77.0	79.9	2.9	70歳から74歳	79.5	81.4	1.9
35歳から39歳	76.8	79.2	2.4				

- 昨年度と比較すると、0歳から4歳以外の年齢階級において使用割合は伸びている。
- 10歳から24歳までの使用割合は伸びが高く、特に20歳から24歳の年齢階級は昨年度から5.7%pt伸びており、全階級で最も高い伸びとなっている。
- 0歳から4歳までの使用割合は最も伸びが低く、10の薬効分類で低くなっており、そのうち最も低かったのは、その他の代謝性医薬品で△19.1%ptである。

### (3) 後期高齢者医療における年齢階級別の使用割合（75歳以上）

#### ①使用割合の状況

※資料No.4-3より

年齢階級	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳～99歳	100歳以上	総数
令和4年9月	77.9%	77.9%	78.8%	79.8%	81.8%	82.4%	78.5%
令和5年9月	80.2%	79.8%	80.4%	81.8%	83.0%	84.4%	80.5%
差(%pt)	2.3	1.9	1.6	2.0	1.2	2.0	2.0

- 75歳以上の使用割合の総数は、80.5%であり、昨年度より2.0%pt伸びており、国で掲げた目標値80%を超えている。
- 年齢階級別に見ると100歳以上において使用割合が最も高く、84.4%である。
- 昨年度と比較すると、75歳以上で最も高い伸びとなっているのは、75歳から79歳の年齢階級で昨年度から2.3%pt伸びている。

### (4) 保険者別の使用割合 ※厚生労働省「保険者別の後発医薬品の使用割合（毎年度公表）より」

#### ①使用割合の状況【令和5年3月診療分】

※資料No.6-1より

	保険者名	使用割合		保険者名	使用割合
1	身延町	87.3%	35	医師国保組合	67.7%
2	早川町	87.2%	34	丹波山村	71.3%
3	南部町	84.5%	33	昭和町	75.7%
4	韮崎市	84.3%	32	小菅村	76.6%
5	富士河口湖町	84.1%	31	富士吉田市	76.8%

- 使用割合が高い保険者は、身延町87.3%、早川町87.2%、南部町84.5%という状況である。
- 使用割合が低い保険者は、医師国保組合67.7%、丹波山村71.3%、昭和町75.7%という状況である。

## 5. まとめ

- 今回の統計結果から、本県では若い世代（0歳から19歳）の使用割合が低いことが分かった。0歳から74歳までの使用割合は81.1%（昨年度より1.8%ptの伸び）、75歳以上の使用割合は80.5%（昨年度より2.0%ptの伸び）であり、国で掲げた目標値80%を超えていることが分かった。
- また、保険者（地域）ごとにみると、80%に届いていない保険者もあることが分かった。このことより、保険者協議会は、若い世代を含め、幅広い年代の方々に対し、ジェネリック医薬品が安心・安全な薬剤であることや医療費の抑制につながることを、引き続きイベント等の場や広報により周知していき、必要があると考える。

# 年齢階級別、薬効分類別ジェネリック 医薬品使用割合について

～国民健康保険・協会けんぽ、後期高齢者医療分析結果～

(令和5年度)

山梨県保険者協議会

## 目 次

1.	目的	1
2.	分析対象	3
3.	算出方法	3
4.	統計分析	
	(1) 薬効分類別の使用割合	4
	(2) 年齢階級別の使用割合	9
	(3) 若い世代における薬効分類別の使用割合	3 2
	(4) 後期高齢者医療における薬効分類別の使用割合	4 2
	(5) 協会けんぽ・国保・後期 薬効分類別の使用割合	5 4
	(6) 山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合	5 7
5.	まとめ	6 7

■年齢階級別、薬効分類別ジェネリック医薬品使用割合  
～データ分析(数量ベース)～

## 1. 目的

国では、医療費の抑制や患者の負担軽減につながるため、令和3年6月に閣議決定した骨太の方針2021で、使用促進の新目標として、ジェネリック医薬品使用割合を令和5年度末までに全ての都道府県で80%以上にすることを目標に掲げている。

令和6年3月14日開催された、社会保障審議会医療保険部会において、医薬品の安定的な供給を基本としつつ、後発医薬品の数量シェアを令和11年度末までに全ての都道府県で80%以上を主目標とする方針が明らかにされた。

山梨県の使用割合については、令和5年9月時点で84.4%となっており、国の目標は達成しているが、順位は変動していない状況である。

このようなことから、本協議会では昨年度と同様に、ジェネリック医薬品使用割合(年代別等)について、国保と協会けんぽのデータを統合した分析を行うとともに、後期高齢者医療のデータを分析し、幅広い年齢層の状況を把握する資料を作成した。

### ー山梨県のジェネリック医薬品使用割合(順位)ー

単位(%)

対象年月	平成29年度 4月～3月	平成30年度 4月～3月	令和元年度 4月～3月	令和2年度 4月～3月	令和3年度 4月～3月	令和4年度 4月～3月
使用割合	64.0	71.8	76.9	80.8	81.9	83.1
順位	46	44	41	35	34	34
対象年月	令和5年4月	令和5年5月	令和5年6月	令和5年7月	令和5年8月	令和5年9月
使用割合	84.2	84.5	84.4	84.2	84.5	84.4
順位	35	34	34	34	34	35

※厚生労働省「最近の調剤医療費(電算処理分)の動向」より

一都道府県別ジェネリック医薬品使用割合(順位別)一

単位(%)

	県名	令和元年度 4月～3月	県名	令和2年度 4月～3月	県名	令和3年度 4月～3月	県名	令和4年度 4月～3月	県名	令和5年 9月
	全国	79.1	全国	81.4	全国	82.0	全国	83.2	全国	84.6
1	沖縄	87.8	沖縄	89.0	沖縄	89.3	沖縄	89.9	沖縄	91.0
2	鹿児島	84.9	鹿児島	86.6	鹿児島	87.0	鹿児島	88.0	鹿児島	89.1
3	岩手	84.4	岩手	86.1	岩手	86.4	岩手	87.1	山形	88.2
4	鳥根	83.2	山形	85.0	宮崎	85.7	宮崎	86.8	宮崎	88.2
5	宮崎	83.1	宮崎	85.0	山形	85.4	山形	86.7	岩手	88.1
6	山形	82.7	鳥根	84.9	鳥根	85.3	鳥根	86.4	鳥根	87.9
7	富山	82.3	鳥取	84.3	熊本	84.7	鳥取	85.9	熊本	87.3
8	鳥取	82.3	群馬	84.1	群馬	84.7	熊本	85.8	鳥取	87.3
9	宮城	82.2	宮城	84.1	鳥取	84.7	群馬	85.6	群馬	87.0
10	群馬	81.9	熊本	84.0	宮城	84.4	宮城	85.5	宮城	86.8
11	福井	81.9	富山	83.8	長野	84.3	長野	85.4	長野	86.7
12	熊本	81.9	長野	83.8	佐賀	84.1	栃木	85.2	新潟	86.6
13	長野	81.8	新潟	83.5	山口	84.0	新潟	85.1	山口	86.5
14	佐賀	81.6	山口	83.4	新潟	83.9	山口	85.1	佐賀	86.5
15	新潟	81.4	佐賀	83.4	栃木	83.8	佐賀	85.0	栃木	86.5
16	山口	80.8	福井	83.4	富山	83.6	富山	84.5	福井	86.0
17	北海道	80.6	栃木	83.0	北海道	83.4	福島	84.5	福島	85.9
18	岡山	80.6	北海道	82.7	福井	83.3	静岡	84.4	長崎	85.8
19	石川	80.5	静岡	82.6	岡山	83.3	長崎	84.3	愛媛	85.8
20	長崎	80.5	岡山	82.5	長崎	83.2	岡山	84.3	静岡	85.7
21	静岡	80.3	長崎	82.5	静岡	83.2	秋田	84.2	秋田	85.7
22	秋田	80.1	福島	82.4	福島	83.1	北海道	84.2	富山	85.7
23	栃木	80.1	愛媛	82.3	秋田	83.0	福井	84.2	岡山	85.6
24	三重	80.1	秋田	82.3	愛媛	83.0	愛媛	84.2	愛知	85.5
25	埼玉	80.0	石川	82.2	福岡	82.8	愛知	84.1	埼玉	85.5
26	愛媛	80.0	埼玉	82.2	大分	82.7	埼玉	84.0	北海道	85.4
27	福岡	80.0	福岡	82.1	埼玉	82.7	福岡	83.9	大分	85.2
28	福島	79.8	大分	81.9	愛知	82.7	大分	83.8	福岡	85.2
29	青森	79.6	三重	81.9	石川	82.4	千葉	83.7	千葉	85.1
30	千葉	79.6	千葉	81.8	千葉	82.3	三重	83.6	三重	85.0
31	大分	79.6	愛知	81.8	三重	82.3	滋賀	83.5	石川	84.9
32	愛知	79.5	滋賀	81.8	滋賀	82.2	石川	83.5	滋賀	84.7
33	滋賀	79.5	青森	81.6	青森	82.0	青森	83.2	青森	84.6
34	茨城	78.6	茨城	81.0	山梨	81.9	山梨	83.1	茨城	84.4
35	兵庫	78.2	山梨	80.8	茨城	81.7	茨城	83.0	山梨	84.4
36	岐阜	77.5	兵庫	80.5	兵庫	81.0	岐阜	82.5	岐阜	84.2
37	神奈川	77.2	岐阜	80.0	岐阜	81.0	兵庫	82.2	兵庫	83.7
38	奈良	77.1	神奈川	79.6	神奈川	80.2	神奈川	81.6	神奈川	83.1
39	和歌山	77.1	和歌山	79.4	広島	80.1	広島	81.4	和歌山	83.1
40	京都	77.0	香川	79.3	和歌山	80.1	和歌山	81.4	広島	83.0
41	山梨	76.9	広島	79.2	香川	80.0	大阪	81.0	香川	82.7
42	大阪	76.7	京都	79.2	大阪	79.8	香川	80.8	大阪	82.7
43	広島	76.7	大阪	79.1	京都	79.6	京都	80.8	京都	82.4
44	香川	76.6	奈良	78.8	高知	79.3	奈良	80.5	奈良	81.9
45	高知	75.4	高知	78.4	奈良	79.2	高知	80.3	高知	81.8
46	東京	75.3	東京	77.7	東京	78.4	東京	79.9	東京	81.5
47	徳島	72.5	徳島	76.8	徳島	78.4	徳島	79.3	徳島	80.8

※厚生労働省「最近の調剤医療費(電算処理分)の動向」より

※順位付けは、小数点以下四捨五入しない数値を使用

## 2. 分析対象

- 国保(一般分、退職分、組合分)・協会けんぽ(一般分)、後期高齢者医療の医科、DPC、歯科、調剤レセプトについて分析したものである。(ただし、電子レセプトに限る。)
- DPCレセプトについては、直接の診療報酬請求の対象としていないコーディングデータを分析対象としている。
- 再審査分を除くレセプトを分析対象としている。
- 令和5年9月診療分(10月審査分)レセプトを使用
- 今回の統計資料作成において、国保、協会けんぽともに処方がない薬剤については対象外としている。(後期高齢者医療のデータも同様)
  - 19. その他の神経系及び感覚器官用医薬品、41. 細胞賦活用薬、
  - 49. その他の組織細胞機能用医薬品、51. 生薬、52. 漢方製剤、
  - 59. その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品、63. 生物学的製剤、
  - 64. 寄生動物用薬、69. その他の病原生物に対する医薬品、71. 調剤用薬、
  - 73. 公衆衛生用薬、74. 体外診断用医薬品

### 【令和5年9月被保険者数】

- ・山梨県全体 795,834人 (山梨県HPより 令和5年9月1日現在)
- ・国保: 173,453人 (県国保援護課提供保険者別被保険者数より 令和5年9月末現在)
- ・協会けんぽ: 243,250人 (被保険者数 152,488人、被扶養者数 90,762人)(協会けんぽHPより)
- ・後期: 137,498人 (県国保援護課提供保険者別被保険者数より 令和5年9月末現在)

- 合計(国保+協会けんぽ) 416,703人 (県全体に対する割合 52.4%≒52%)
- 合計(国保+協会けんぽ+後期)554,201人 (県全体に対する割合 69.6%≒70%)

## 3. 算出方法

- [後発医薬品の数量]÷([後発医薬品のある先発医薬品の数量]+[後発医薬品の数量])で算出している。なお、項目の「対象薬剤数」とは[後発医薬品のある先発医薬品の数量]+[後発医薬品の数量]  
「切替薬剤数」とは [後発医薬品の数量]の事を示す。
- 「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう。
- 薬効分類は37薬剤に分類、「日本標準商品分類」の「中分類 87-医薬品及び関連製品」に準拠して設定している。
- 年齢階級は5歳刻み、年齢は実際の診療年月末日時点で判別している。

#### 4. 統計分析 (1)薬効分類別の使用割合 (資料No.1-1、1-2、1-3、1-4)

##### 《使用割合の状況(総数)》

○0歳から74歳までの使用割合の総数は、81.1%であり、昨年度より1.8%pt伸びており、国で掲げた目標値80%を超えている。

※資料No.1-4より

	令和4年9月診療分	令和5年9月診療分	差(%pt)
使用割合(総数)	79.3%	81.1%	1.8

##### 《使用割合の状況(薬効分類別)》

○全年齢階級対象に薬効分類別でみると、使用割合が高い薬剤は歯科口腔用薬95.6%、ビタミン剤88.4%、泌尿生殖器官及び肛門用薬88.4%という状況である。

○また、使用割合が低い薬剤は放射性医薬品1.8%、その他の治療を主目的としない医薬品8.5%、人工透析用薬37.6%という状況である。

【0歳から74歳において使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】 ※資料No.1-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (1,608÷1,682)	95.6%	放射性医薬品 (40÷2,225)	1.8%
ビタミン剤 (665,543÷752,774)	88.4%	その他の治療を主目的としない 医薬品(41÷480)	8.5%
泌尿生殖器官及び肛門用薬 (254,213÷287,701)	88.4%	人工透析用薬 (53÷141)	37.6%

※歯科口腔用薬 (歯科用局所麻酔剤、歯科用抗生物質製剤等)

##### 《被保険者からみた場合の使用割合に差異がある要因》

○被保険者が市販薬として、広く認知されているものについては使用割合が高い傾向にあるが、使用割合が低い薬剤については市販薬として目に触れることが少ないことから、後発医薬品に変更することに対して、抵抗があることや意識が低いことが考えられる。

##### 《昨年度との比較》

○昨年度から最も伸びたのは、末梢神経系用薬であり、7.4%pt伸びている。

【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】 ※資料No.1-4より

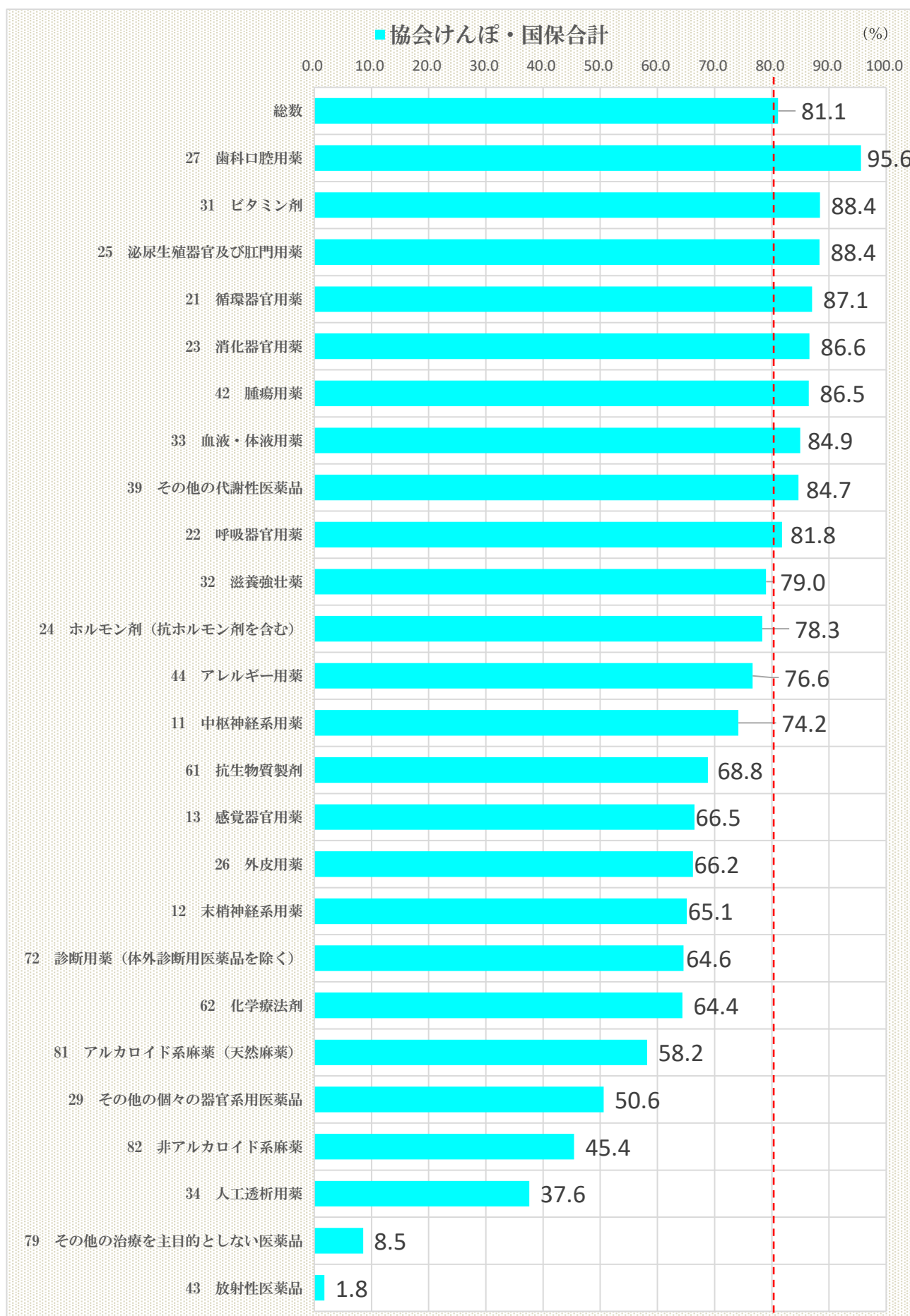
薬効分類別	令和4年9月診療分	令和5年9月診療分	差(%pt)
12 末梢神経系用薬	57.7%	65.1%	7.4
25 泌尿生殖器官 及び肛門用薬	82.1%	88.4%	6.3
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	73.8%	78.3%	4.5

##### 《ジェネリック医薬品の供給不足》

○後発薬メーカーの品質不正問題を発端とし、医療機関でジェネリック医薬品が品薄状態となっている。※令和6年1月時点で4,629品目(全体の26%)が限定出荷・供給停止

# 薬効分類別の使用割合

資料No.1-1





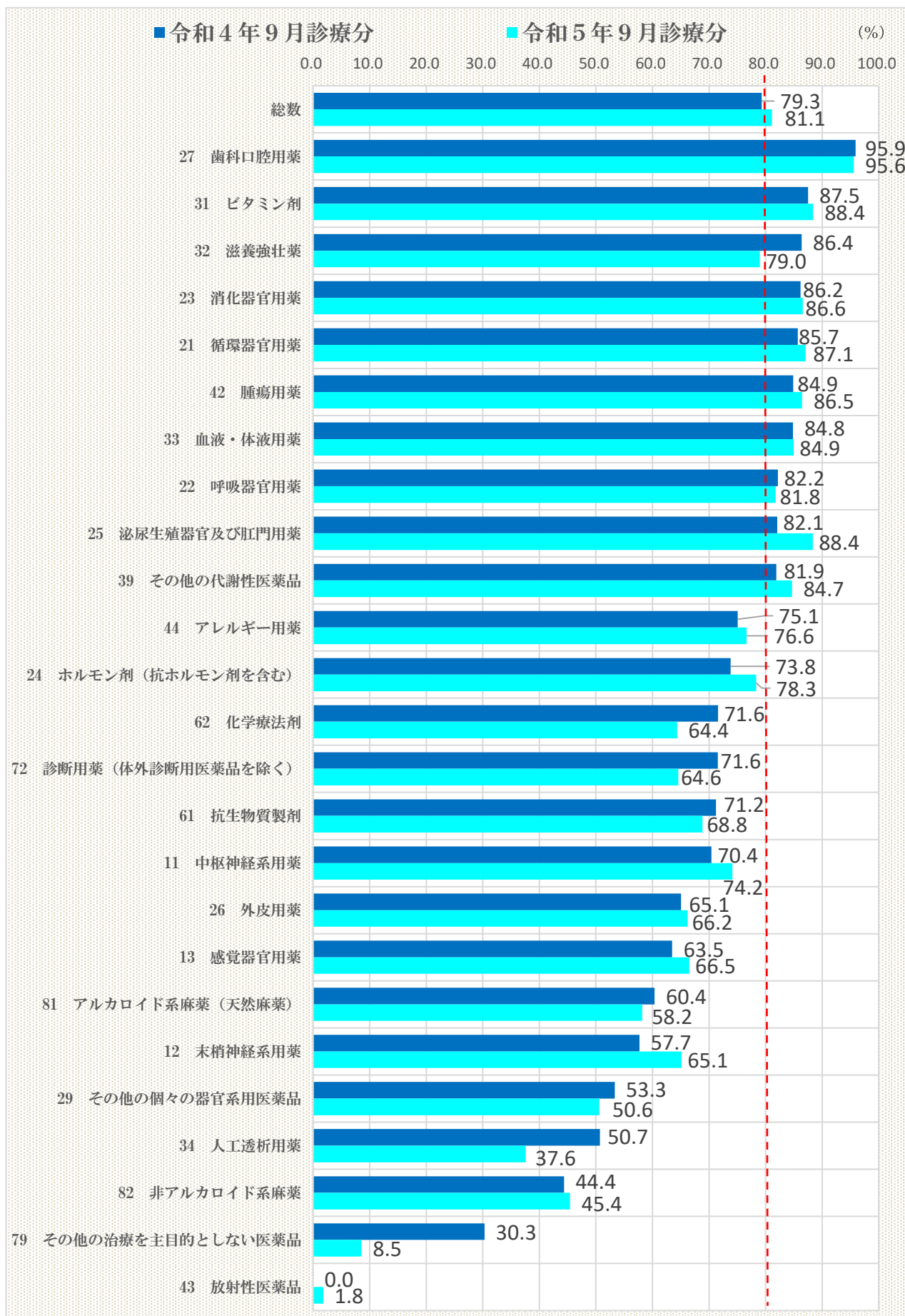
## 薬効分類別の使用割合

資料No.1-2

薬効分類別	協会けんぽ・国保合計		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	81.1	23,221,699	18,835,084
27 歯科口腔用薬	95.6	1,682	1,608
31 ビタミン剤	88.4	752,774	665,543
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	88.4	287,701	254,213
21 循環器官用薬	87.1	6,017,136	5,238,148
23 消化器官用薬	86.6	2,955,593	2,559,269
42 腫瘍用薬	86.5	82,220	71,095
33 血液・体液用薬	84.9	1,652,419	1,403,686
39 その他の代謝性医薬品	84.7	2,020,405	1,710,663
22 呼吸器官用薬	81.8	1,098,615	898,318
32 滋養強壮薬	79.0	125,655	99,261
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	78.3	205,321	160,827
44 アレルギー用薬	76.6	1,328,809	1,018,375
11 中枢神経系用薬	74.2	4,075,933	3,022,474
61 抗生物質製剤	68.8	251,672	173,233
13 感覚器官用薬	66.5	294,588	195,878
26 外皮用薬	66.2	1,664,462	1,102,274
12 末梢神経系用薬	65.1	268,589	174,985
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	64.6	3,284	2,120
62 化学療法剤	64.4	116,221	74,797
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	58.2	6,701	3,900
29 その他の個々の器官系用医薬品	50.6	3,196	1,617
82 非アルカロイド系麻薬	45.4	5,876	2,670
34 人工透析用薬	37.6	141	53
79 その他の治療を主目的としない医薬品	8.5	480	41
43 放射性医薬品	1.8	2,225	40

# 薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.1-3



## 薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.1-4

薬効分類別	令和4年9月診療分			令和5年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	79.3	23,800,291	18,877,809	81.1	23,221,699	18,835,084
27 歯科口腔用薬	95.9	1,813	1,739	95.6	1,682	1,608
31 ビタミン剤	87.5	803,810	703,360	88.4	752,774	665,543
32 滋養強壯薬	86.4	136,911	118,273	79.0	125,655	99,261
23 消化器官用薬	86.2	2,960,495	2,550,939	86.6	2,955,593	2,559,269
21 循環器官用薬	85.7	6,189,943	5,304,765	87.1	6,017,136	5,238,148
42 腫瘍用薬	84.9	83,223	70,637	86.5	82,220	71,095
33 血液・体液用薬	84.8	1,643,605	1,394,329	84.9	1,652,419	1,403,686
22 呼吸器官用薬	82.2	928,125	762,881	81.8	1,098,615	898,318
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	82.1	319,482	262,160	88.4	287,701	254,213
39 その他の代謝性医薬品	81.9	2,114,393	1,731,794	84.7	2,020,405	1,710,663
44 アレルギー用薬	75.1	1,262,484	947,923	76.6	1,328,809	1,018,375
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	73.8	201,430	148,703	78.3	205,321	160,827
62 化学療法剤	71.6	113,705	81,401	64.4	116,221	74,797
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	71.6	2,826	2,023	64.6	3,284	2,120
61 抗生物質製剤	71.2	222,472	158,438	68.8	251,672	173,233
11 中枢神経系用薬	70.4	4,332,083	3,051,470	74.2	4,075,933	3,022,474
26 外皮用薬	65.1	1,880,863	1,223,888	66.2	1,664,462	1,102,274
13 感覚器官用薬	63.5	307,096	194,970	66.5	294,588	195,878
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	60.4	6,451	3,895	58.2	6,701	3,900
12 末梢神経系用薬	57.7	276,231	159,386	65.1	268,589	174,985
29 その他の個々の器官系用医薬品	53.3	3565	1901	50.6	3196	1617
34 人工透析用薬	50.7	1,156	586	37.6	141	53
82 非アルカロイド系麻薬	44.4	4,888	2,170	45.4	5,876	2,670
79 その他の治療を主目的としない医薬品	30.3	587	178	8.5	480	41
43 放射性医薬品	0.0	2,654	0	1.8	2,225	40

#### 4. 統計分析 (2)年齢階級別の使用割合 (資料No.2-1、2-2、2-3、2-4)

##### 《使用割合が低い年齢階級の状況》

- 協会けんぽ、国保分の合計を年代別に見た場合、0歳から19歳までの若い世代の使用割合が低い状況であり、この年代においては、75%以下となっている。
- 具体的には、0歳から4歳が75.0%、5歳から9歳が73.1%、10歳から14歳が74.9%、15歳から19歳が75.6%という状況である。

##### 《使用割合が高い年齢階級の状況》

- 年齢別に見ると20歳以上において使用割合が概ね80%を上回る状況にあり、その中でも最も高い年齢階級が65歳から69歳であり、使用割合は82.9%と高い状況にある。

##### 《若い世代の使用割合の低い要因》

- 0歳から19歳の使用割合が低い状況は、保護者がジェネリック医薬品の有効性や安全性に不安を抱いていたり、県内で多くの市町村において18歳まで窓口無料化が実施されていることなどから、ジェネリック医薬品へ変更しようとする動機が働かず、使いなれた薬を希望することが要因の1つと考えられる。

※R5.4.1 現在、県内において1保険者以外が18歳まで窓口無料化となっている

##### 《高齢者の使用割合の高い要因》

- 60歳以上75歳未満の使用割合が高い要因の一つとして、現役を退いた年金受給者、及び定年退職後に国保に加入する方は、現役時より収入が減ることから、自己負担額に対するコスト意識が高いことが考えられる。

##### 《昨年度との比較》

- 昨年度と比較すると、0歳から4歳以外の年齢階級において使用割合は伸びている。
- 20歳から24歳の年齢階級は、最も高い伸びとなっており、5.7%ptである。
- 使用割合が低い0歳から19歳の年齢階級において、10歳から14歳、15歳から19歳の年齢階級の伸びは、それぞれ4.7%pt、4.4%ptであり、着実に伸びている状況である。

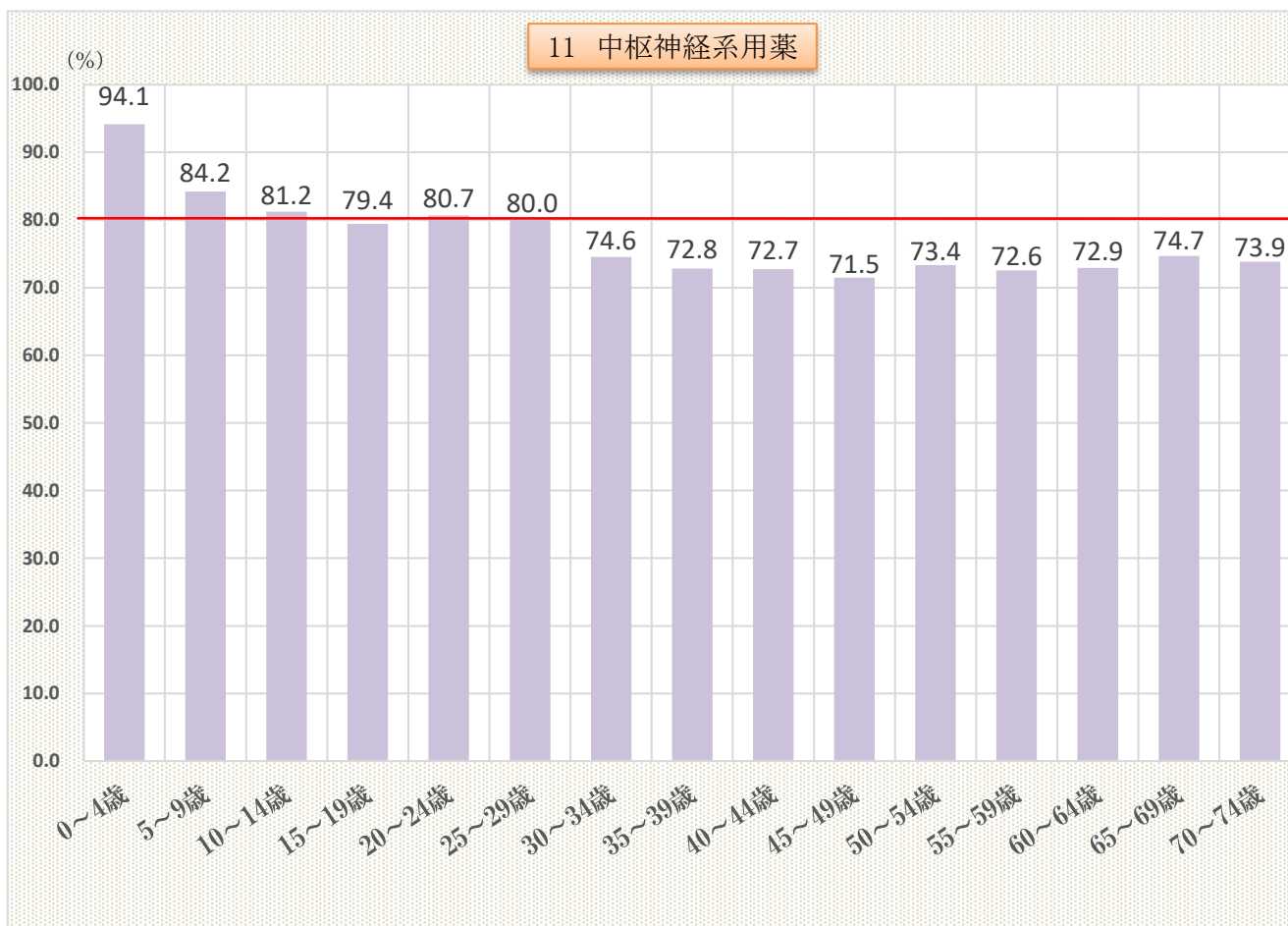
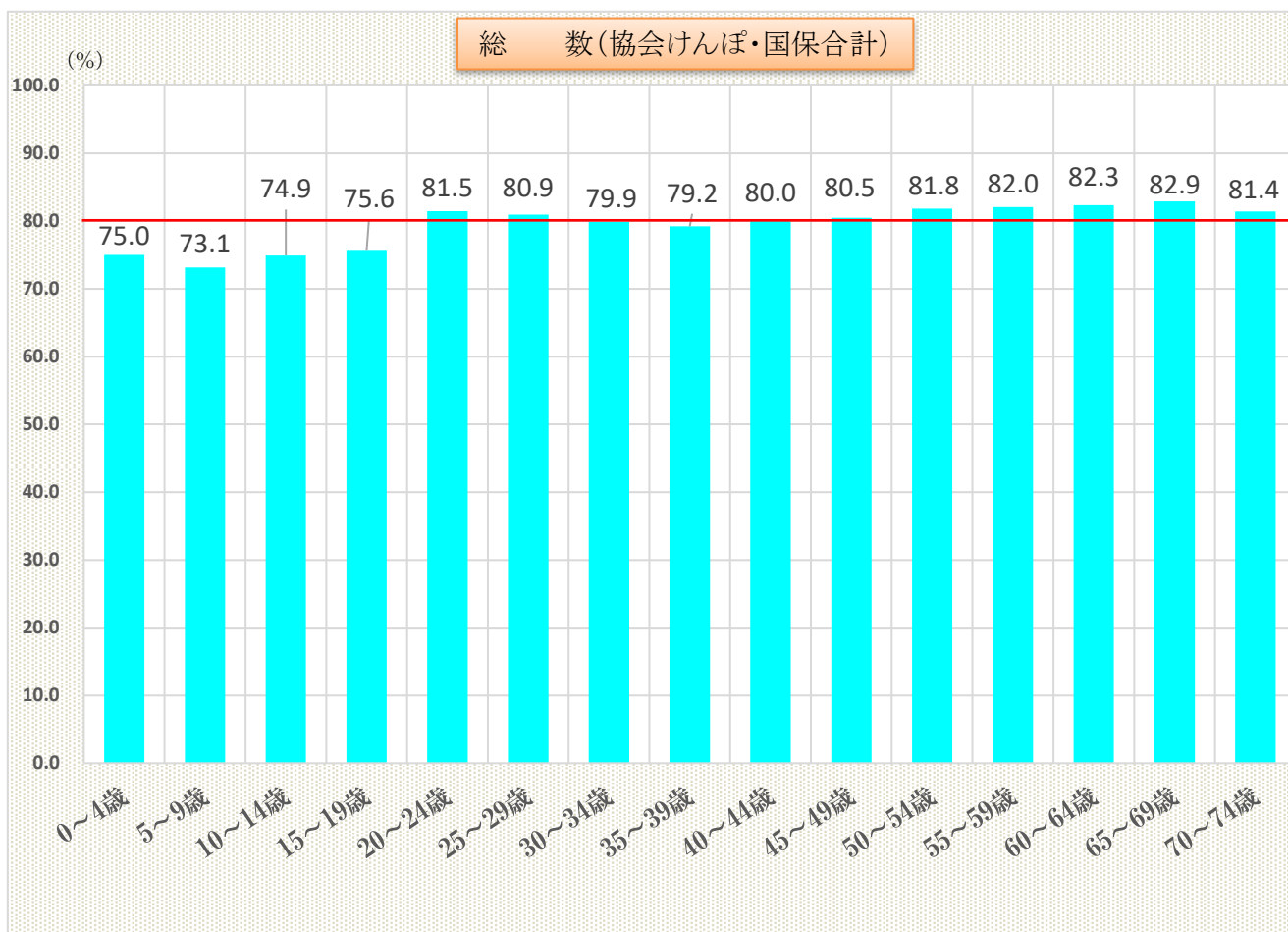
##### 【年齢階級別使用割合(%)】

※資料No.2-3、2-4より

年齢階級	令和4年9月診療分	令和5年9月診療分	差(%pt)
0歳から4歳	78.5	75.0	△3.5
5歳から9歳	72.1	73.1	1.0
10歳から14歳	70.2	74.9	4.7
15歳から19歳	71.2	75.6	4.4
20歳から24歳	75.8	81.5	5.7
25歳から29歳	78.5	80.9	2.4
30歳から34歳	77.0	79.9	2.9
35歳から39歳	76.8	79.2	2.4
40歳から44歳	77.8	80.0	2.2
45歳から49歳	77.9	80.5	2.6
50歳から54歳	80.2	81.8	1.6
55歳から59歳	80.0	82.0	2.0
60歳から64歳	80.6	82.3	1.7
65歳から69歳	81.2	82.9	1.7
70歳から74歳	79.5	81.4	1.9

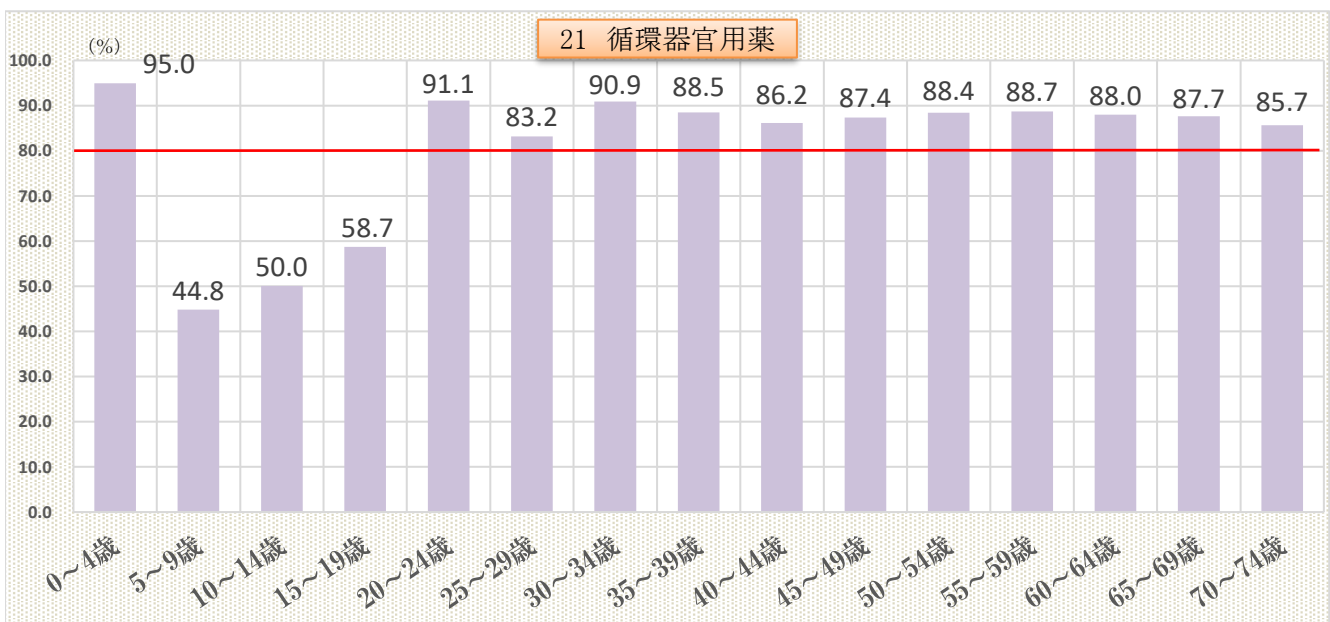
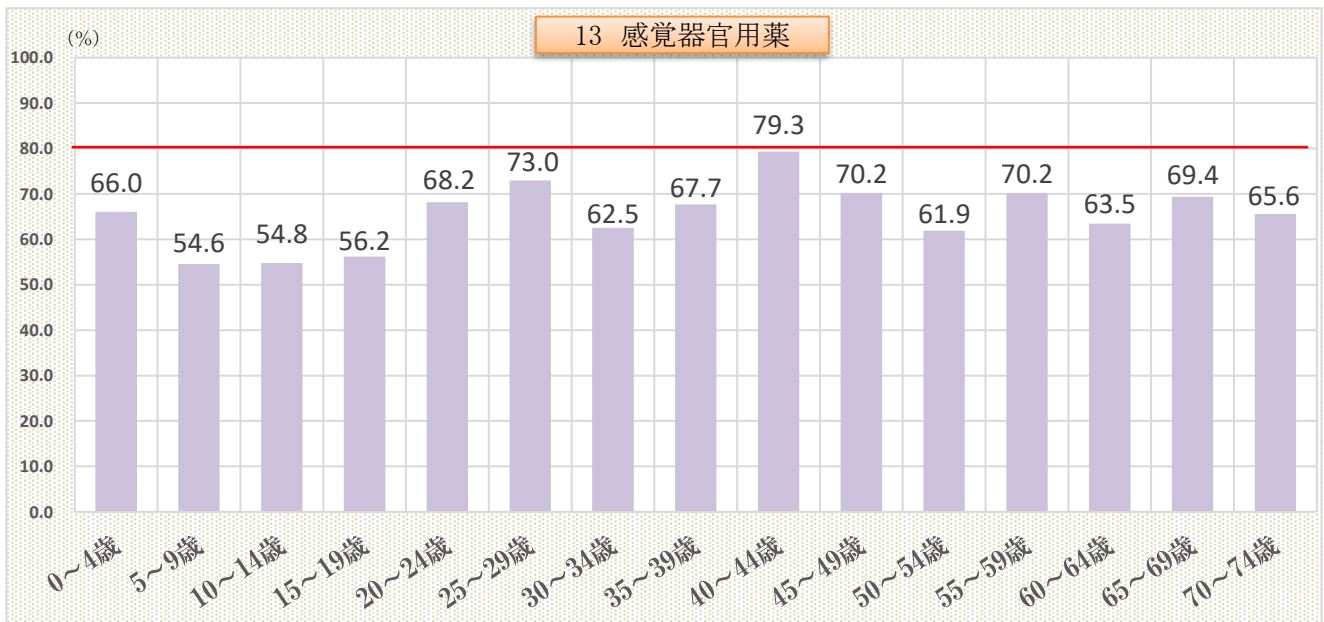
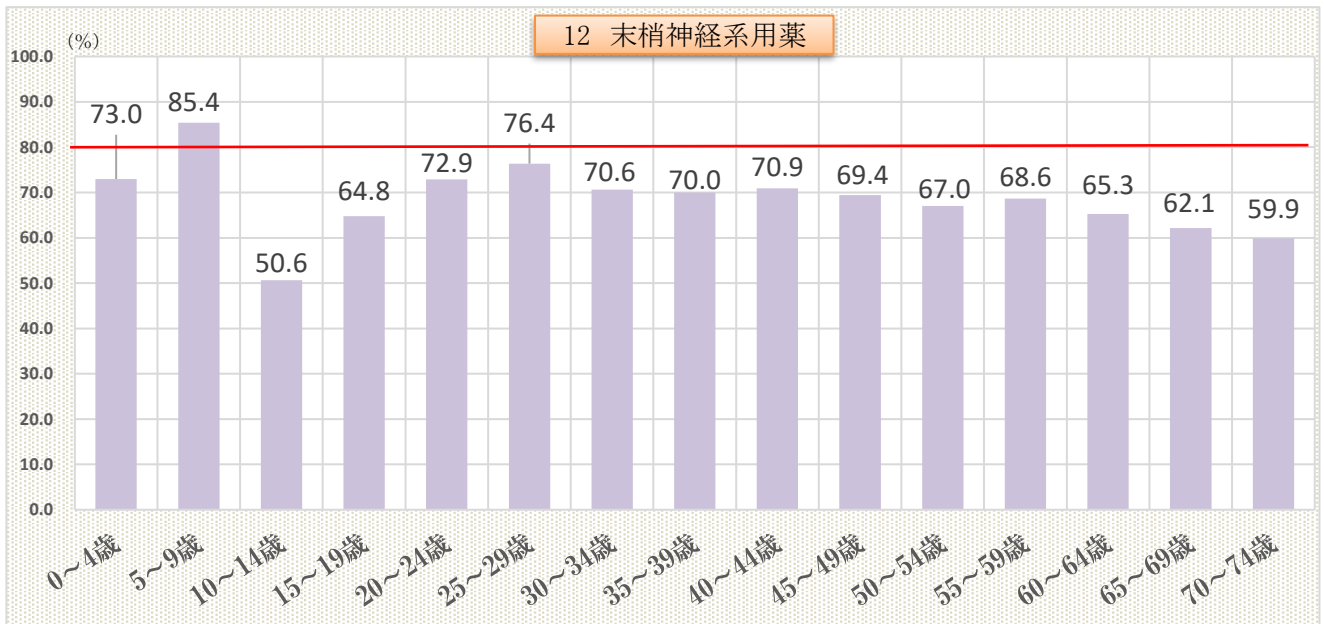
# 年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



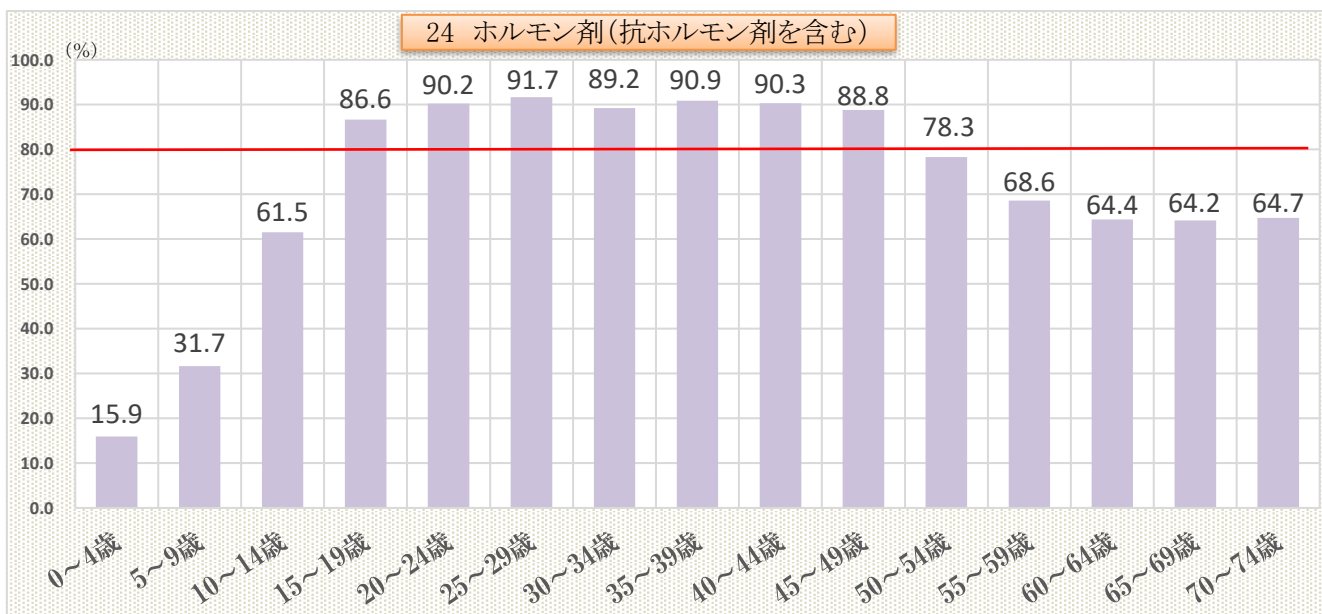
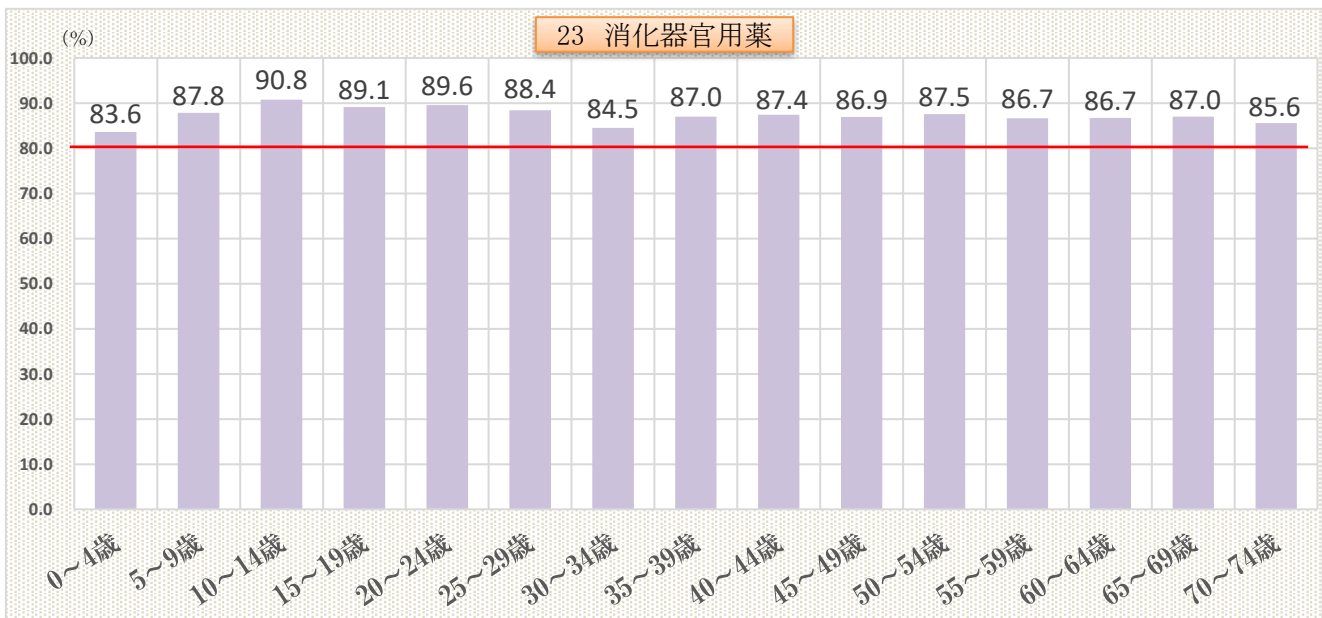
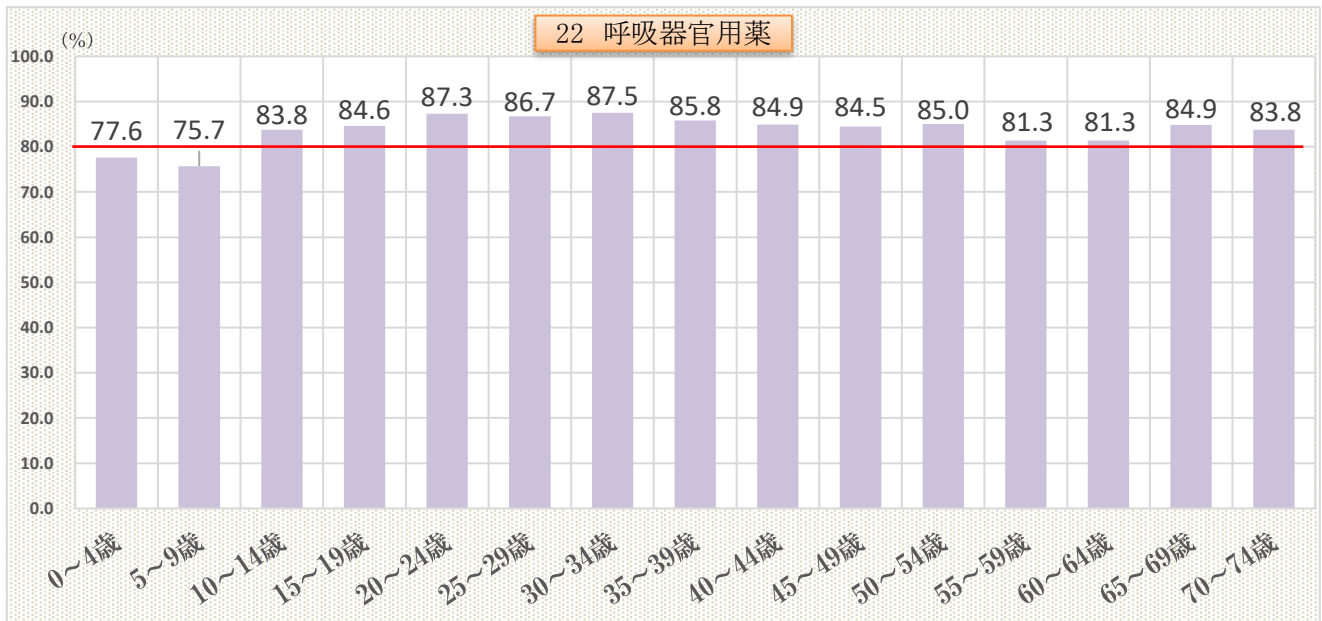
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



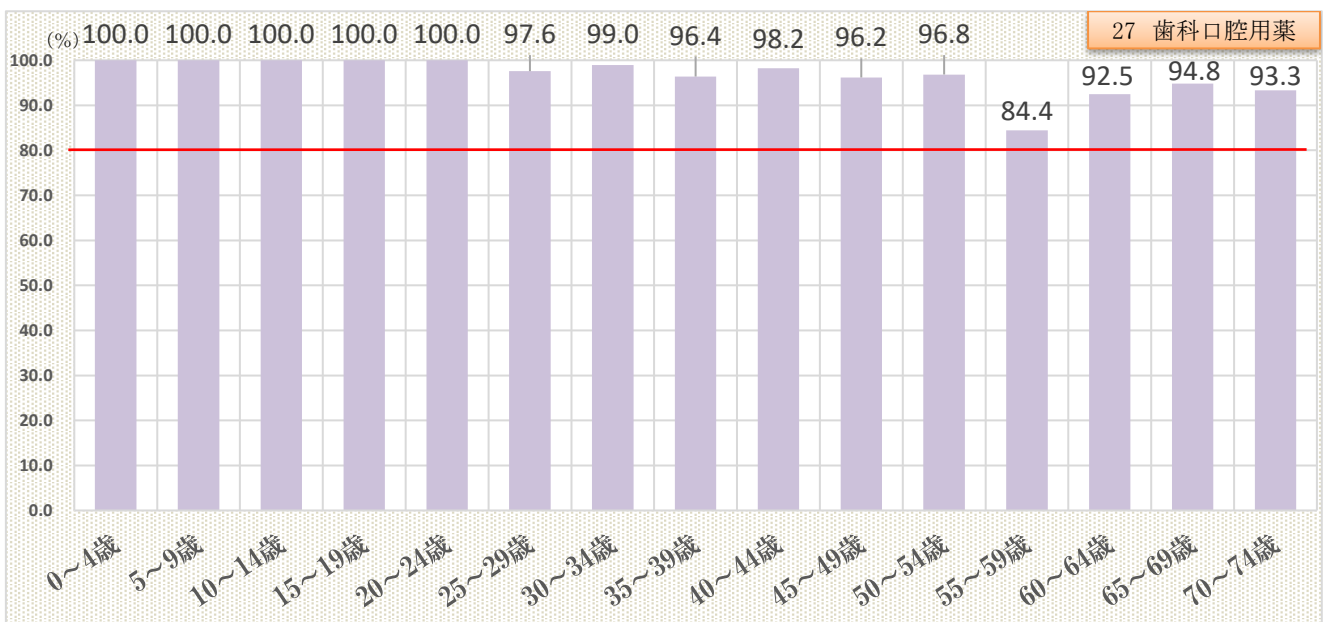
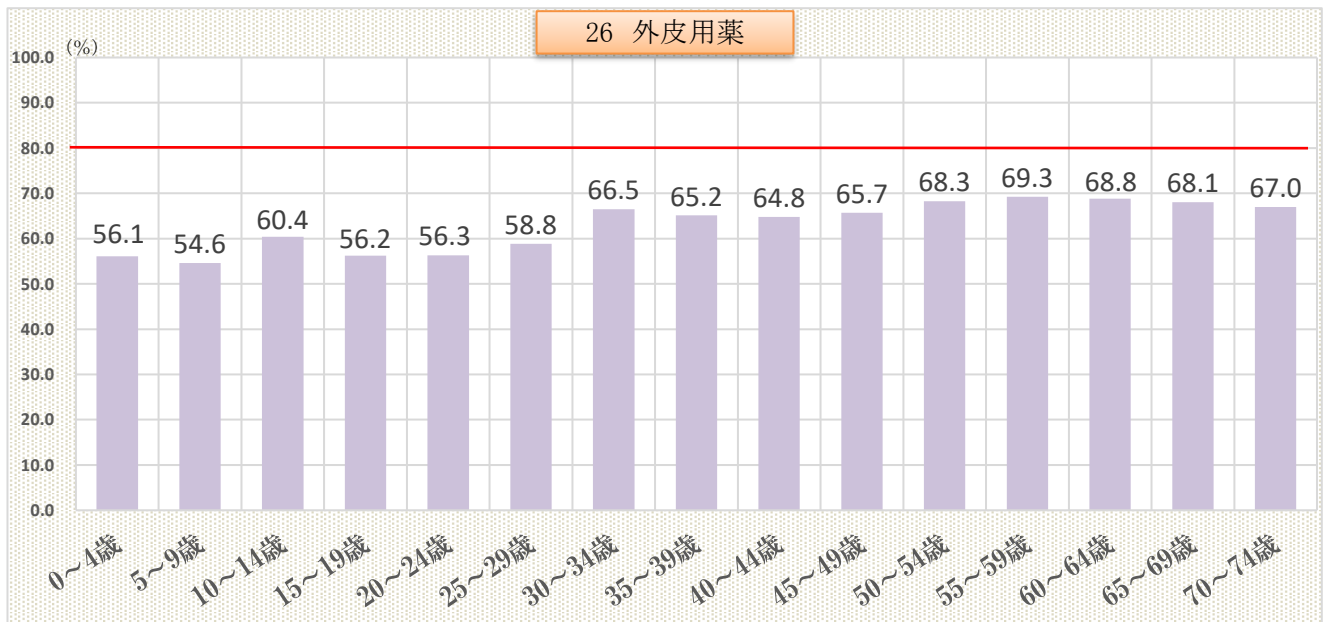
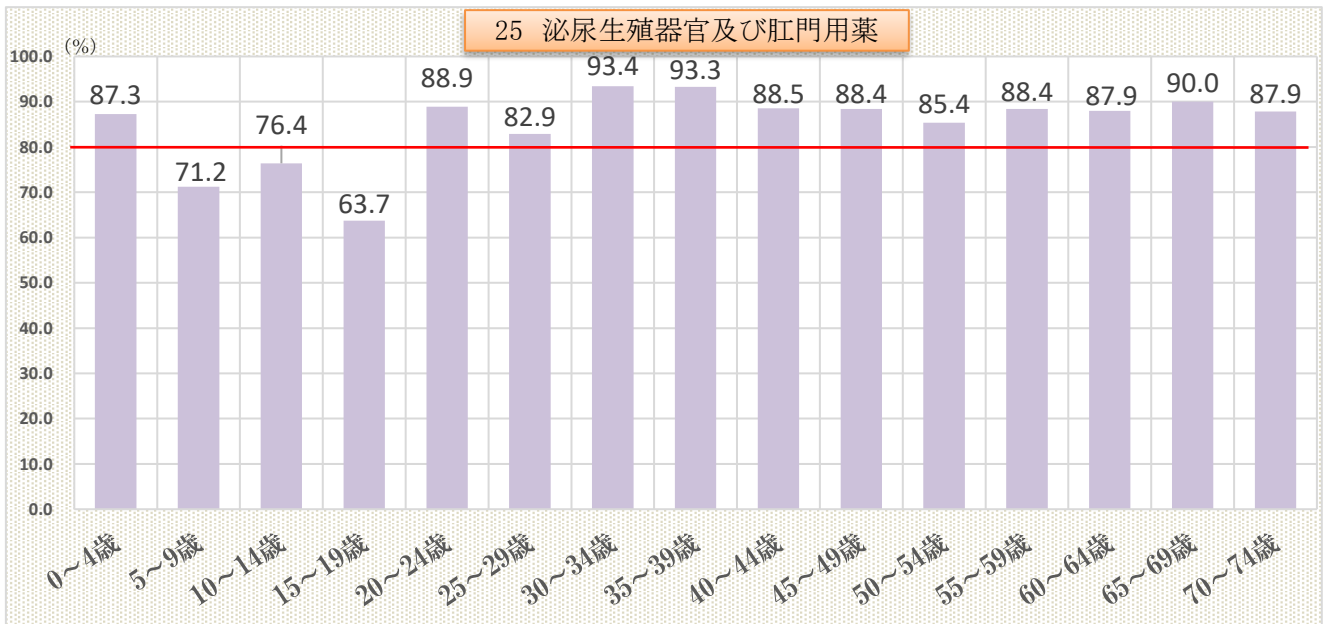
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



年齢階級別の使用割合

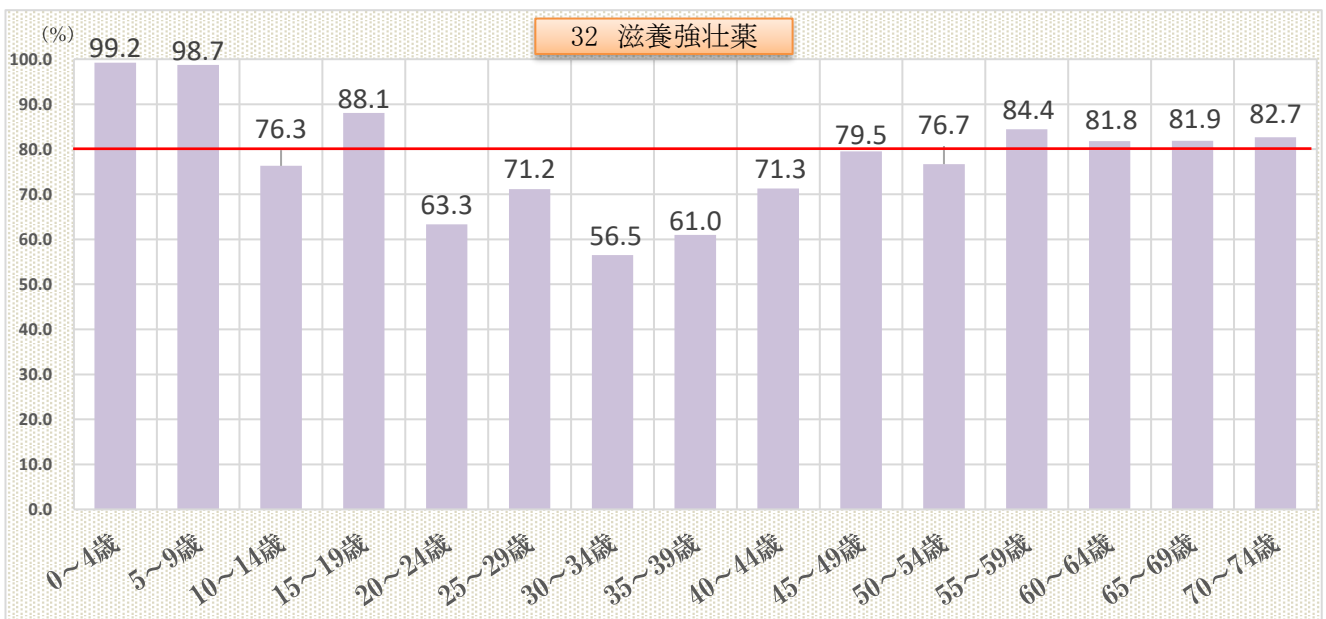
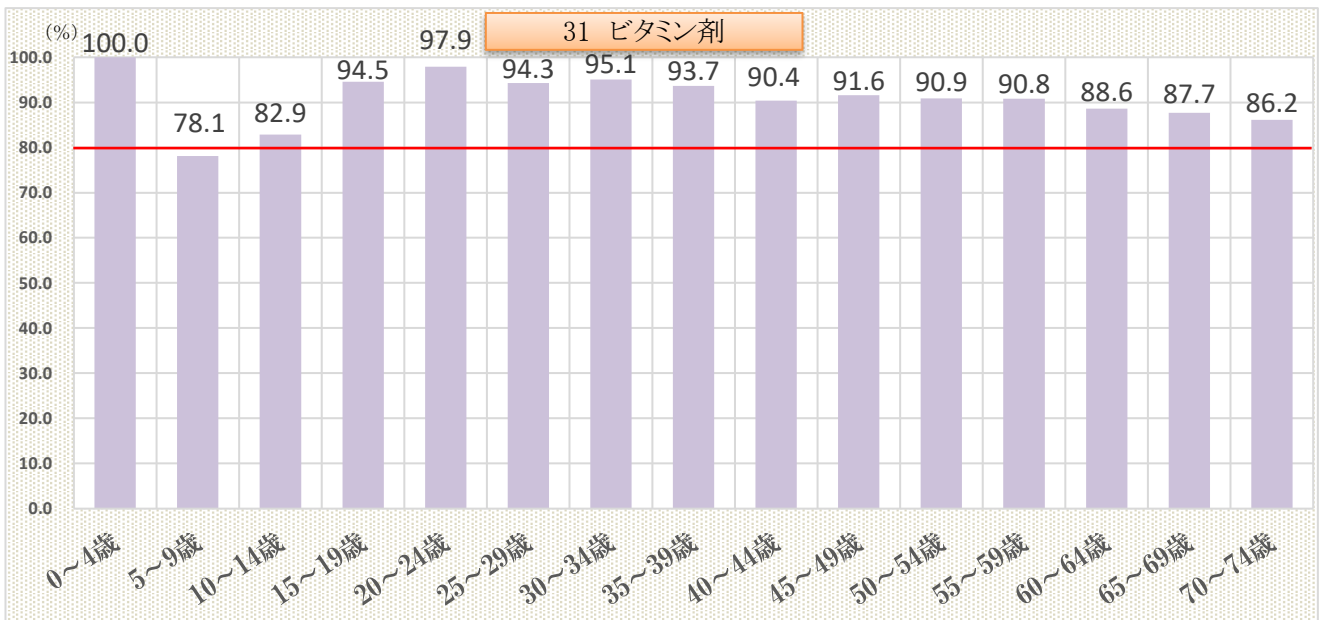
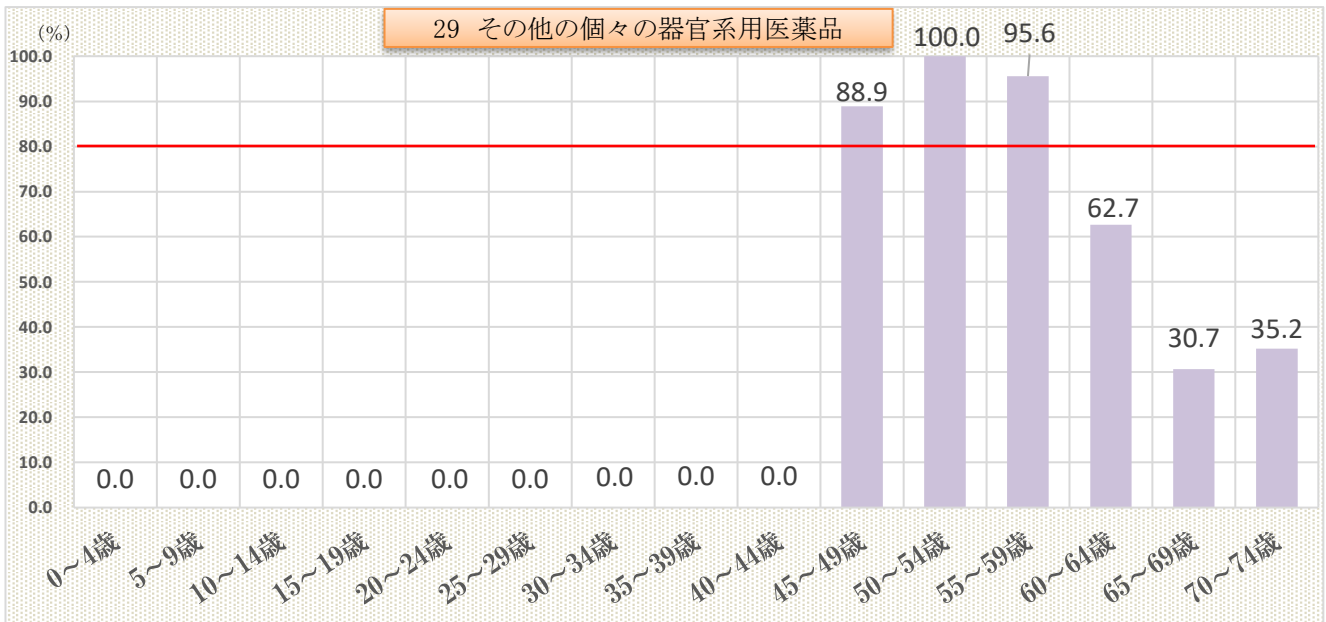
資料No.2-1





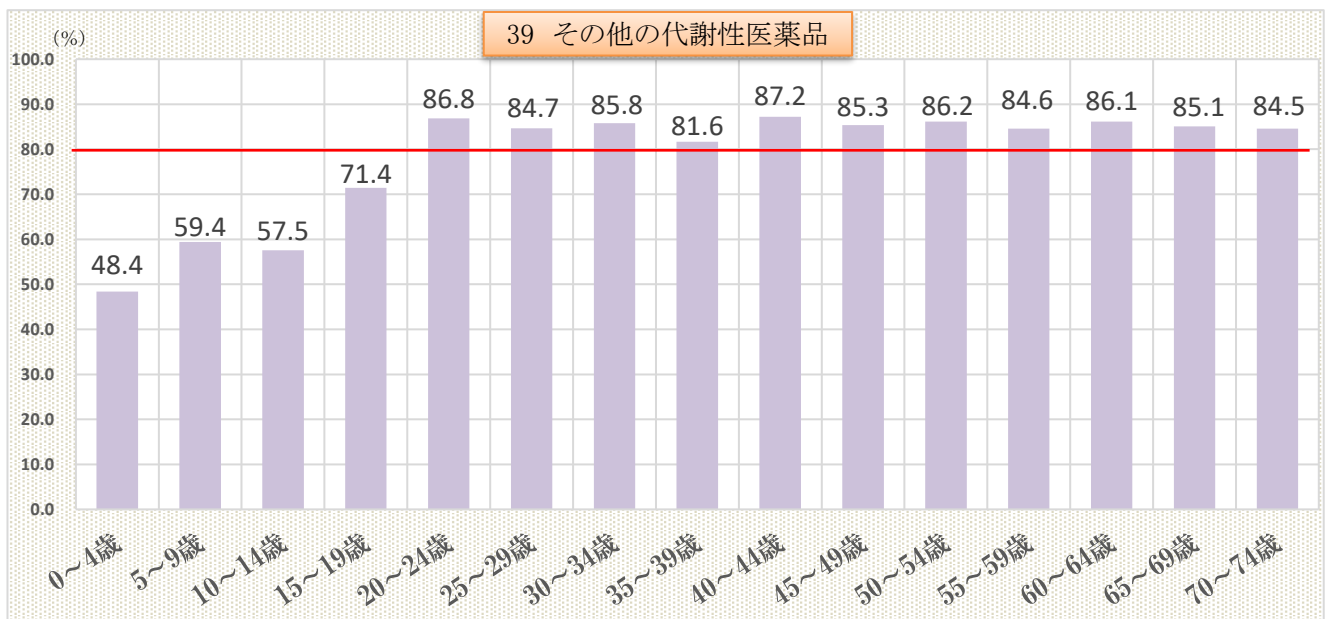
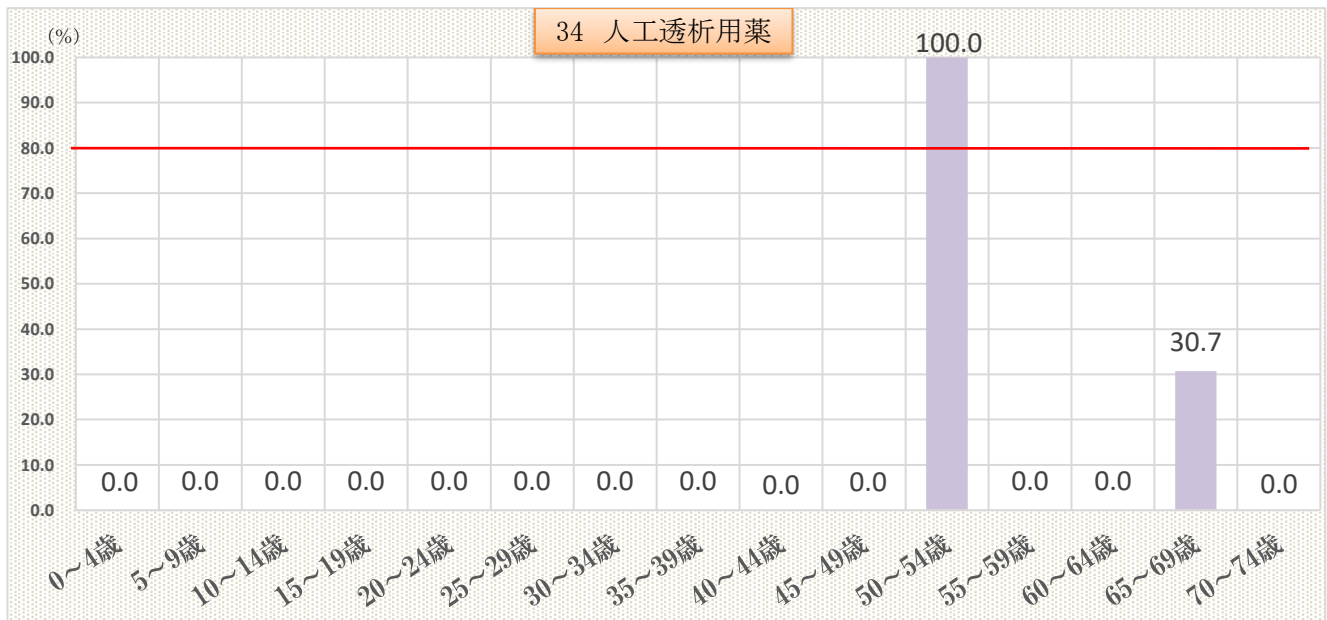
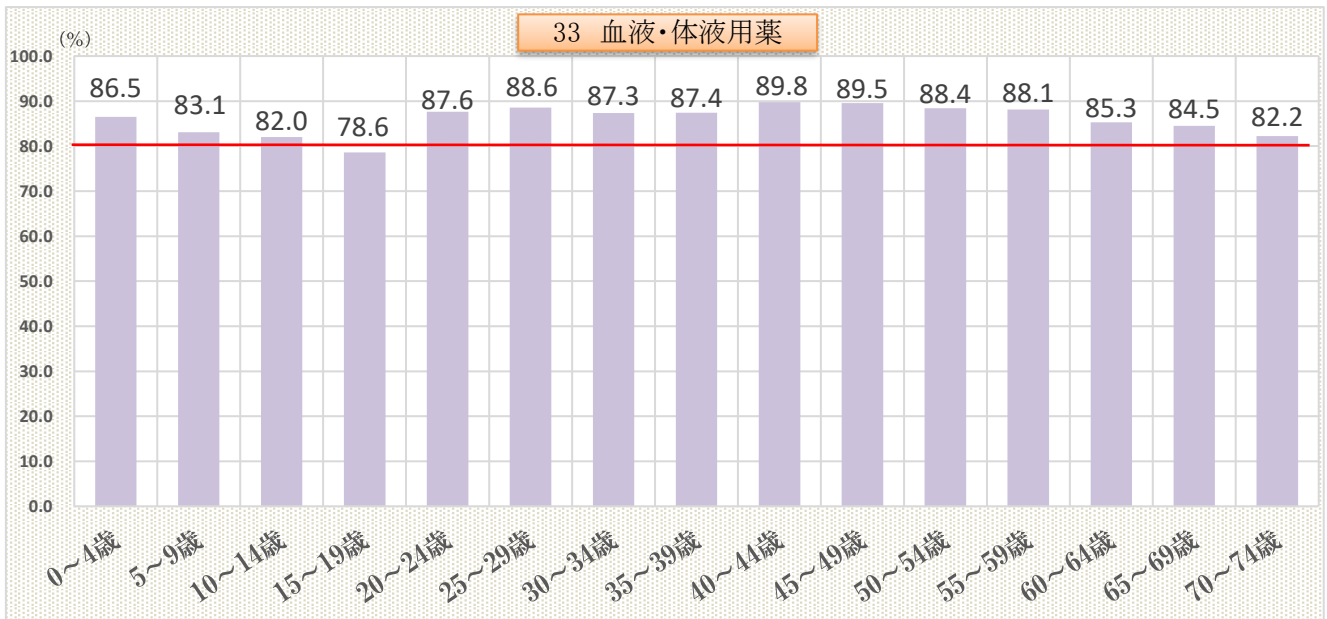
## 年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



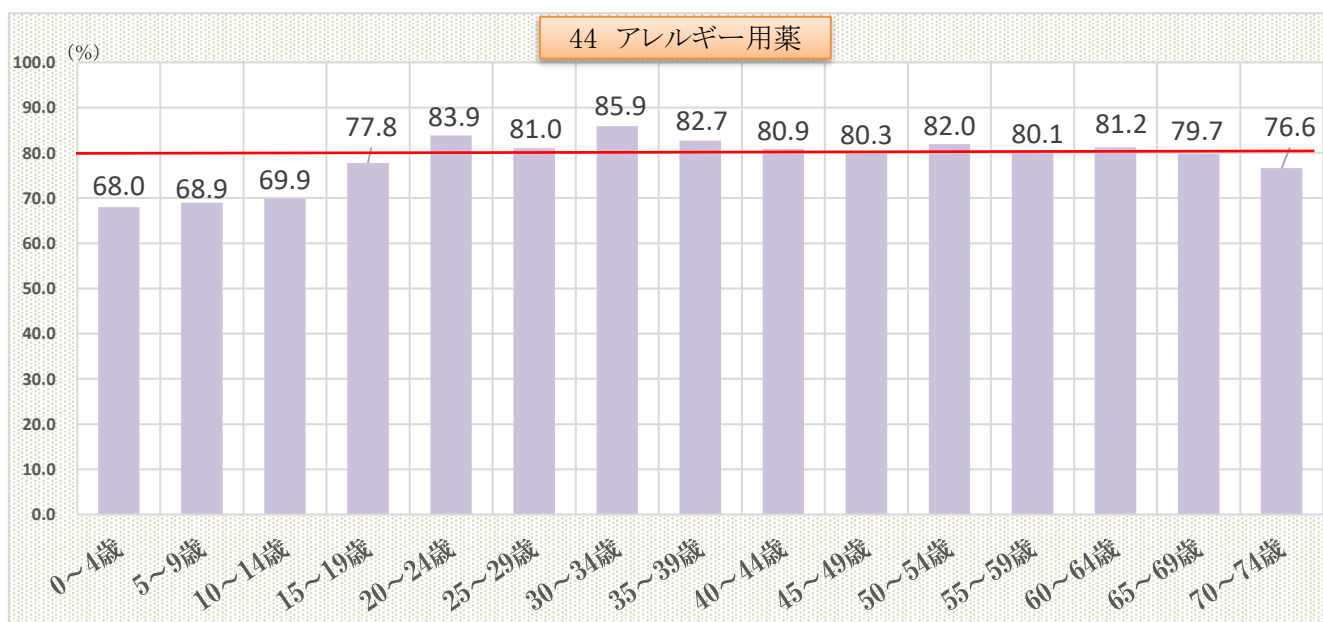
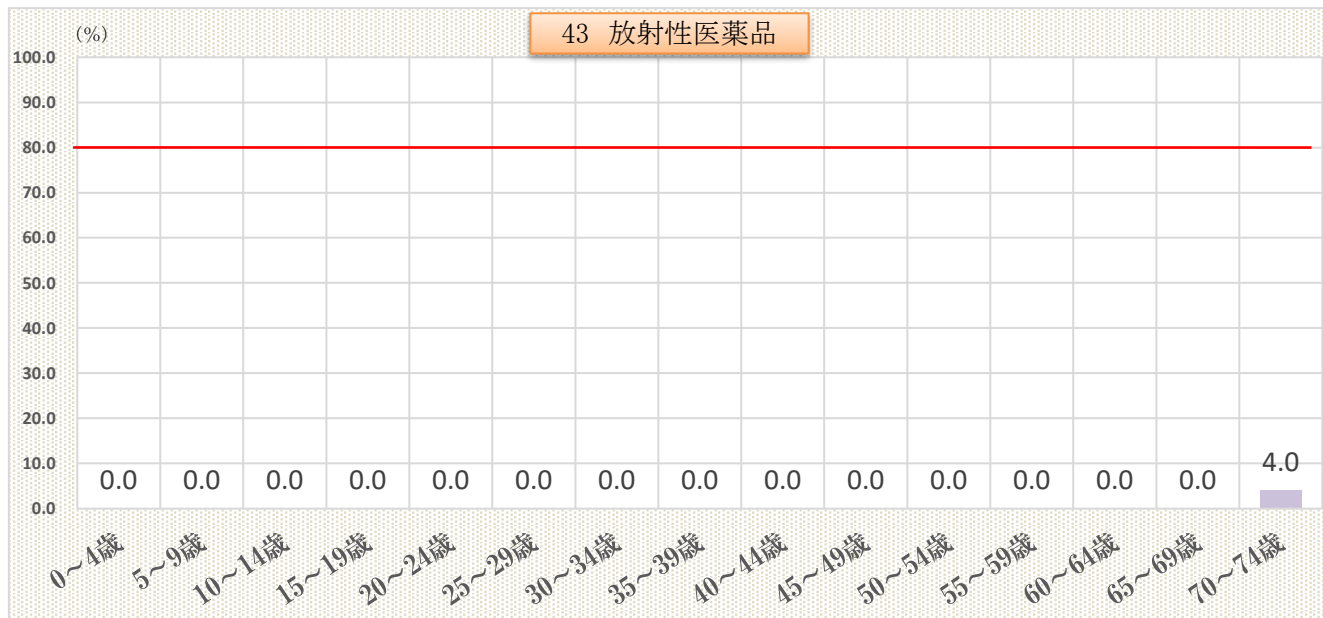
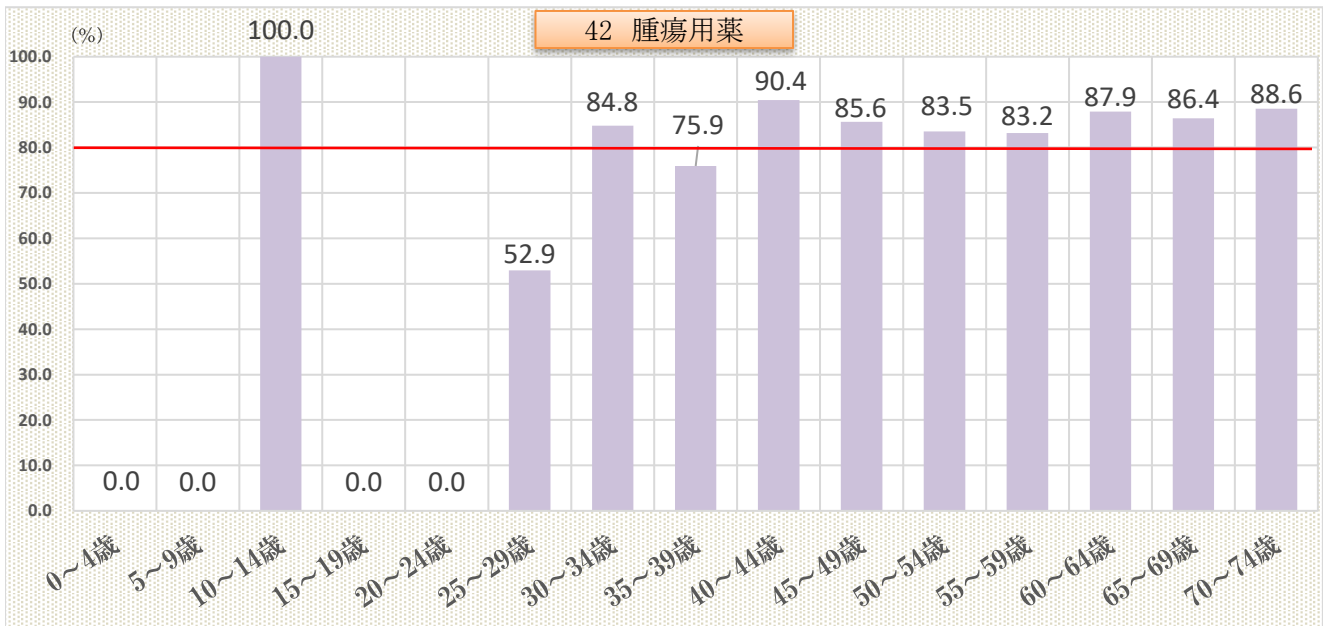
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



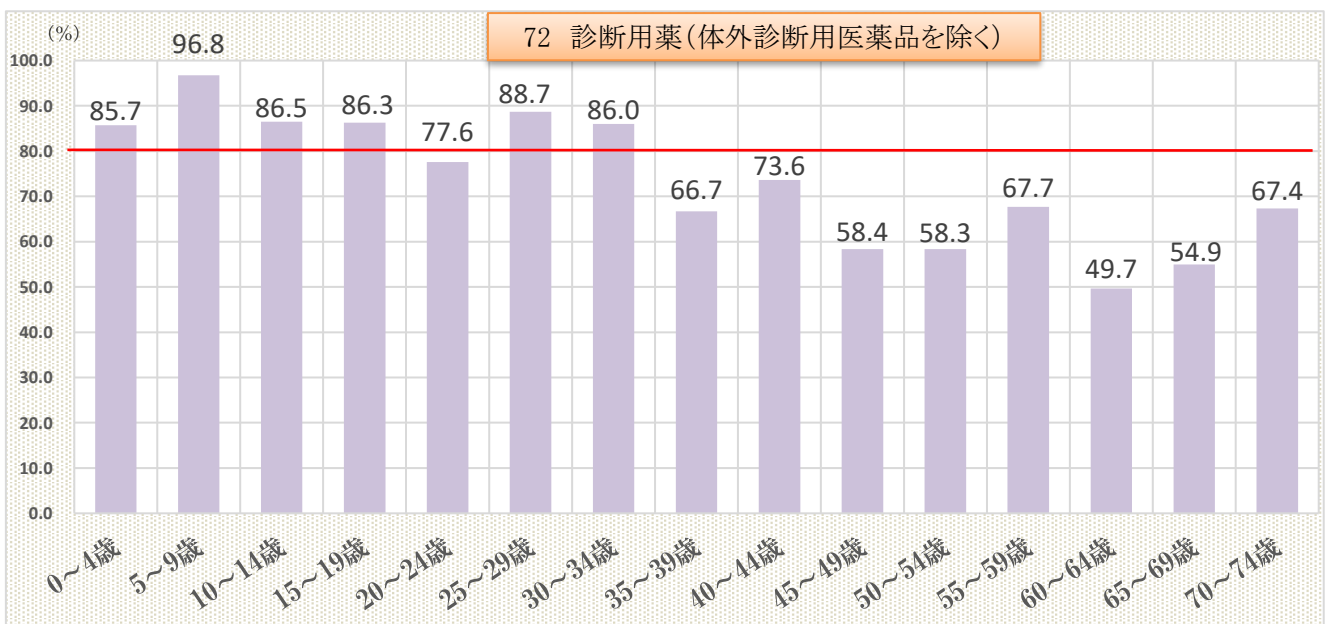
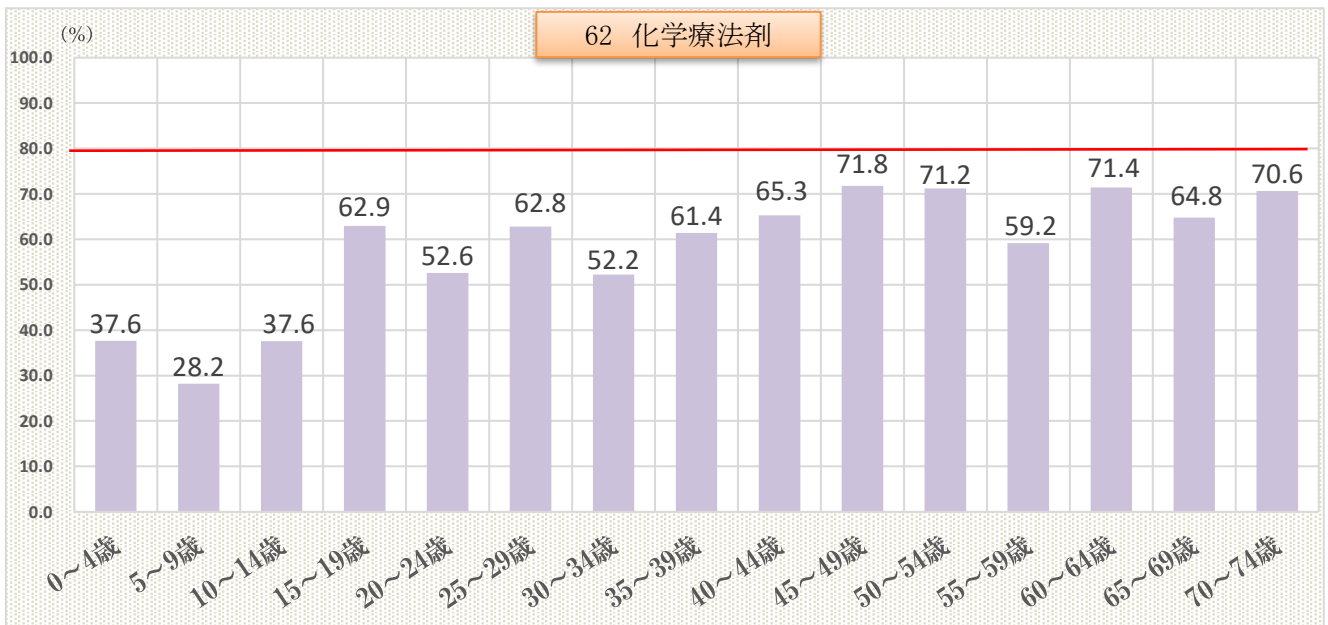
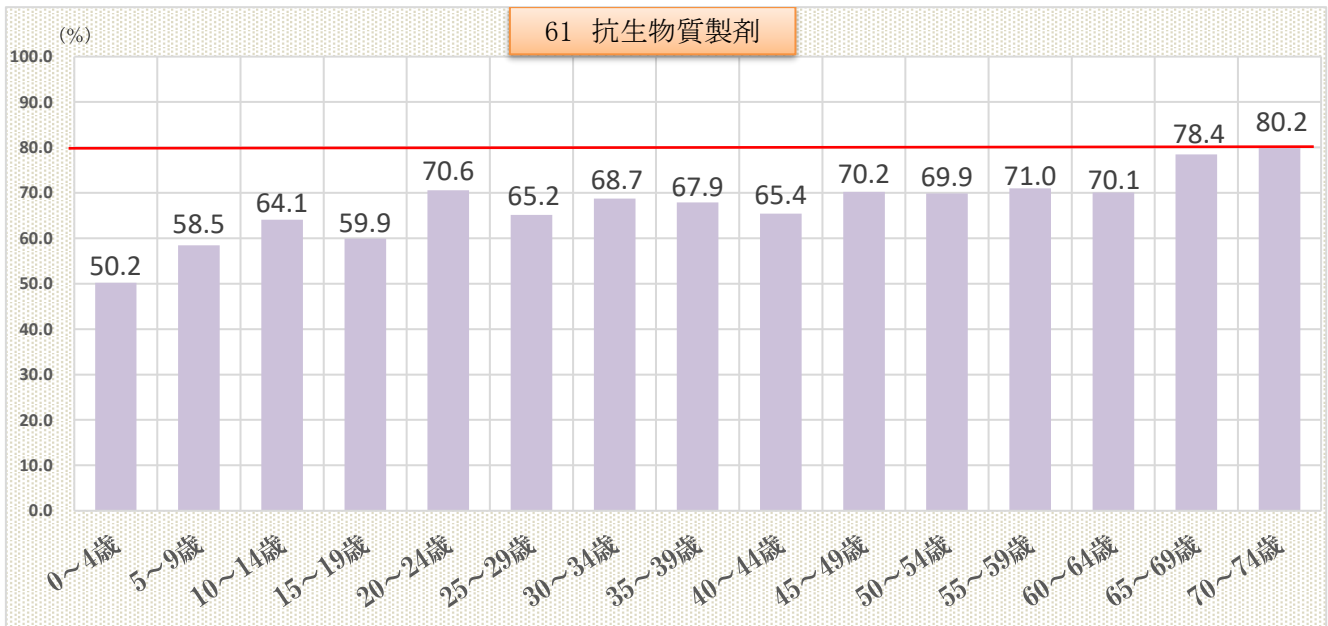
## 年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



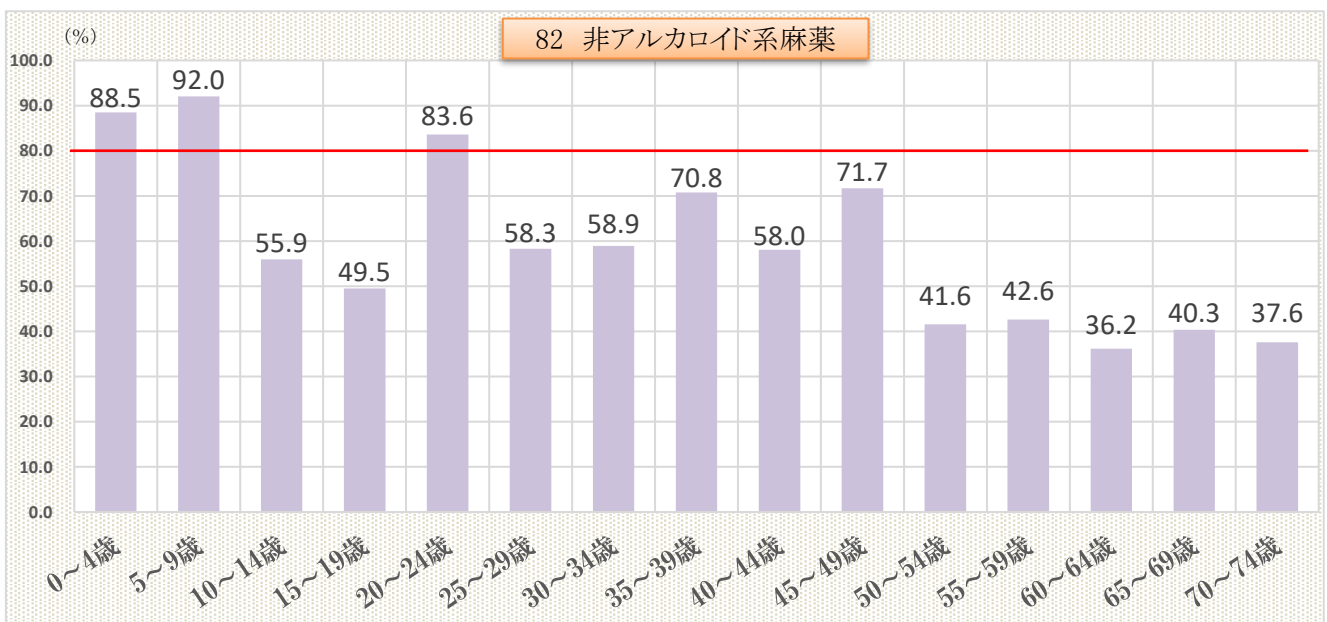
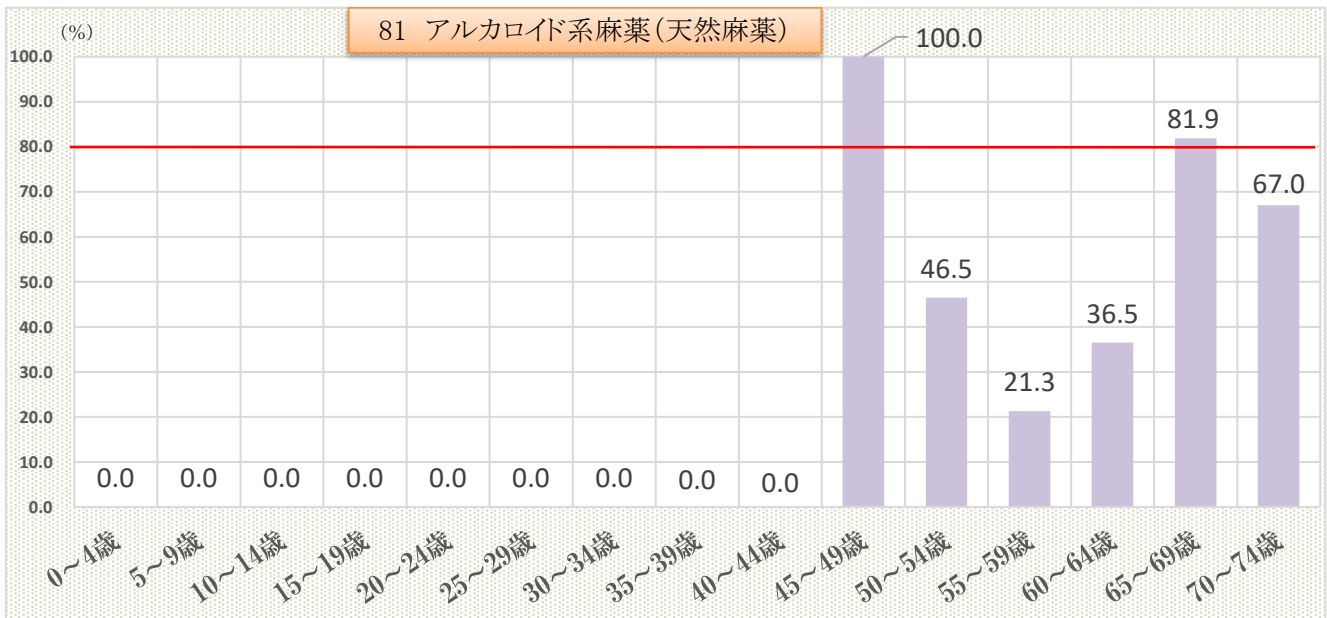
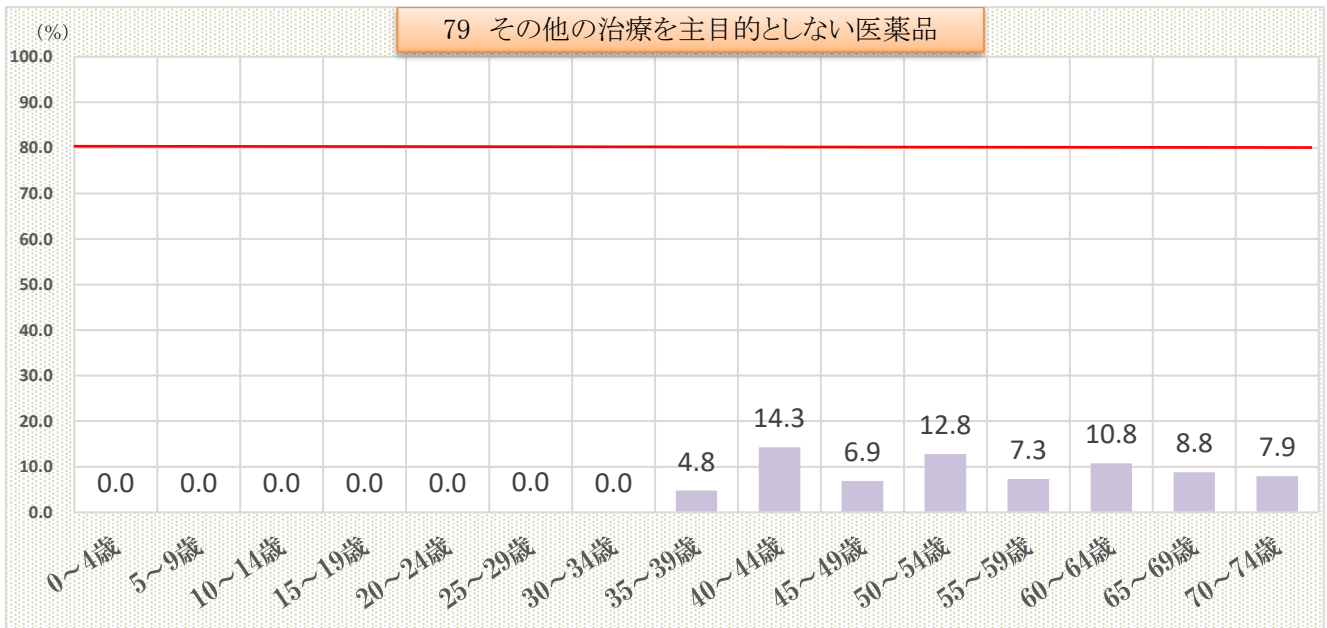
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



年齢階級別の使用割合

資料No.2-1

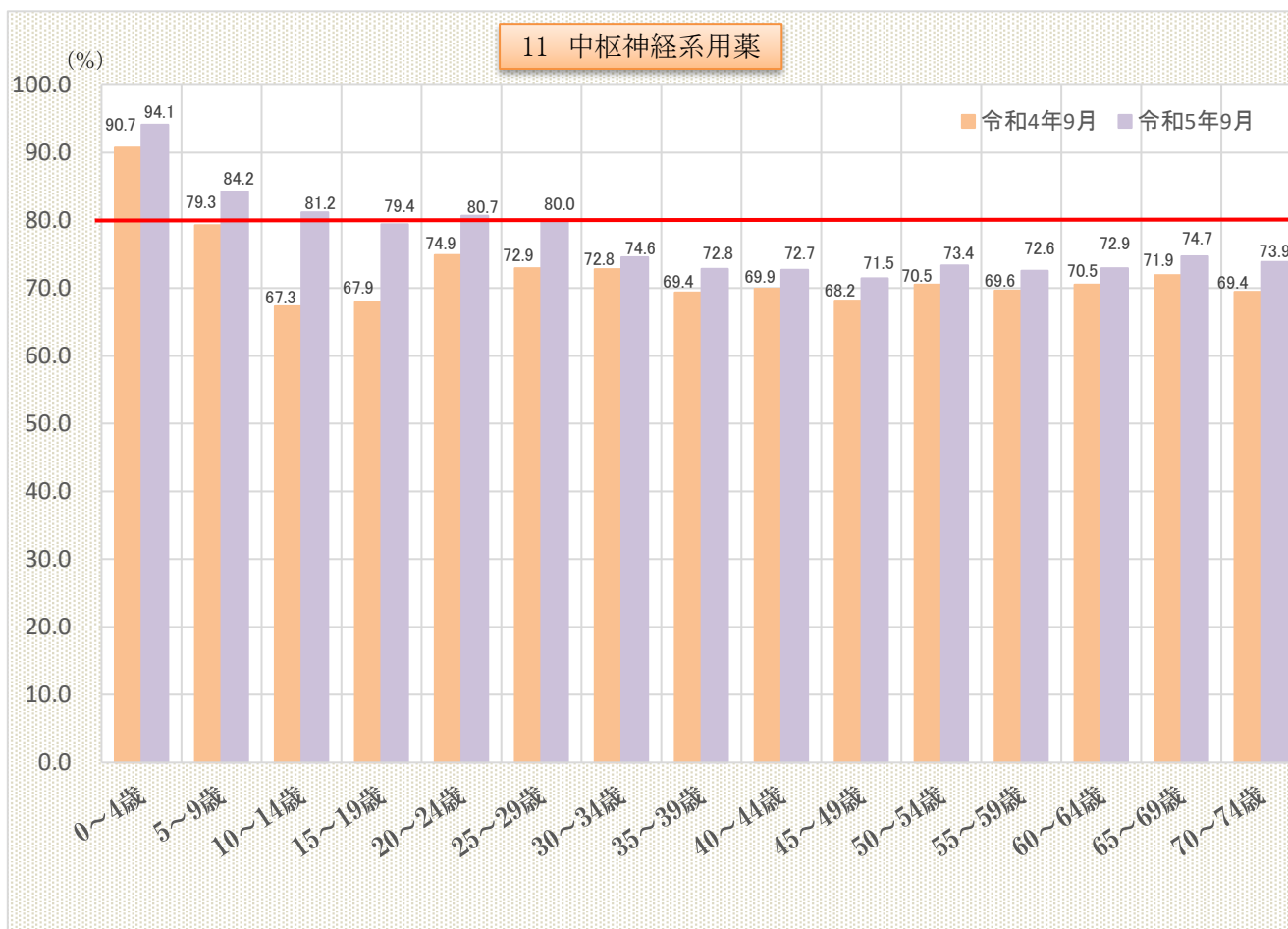
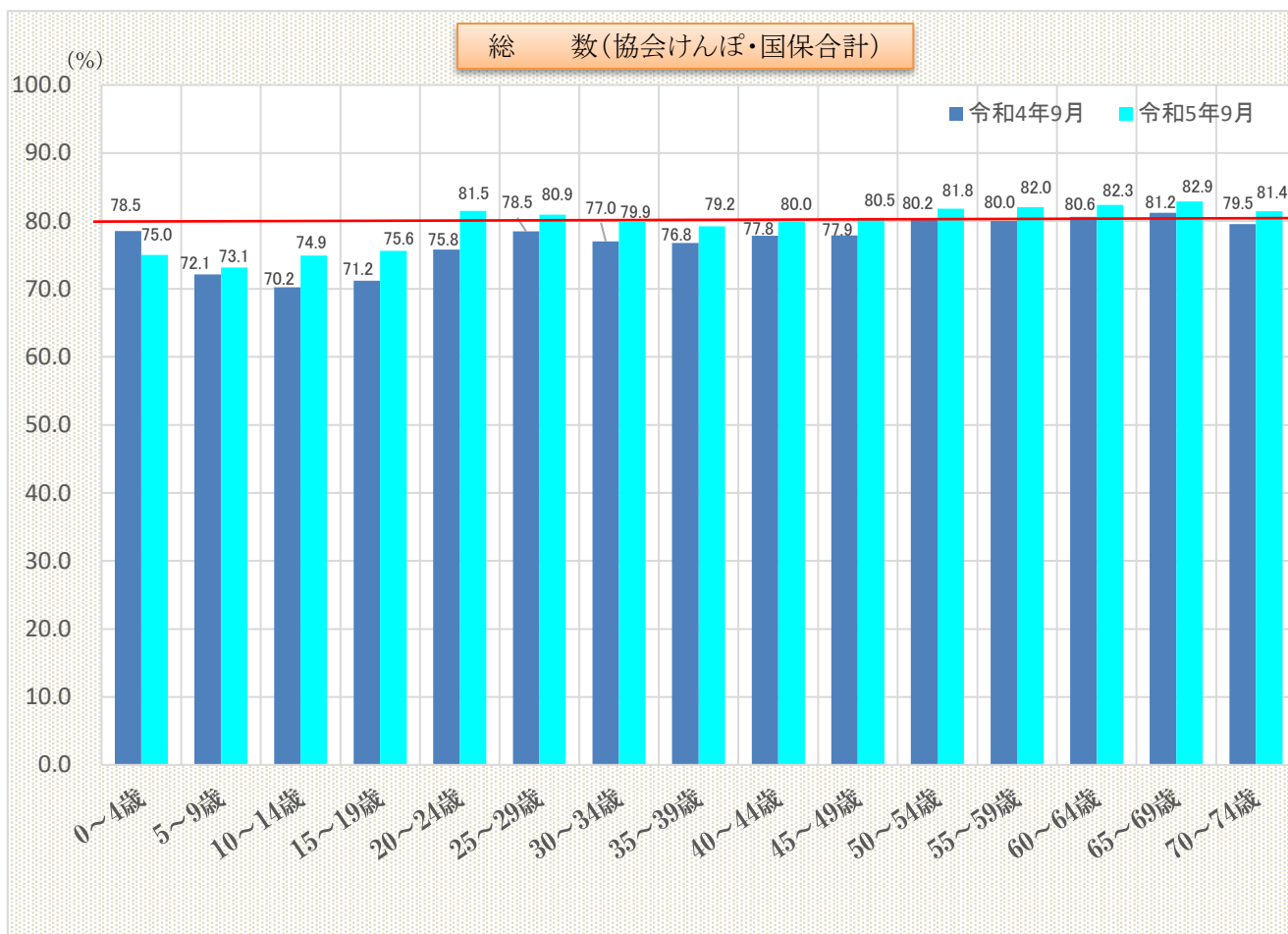


## 年齢階級別の使用割合

薬効分類別	0歳から4歳	5歳から9歳	10歳から14歳	15歳から19歳	20歳から24歳	25歳から29歳	30歳から34歳	35歳から39歳	40歳から44歳	45歳から49歳	50歳から54歳	55歳から59歳	60歳から64歳	65歳から69歳	70歳から74歳
	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)
総数	75.0	73.1	74.9	75.6	81.5	80.9	79.9	79.2	80.0	80.5	81.8	82.0	82.3	82.9	81.4
11 中枢神経系用薬	94.1	84.2	81.2	79.4	80.7	80.0	74.6	72.8	72.7	71.5	73.4	72.6	72.9	74.7	73.9
12 末梢神経系用薬	73.0	85.4	50.6	64.8	72.9	76.4	70.6	70.0	70.9	69.4	67.0	68.6	65.3	62.1	59.9
13 感覚器用薬	66.0	54.6	54.8	56.2	68.2	73.0	62.5	67.7	79.3	70.2	61.9	70.2	63.5	69.4	65.6
19 その他の神経系及び感覚器用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21 循環器用薬	95.0	44.8	50.0	58.7	91.1	83.2	90.9	88.5	86.2	87.4	88.4	88.7	88.0	87.7	85.7
22 呼吸器用薬	77.6	75.7	83.8	84.6	87.3	86.7	87.5	85.8	84.9	84.5	85.0	81.3	81.3	84.9	83.8
23 消化器用薬	83.6	87.8	90.8	89.1	89.6	88.4	84.5	87.0	87.4	86.9	87.5	86.7	86.7	87.0	85.6
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	15.9	31.7	61.5	86.6	90.2	91.7	89.2	90.9	90.3	88.8	78.3	68.6	64.4	64.2	64.7
25 泌尿生殖器用及び肛門用薬	87.3	71.2	76.4	63.7	88.9	82.9	93.4	93.3	88.5	88.4	85.4	88.4	87.9	90.0	87.9
26 外皮用薬	56.1	54.6	60.4	56.2	56.3	58.8	66.5	65.2	64.8	65.7	68.3	69.3	68.8	68.1	67.0
27 歯科口腔用薬	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	97.6	99.0	96.4	98.2	96.2	96.8	84.4	92.5	94.8	93.3
29 その他の個々の器官系用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
31 ビタミン剤	100.0	78.1	82.9	94.5	97.9	94.3	95.1	93.7	90.4	91.6	100.0	95.6	62.7	30.7	35.2
32 滋養強壮薬	99.2	98.7	76.3	88.1	63.3	71.2	56.5	61.0	71.3	79.5	90.9	90.8	88.6	87.7	86.2
33 血液・体液用薬	86.5	83.1	82.0	78.6	87.6	88.6	87.3	87.4	89.8	89.5	88.4	88.1	85.3	84.5	82.2
34 人工透析用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	30.7	—
39 その他の代謝性医薬品	48.4	59.4	57.5	71.4	86.8	84.7	85.8	81.6	87.2	85.3	86.2	84.6	86.1	85.1	84.5
41 細胞賦活用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
42 腫瘍用薬	—	—	100.0	—	—	52.9	84.8	75.9	90.4	85.6	83.5	83.2	87.9	86.4	88.6
43 放射性医薬品	—	—	—	—	—	—	—	0.0	—	—	—	0.0	0.0	0.0	4.0
44 アレルギーマネジメント用薬	68.0	68.9	69.9	77.8	83.9	81.0	85.9	82.7	80.9	80.3	82.0	80.1	81.2	79.7	76.6
49 その他の組織細胞機能用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	50.2	58.5	64.1	59.9	70.6	65.2	68.7	67.9	65.4	70.2	69.9	71.0	70.1	78.4	80.2
62 化学療法剤	37.6	28.2	37.6	62.9	52.6	62.8	52.2	61.4	65.3	71.8	71.2	59.2	71.4	64.8	70.6
63 生物学的製剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
64 寄生動物用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
71 調剤用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	85.7	96.8	86.5	86.3	77.6	88.7	86.0	66.7	73.6	58.4	58.3	67.7	49.7	54.9	67.4
73 公衆衛生用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない医薬品	—	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	14.3	6.9	12.8	7.3	10.8	8.8	7.9
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	46.5	21.3	36.5	81.9	67.0
82 非アルカロイド系麻薬	88.5	92.0	55.9	49.5	83.6	58.3	58.9	70.8	58.0	71.7	41.6	42.6	36.2	40.3	37.6

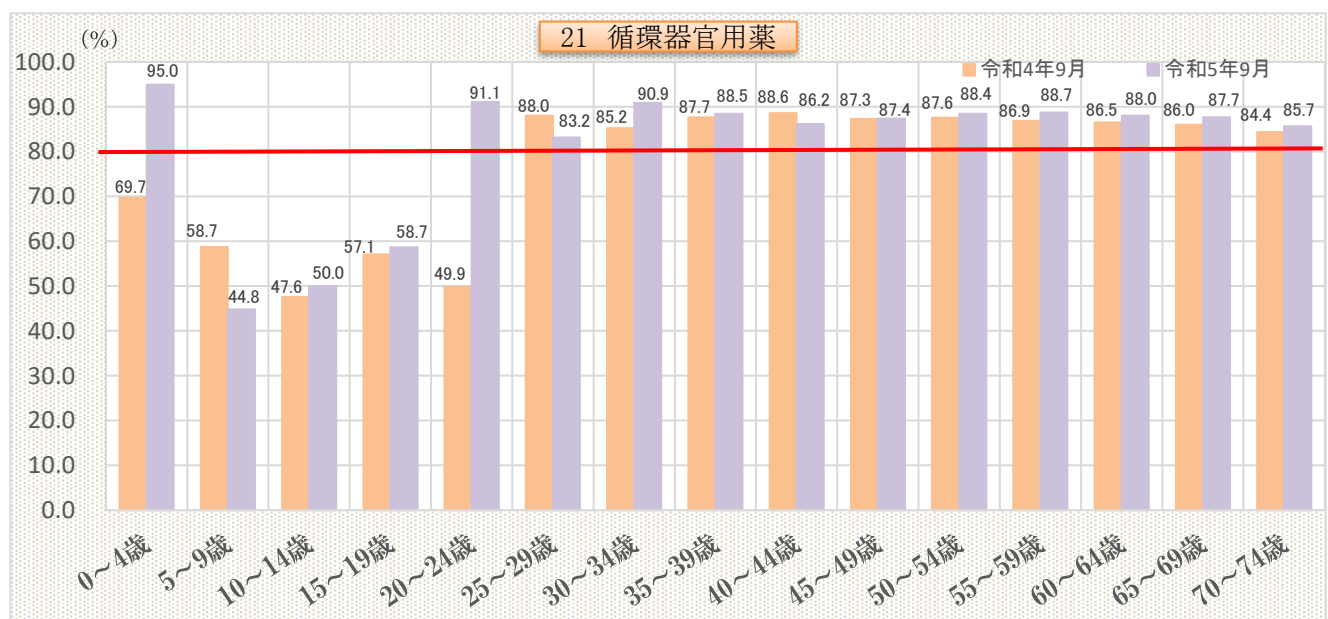
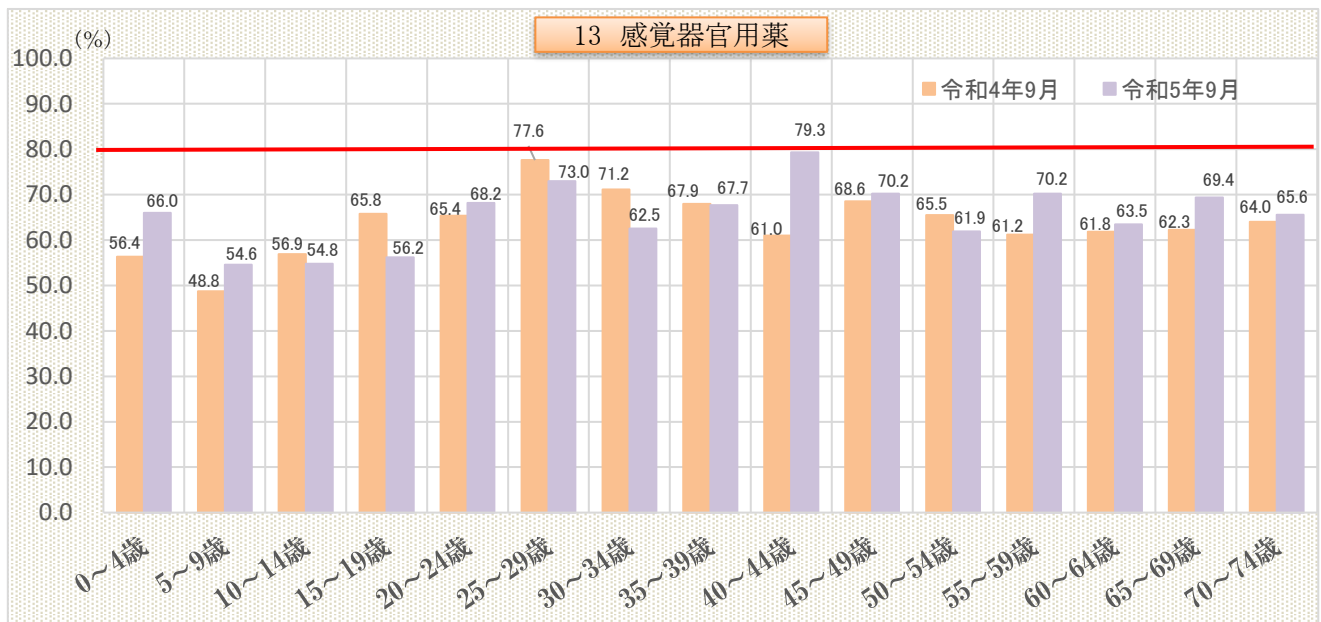
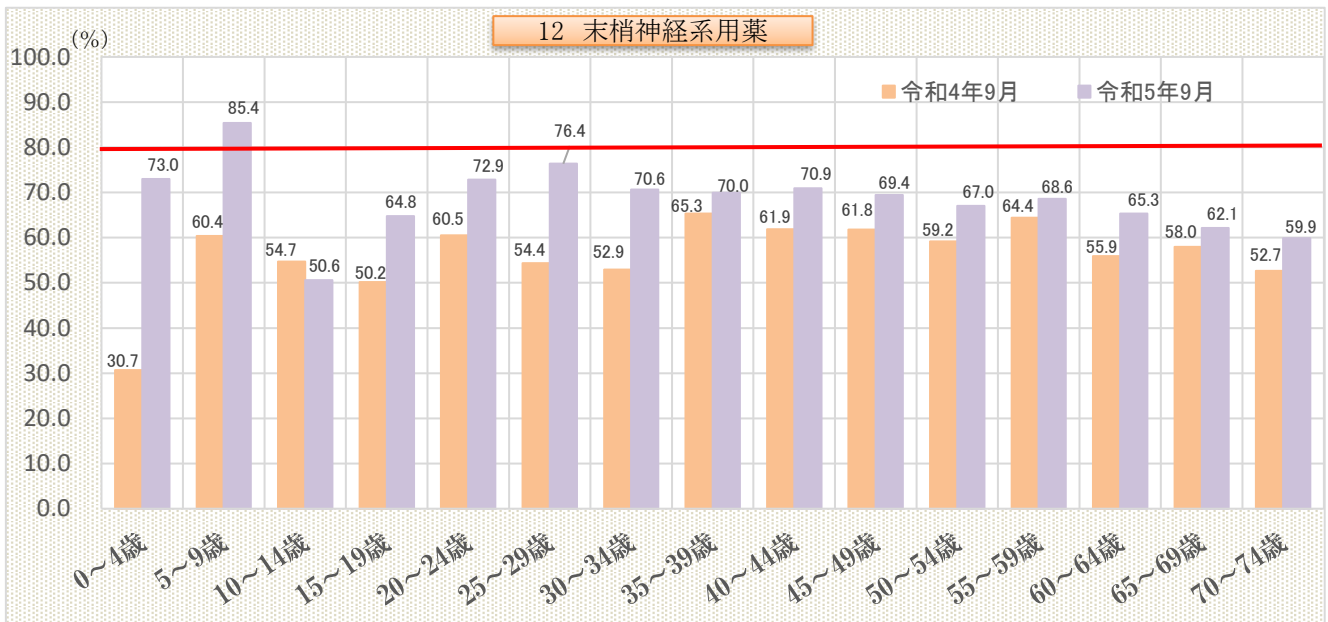
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



年齢階級別の使用割合(前年度比較)

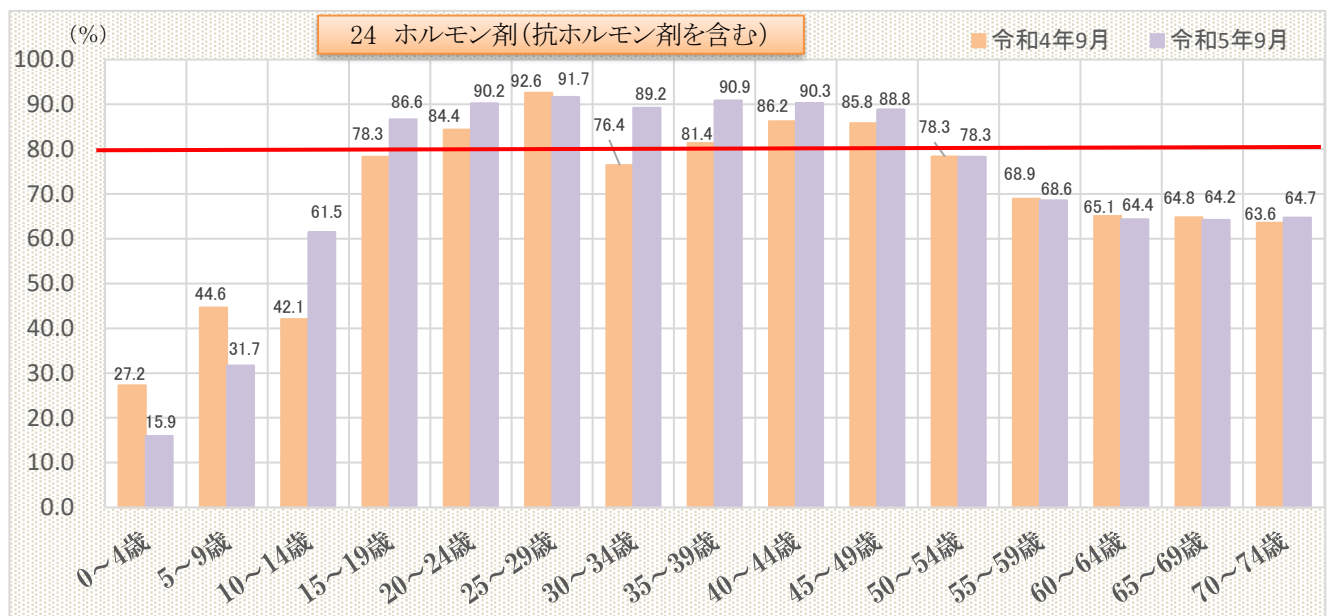
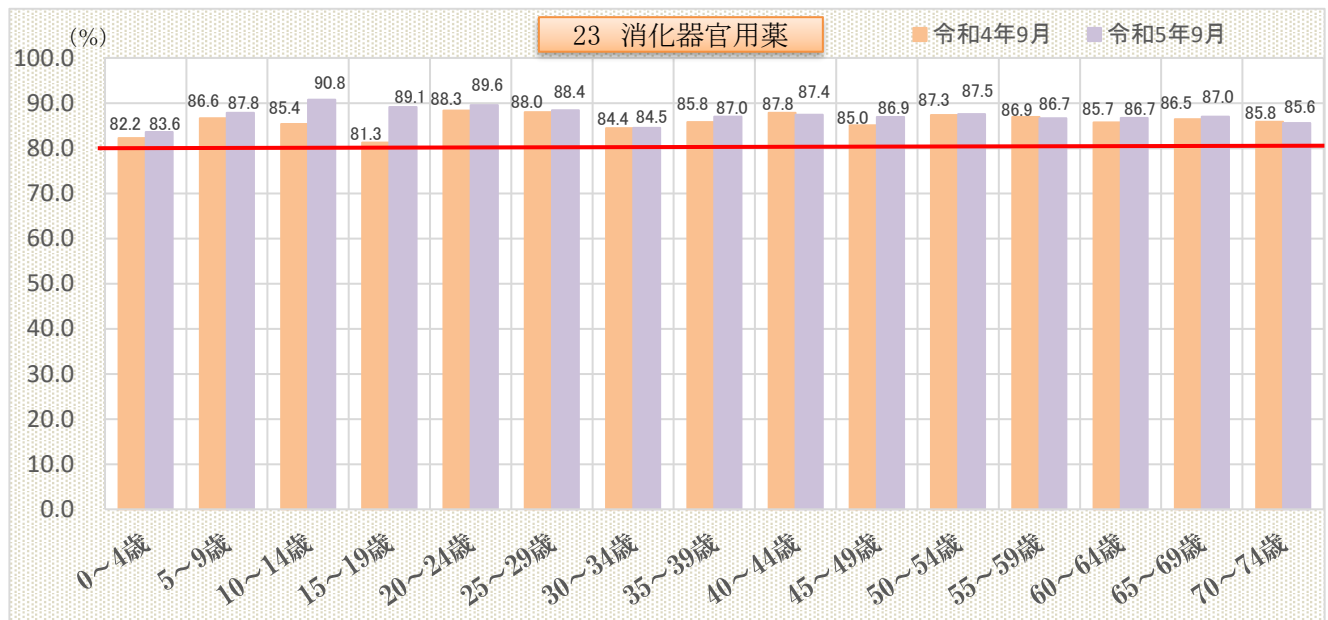
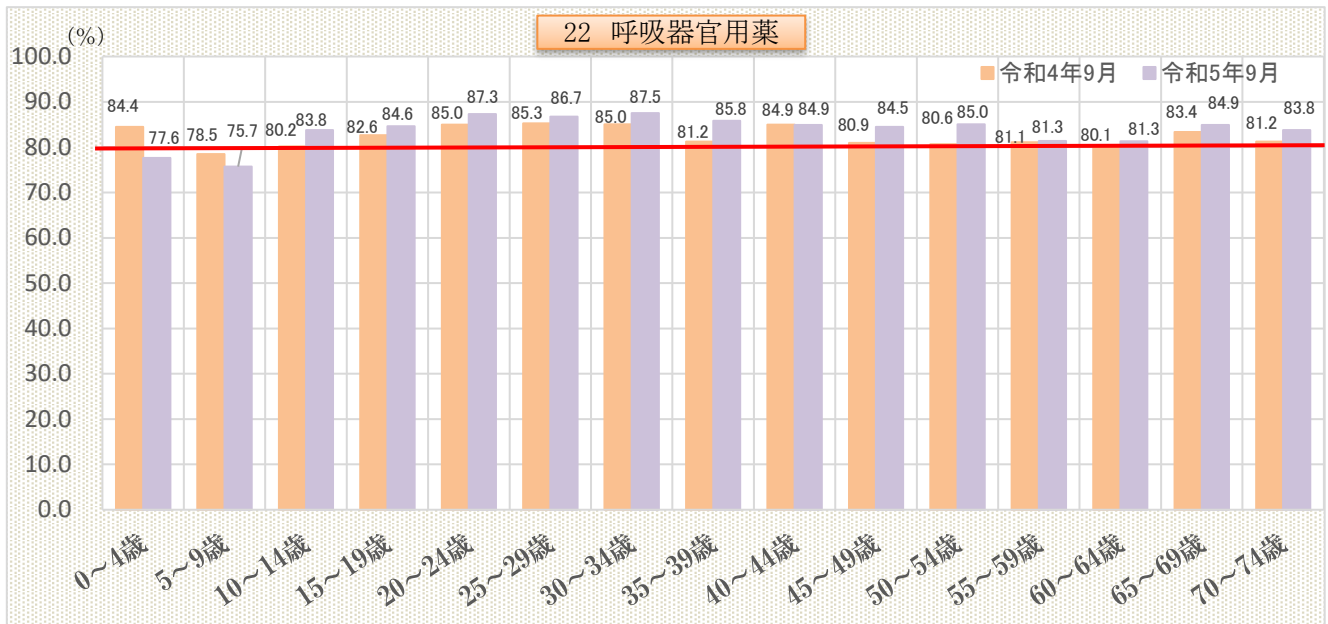
資料No.2-3





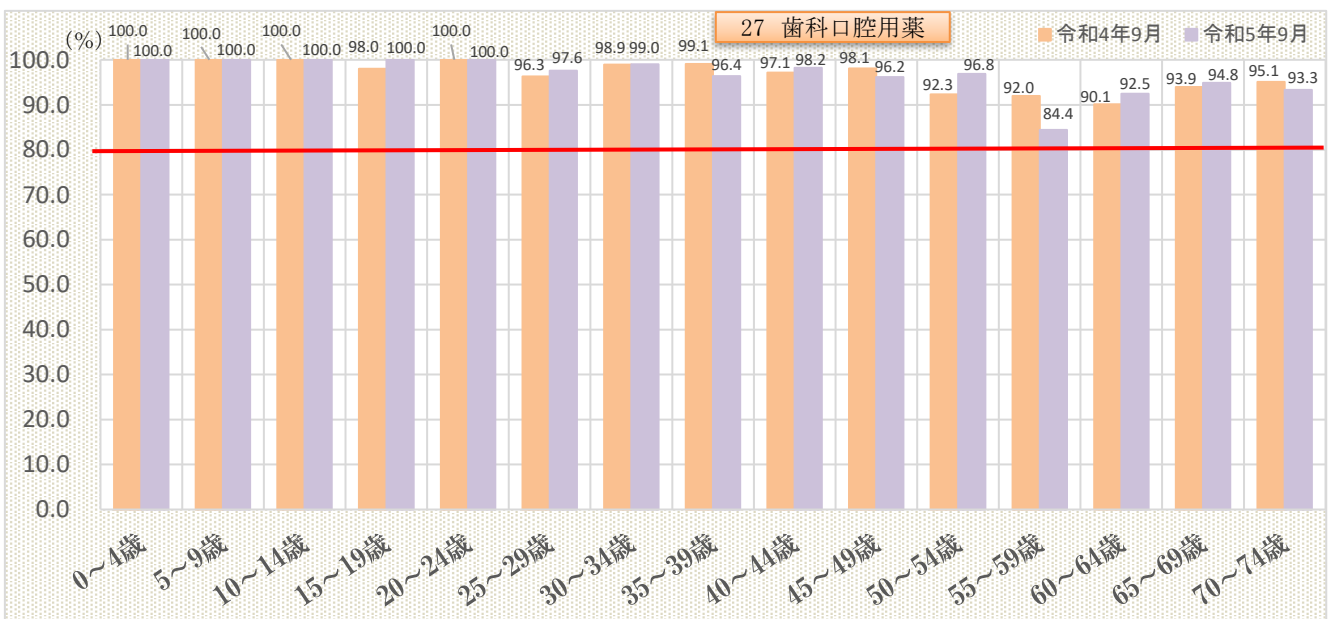
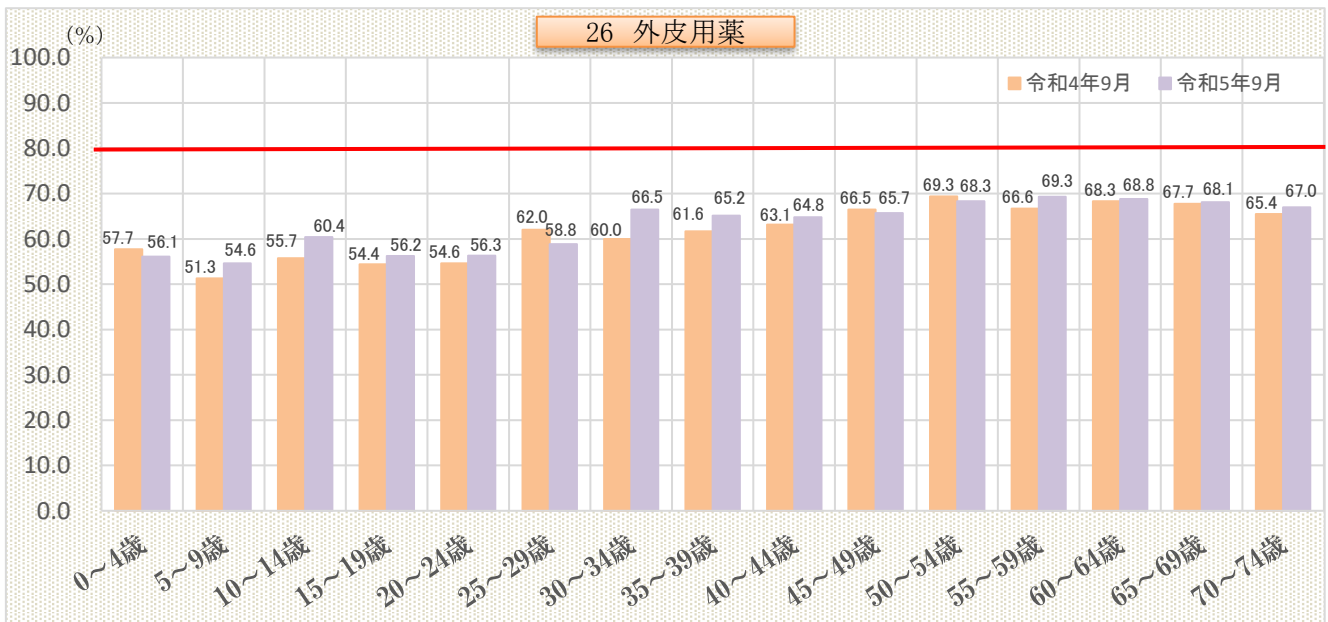
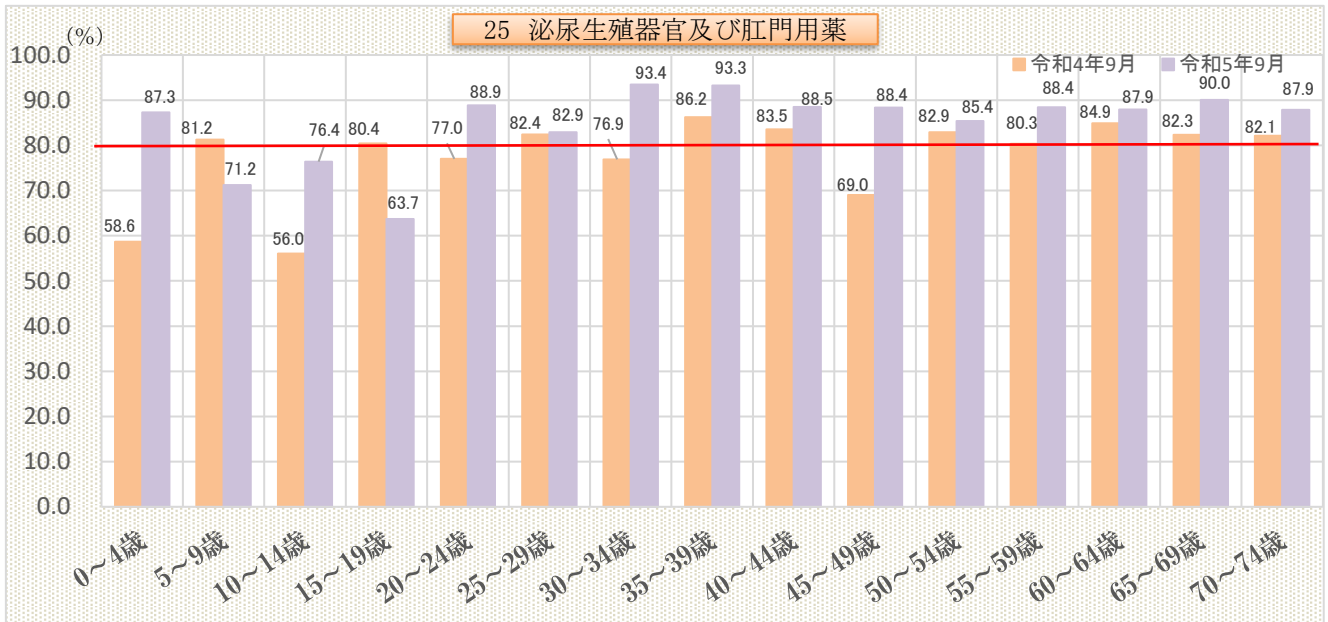
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



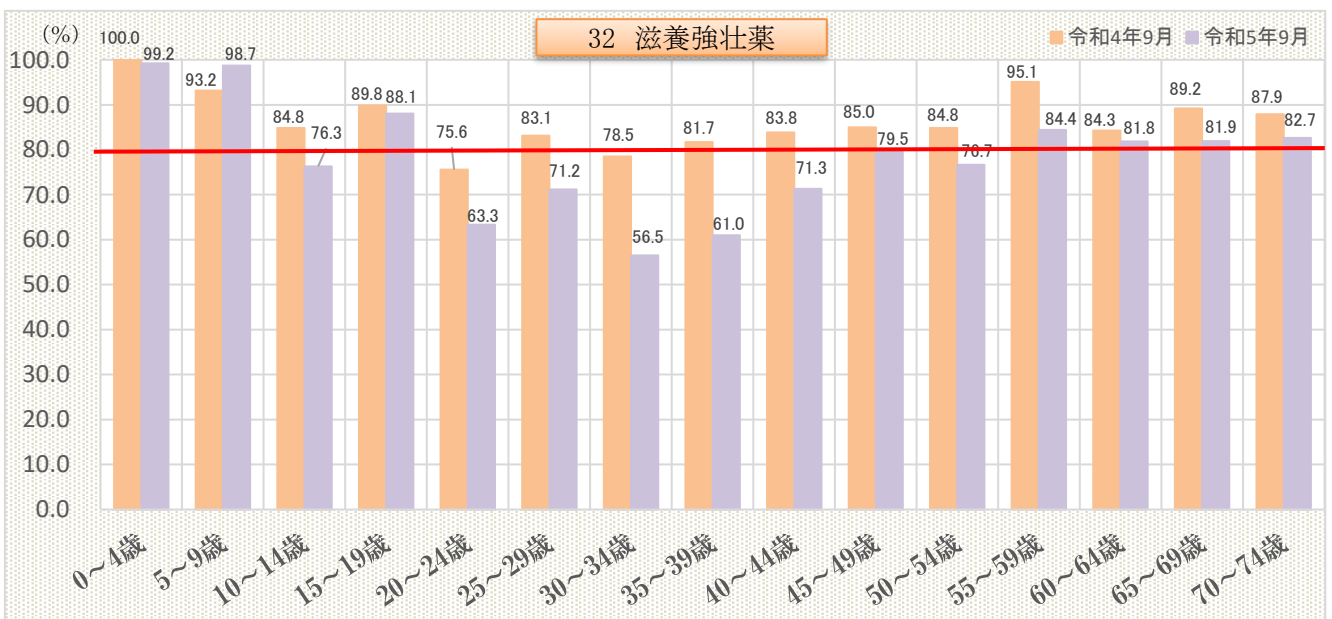
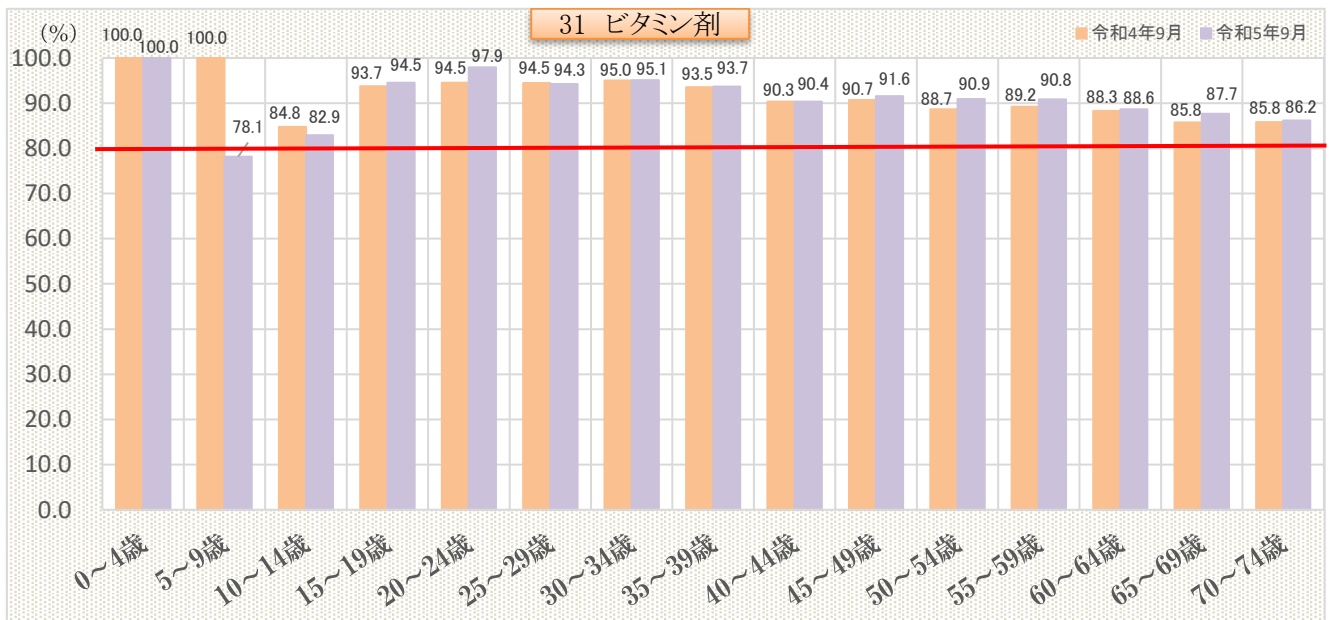
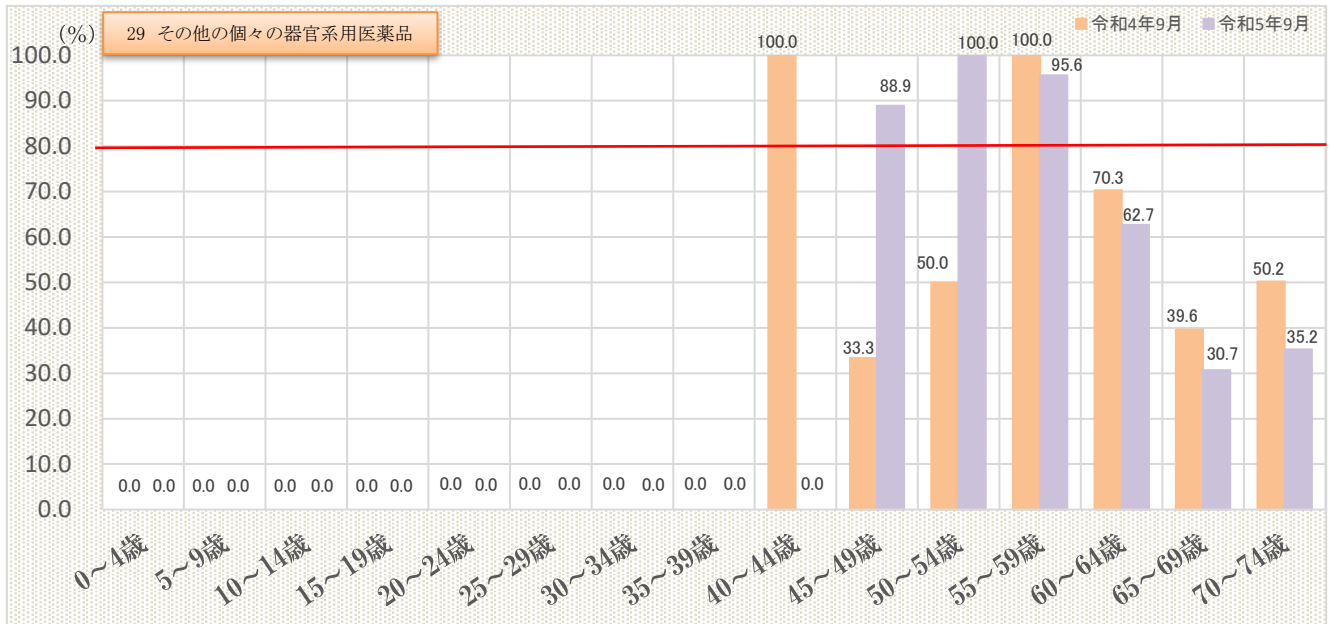
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



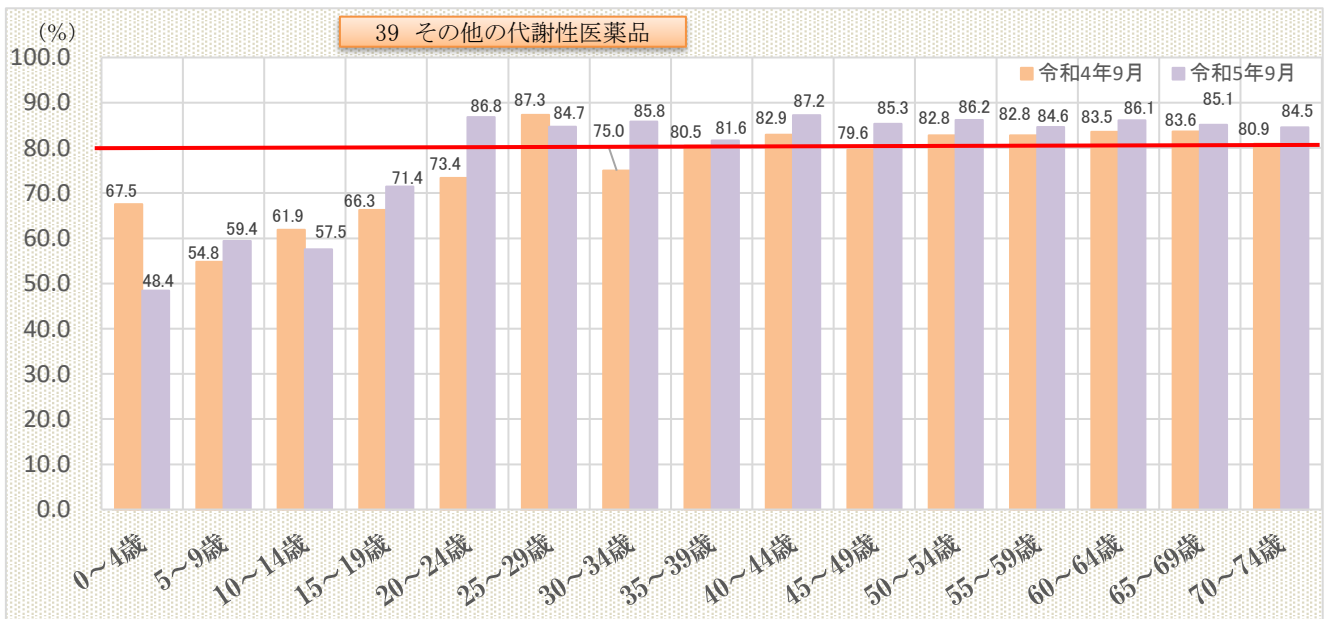
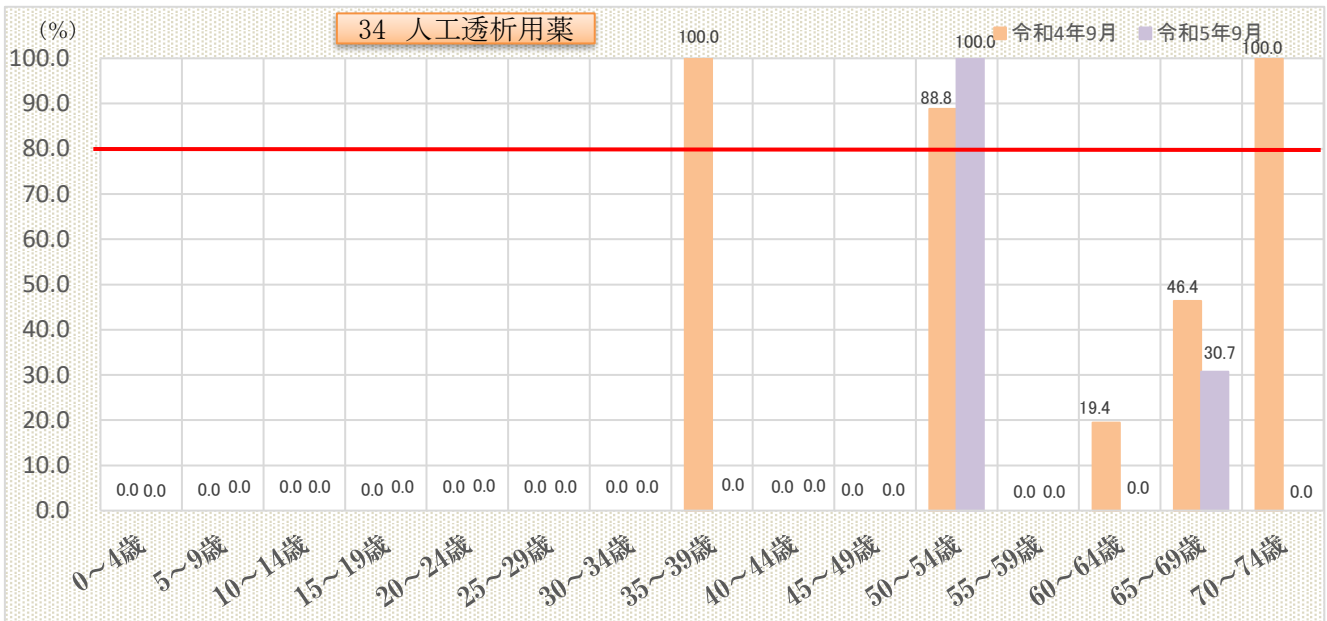
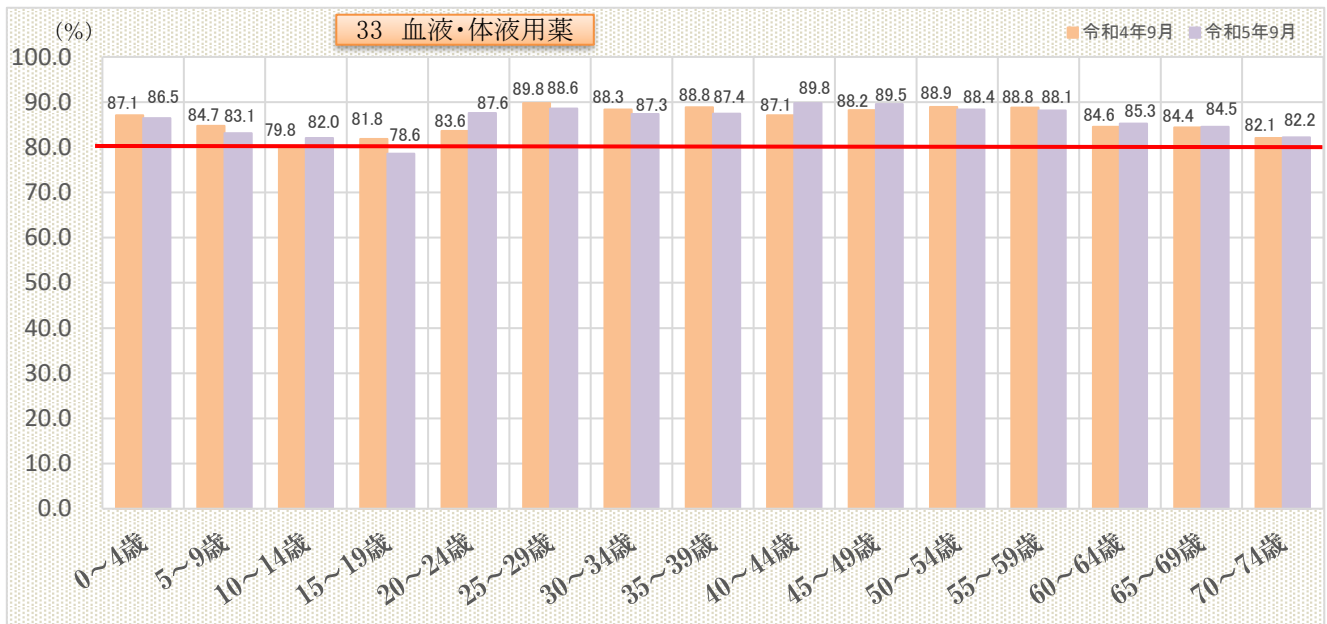
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



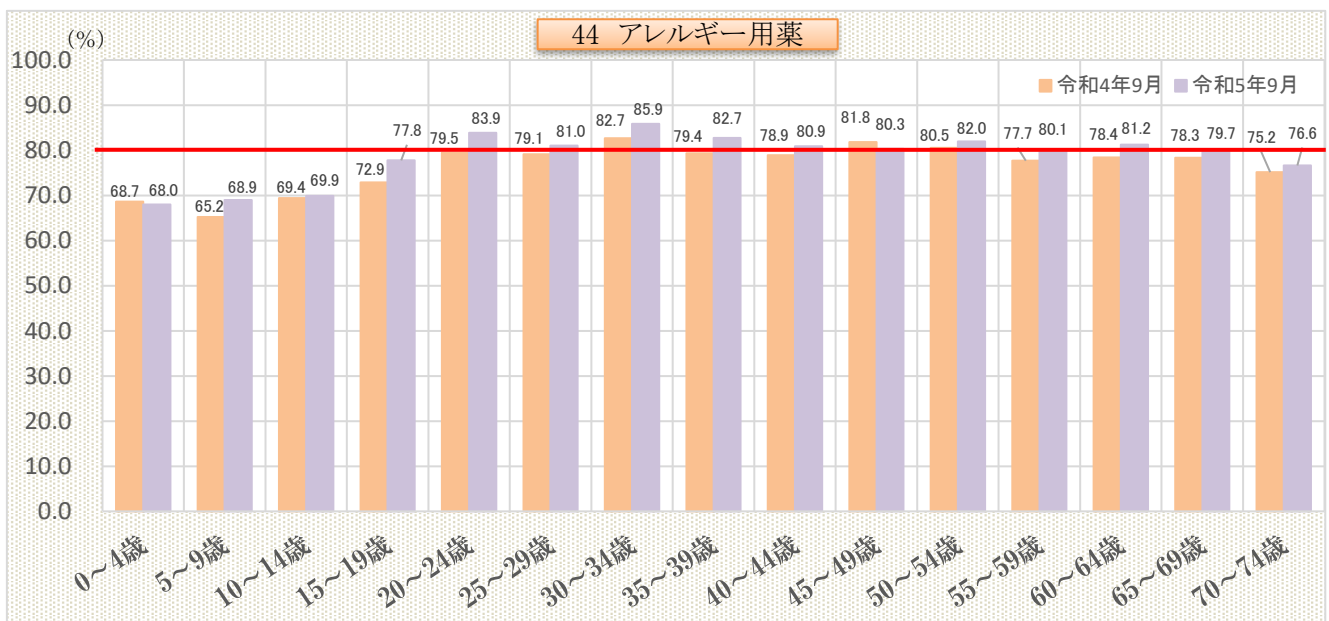
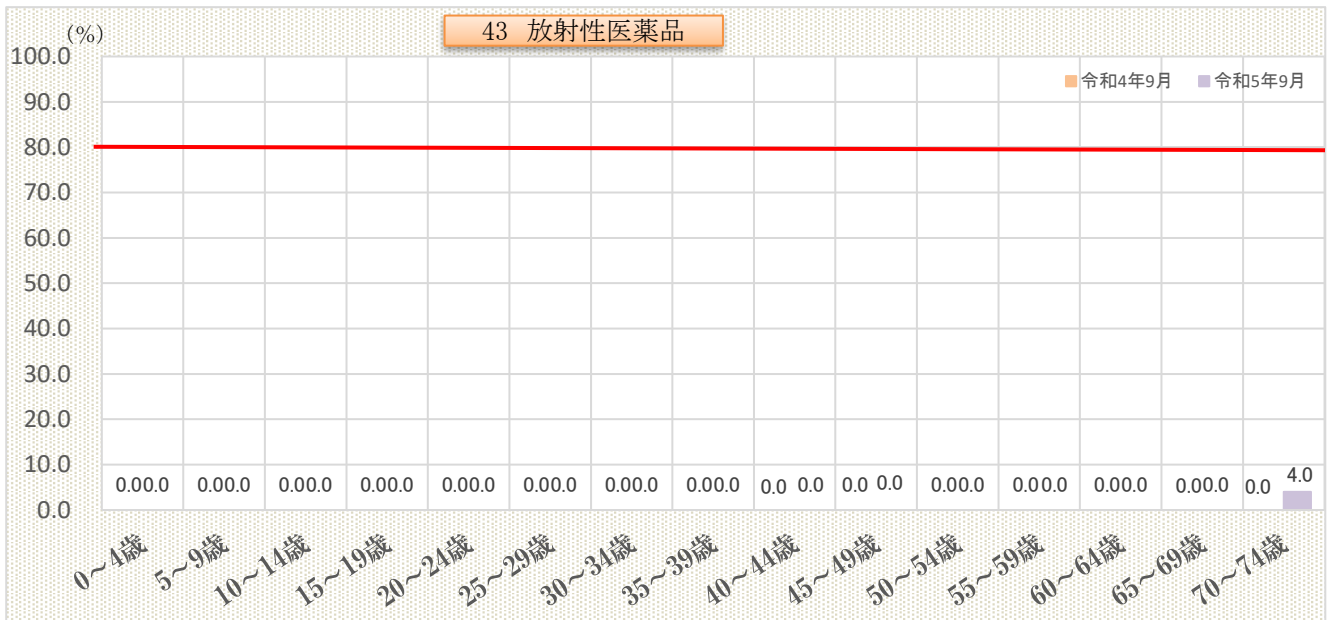
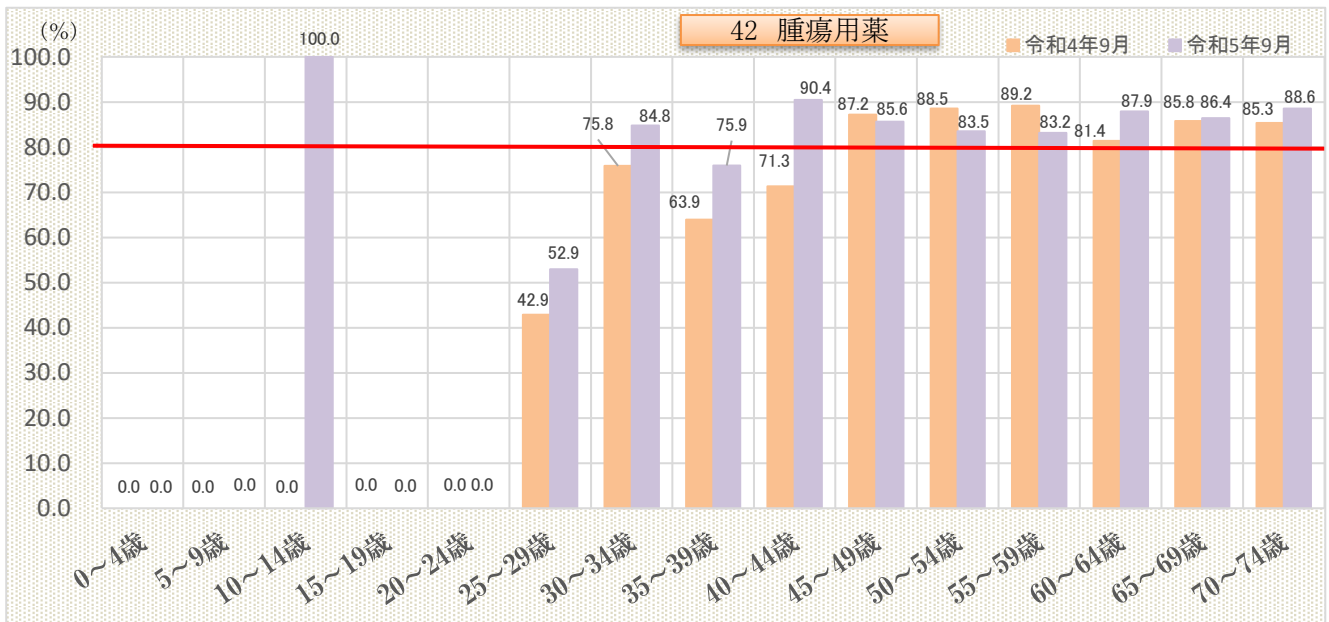
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



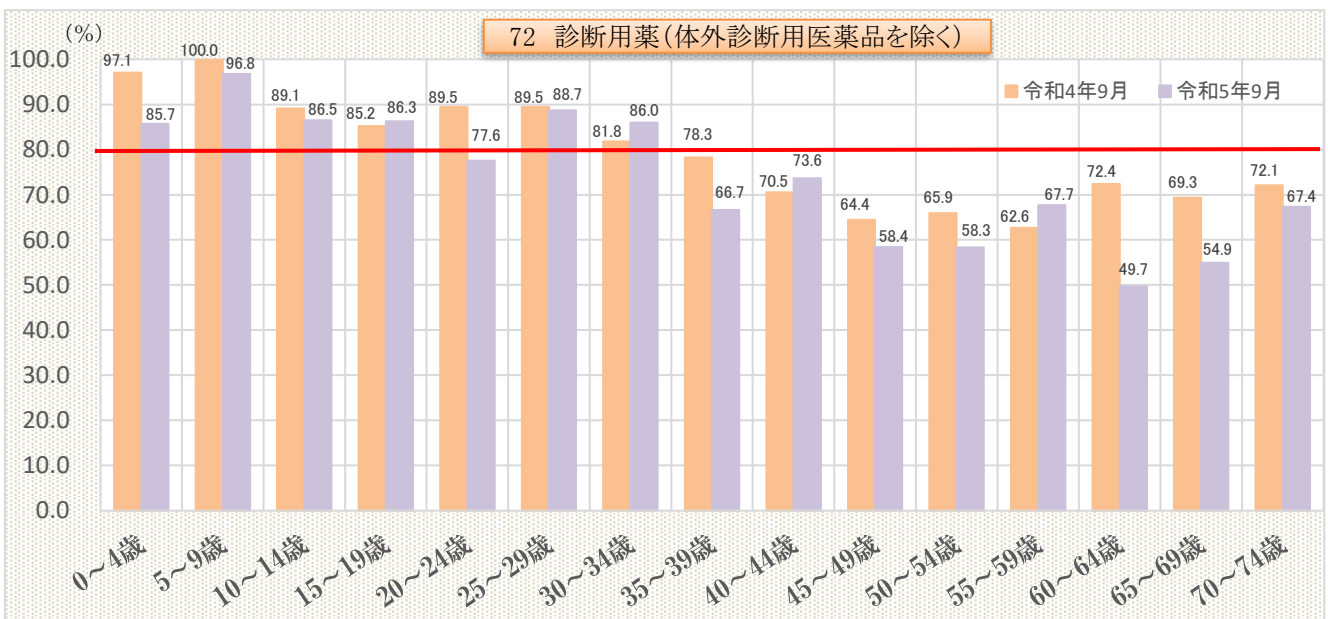
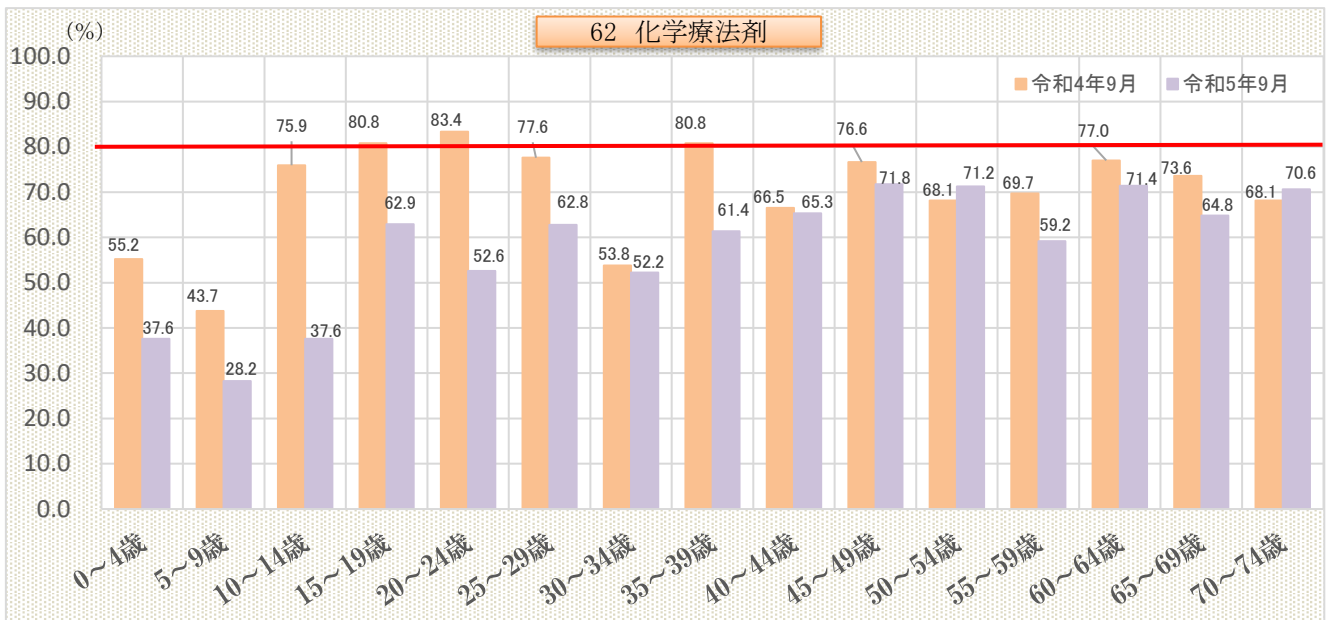
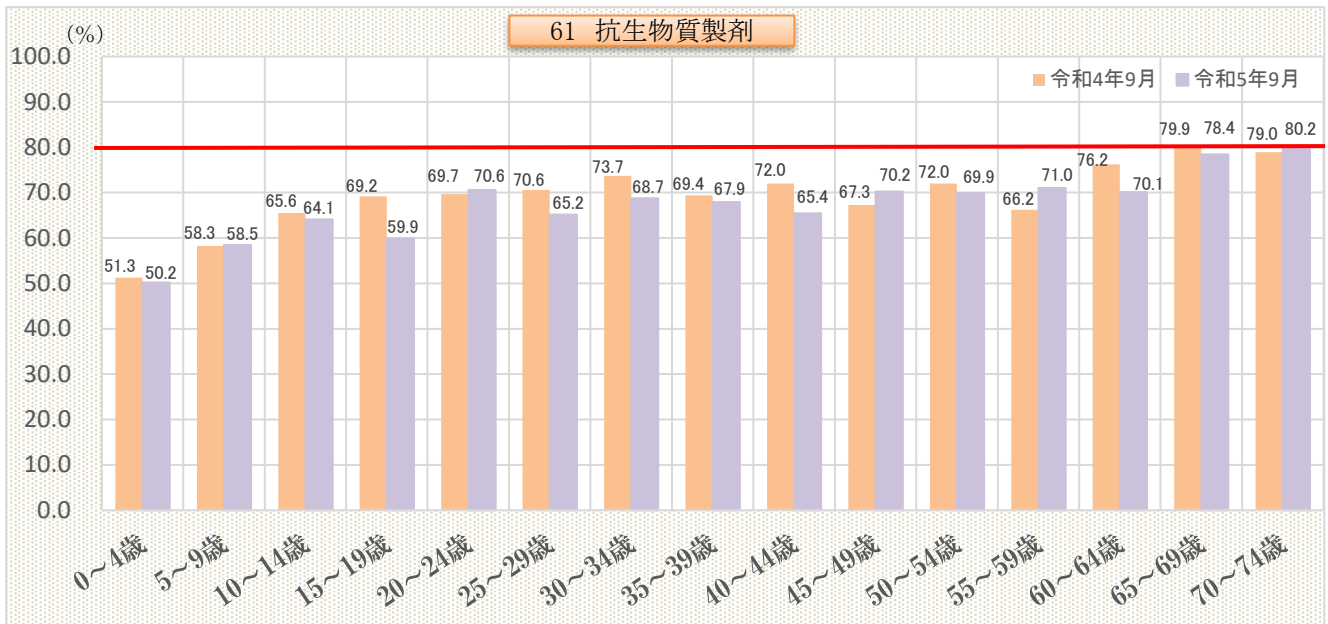
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



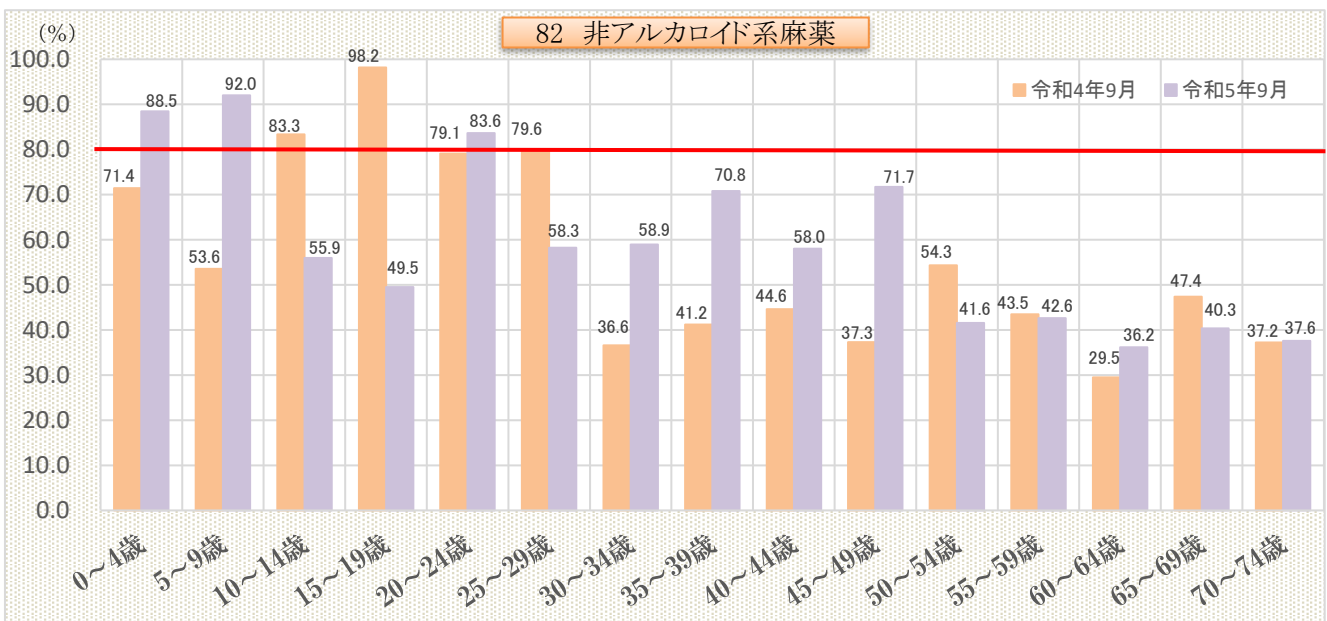
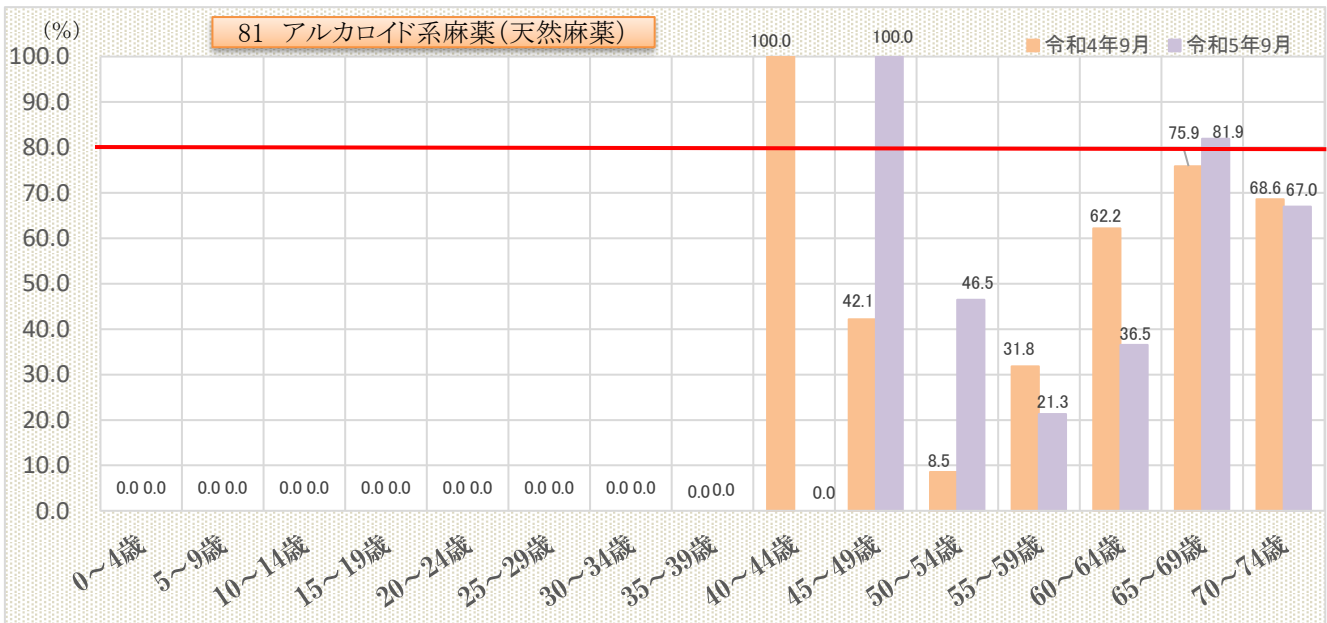
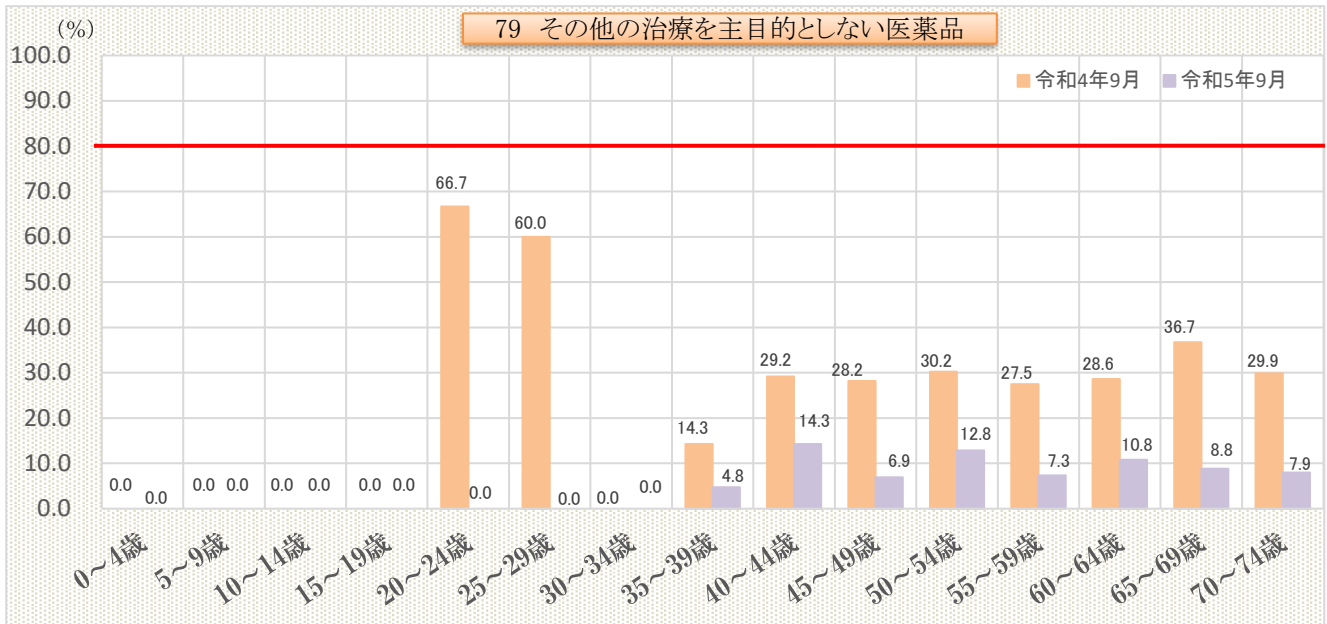
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



## 年齢階級別の使用割合(対前年度比)

薬効分類別	診療月	0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)		
総数	令和4年9月	78.5	72.1	70.2	71.2	75.8	78.5	77.0	76.8	77.8	77.9	80.2	80.0	80.6	81.2	81.4	79.5	
	令和5年9月	75.0	73.1	74.9	75.6	81.5	80.9	79.9	79.2	80.0	80.5	81.8	82.0	82.3	82.9	82.9	81.4	81.4
	差	△ 3.5	1.0	4.7	4.4	5.7	2.4	2.9	2.4	2.2	2.6	1.6	2.0	1.7	1.7	1.7	1.9	1.9
11 中枢神経系用薬	令和4年9月	90.7	79.3	67.3	67.9	74.9	72.9	72.8	69.4	69.9	68.2	70.5	69.6	70.5	71.9	71.9	69.4	69.4
	令和5年9月	94.1	84.2	81.2	79.4	80.7	80.0	74.6	72.8	72.7	71.5	73.4	72.6	72.9	74.7	74.7	73.9	73.9
	差	3.4	4.9	13.9	11.5	5.8	7.1	1.8	3.4	2.8	3.3	2.9	3.0	2.4	2.8	2.8	4.5	4.5
12 末梢神経系用薬	令和4年9月	30.7	60.4	54.7	50.2	60.5	54.4	52.9	65.3	61.9	61.8	59.2	64.4	55.9	58.0	58.0	52.7	52.7
	令和5年9月	73.0	85.4	50.6	64.8	72.9	76.4	70.6	70.0	70.9	69.4	67.0	68.6	65.3	62.1	62.1	59.9	59.9
	差	42.3	25.0	△ 4.1	14.6	12.4	22.0	17.7	4.7	9.0	7.6	7.8	4.2	9.4	4.1	4.1	7.2	7.2
13 感覚器用薬	令和4年9月	56.4	48.8	56.9	65.8	65.4	77.6	71.2	67.9	61.0	68.6	65.5	61.2	61.8	62.3	62.3	64.0	64.0
	令和5年9月	66.0	54.6	54.8	56.2	68.2	73.0	62.5	67.7	79.3	70.2	61.9	70.2	63.5	69.4	69.4	65.6	65.6
	差	9.6	5.8	△ 2.1	△ 9.6	2.8	△ 4.6	△ 8.7	△ 0.2	18.3	1.6	△ 3.6	9.0	1.7	7.1	7.1	1.6	1.6
19 その他の神経系及び 感覚器用医薬品	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21 循環器用薬	令和4年9月	69.7	58.7	47.6	57.1	49.9	88.0	85.2	87.7	88.6	87.3	87.6	86.9	86.5	86.0	86.0	84.4	84.4
	令和5年9月	95.0	44.8	50.0	58.7	91.1	83.2	90.9	88.5	86.2	87.4	88.4	88.7	88.0	87.7	87.7	85.7	85.7
	差	25.3	△ 13.9	2.4	1.6	41.2	△ 4.8	5.7	0.8	△ 2.4	0.1	0.8	1.8	1.5	1.7	1.7	1.3	1.3
22 呼吸器用薬	令和4年9月	84.4	78.5	80.2	82.6	85.0	85.3	85.0	81.2	84.9	80.9	80.6	81.1	80.1	83.4	83.4	81.2	81.2
	令和5年9月	77.6	75.7	83.8	84.6	87.3	86.7	87.5	85.8	84.9	84.5	85.0	81.3	81.3	84.9	84.9	83.8	83.8
	差	△ 6.8	△ 2.8	3.6	2.0	2.3	1.4	2.5	4.6	0.0	3.6	4.4	0.2	1.2	1.5	1.5	2.6	2.6
23 消化器用薬	令和4年9月	82.2	86.6	85.4	81.3	88.3	88.0	84.4	85.8	87.8	85.0	87.3	86.9	85.7	86.5	86.5	85.8	85.8
	令和5年9月	83.6	87.8	90.8	89.1	89.6	88.4	84.5	87.0	87.4	86.9	87.5	86.7	86.7	87.0	87.0	85.6	85.6
	差	1.4	1.2	5.4	7.8	1.3	0.4	0.1	1.2	△ 0.4	1.9	0.2	△ 0.2	1.0	0.5	0.5	△ 0.2	△ 0.2
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	令和4年9月	27.2	44.6	42.1	78.3	84.4	92.6	76.4	81.4	86.2	85.8	78.3	68.9	65.1	64.8	64.8	63.6	63.6
	令和5年9月	15.9	31.7	61.5	86.6	90.2	91.7	89.2	90.9	90.3	88.8	78.3	68.6	64.4	64.2	64.2	64.7	64.7
	差	△ 11.3	△ 12.9	19.4	8.3	5.8	△ 0.9	12.8	9.5	4.1	3.0	0.0	△ 0.3	△ 0.7	△ 0.6	1.1	1.1	1.1
25 泌尿生殖器用及び肛門用薬	令和4年9月	58.6	81.2	56.0	80.4	77.0	82.4	76.9	86.2	83.5	69.0	82.9	80.3	84.9	82.3	82.3	82.1	82.1
	令和5年9月	87.3	71.2	76.4	63.7	88.9	82.9	93.4	93.3	88.5	88.4	85.4	88.4	87.9	90.0	87.9	87.9	87.9
	差	28.7	△ 10.0	20.4	△ 16.7	11.9	0.5	16.5	7.1	5.0	19.4	2.5	8.1	3.0	7.7	7.7	5.8	5.8
26 外用薬	令和4年9月	57.7	51.3	55.7	54.4	54.6	62.0	60.0	61.6	63.1	66.5	69.3	66.6	68.3	67.7	67.7	65.4	65.4
	令和5年9月	56.1	54.6	60.4	56.2	56.3	58.8	66.5	65.2	64.8	65.7	68.3	69.3	68.8	68.1	68.1	67.0	67.0
	差	△ 1.6	3.3	4.7	1.8	1.7	△ 3.2	6.5	3.6	1.7	△ 0.8	△ 1.0	2.7	0.5	0.4	0.4	1.6	1.6
27 歯科口腔用薬	令和4年9月	100.0	100.0	100.0	98.0	100.0	96.3	98.9	99.1	97.1	98.1	92.3	92.0	90.1	93.9	93.9	95.1	95.1
	令和5年9月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	97.6	99.0	96.4	98.2	96.2	96.8	84.4	92.5	94.8	94.8	93.3	93.3
	差	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	1.3	0.1	△ 2.7	1.1	△ 1.9	4.5	△ 7.6	2.4	0.9	0.9	△ 1.8	△ 1.8
29 その他の個々の器管系用医薬品	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	33.3	50.0	100.0	70.3	39.6	50.2	50.2	50.2
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	88.9	100.0	95.6	62.7	30.7	35.2	35.2	35.2
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	55.6	50.0	△ 4.4	△ 7.6	△ 8.9	△ 15.0	△ 15.0	△ 15.0
31 ビタミン剤	令和4年9月	100.0	100.0	84.8	93.7	94.5	94.5	95.0	93.5	90.3	90.7	88.7	89.2	88.3	85.8	85.8	86.2	86.2
	令和5年9月	100.0	78.1	82.9	94.5	97.9	94.3	95.1	93.7	90.4	91.6	90.9	90.8	88.6	87.7	87.7	86.2	86.2
	差	0.0	△ 21.9	△ 1.9	0.8	3.4	△ 0.2	0.1	0.2	0.1	0.9	2.2	1.6	0.3	1.9	1.9	0.4	0.4



## 年齢階級別の使用割合(対前年度比)

薬効分類別	診療月	0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)
32 滋養強壮薬	令和4年9月	100.0	93.2	84.8	89.8	83.1	75.6	83.1	78.5	81.7	85.0	84.8	95.1	84.3	89.2	87.9
	令和5年9月	99.2	98.7	76.3	88.1	71.2	63.3	71.2	56.5	61.0	79.5	76.7	84.4	81.8	81.9	82.7
	差	△ 0.8	5.5	△ 8.5	△ 1.7	△ 11.9	△ 12.3	△ 11.9	△ 22.0	△ 20.7	△ 5.5	△ 8.1	△ 10.7	△ 2.5	△ 7.3	△ 5.2
33 血液・体液用薬	令和4年9月	87.1	84.7	79.8	81.8	89.8	83.6	89.8	88.3	88.8	88.2	88.9	88.8	84.6	84.4	82.1
	令和5年9月	86.5	83.1	82.0	78.6	88.6	87.6	88.6	87.3	87.4	89.5	88.4	88.1	85.3	84.5	82.2
	差	△ 0.6	△ 1.6	2.2	△ 3.2	△ 1.2	4.0	△ 1.2	△ 1.0	△ 1.4	2.7	△ 0.5	△ 0.7	0.7	0.1	0.1
34 人工透析用薬	令和4年9月	0.0	—	—	—	—	—	—	—	100.0	0.0	88.8	0.0	19.4	46.4	100.0
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	30.7	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11.2	—	—	—	—
39 その他の代謝性医薬品	令和4年9月	67.5	54.8	61.9	66.3	87.3	73.4	87.3	75.0	80.5	82.9	82.8	82.8	83.5	83.6	80.9
	令和5年9月	48.4	59.4	57.5	71.4	84.7	86.8	84.7	85.8	81.6	87.2	86.2	84.6	86.1	85.1	84.5
	差	△ 19.1	4.6	△ 4.4	5.1	△ 2.6	13.4	△ 2.6	10.8	1.1	4.3	3.4	1.8	2.6	1.5	3.6
41 細胞賦活用薬	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
42 腫瘍用薬	令和4年9月	—	—	0.0	—	42.9	—	42.9	75.8	63.9	87.2	88.5	89.2	81.4	85.8	85.3
	令和5年9月	—	—	100.0	—	52.9	—	52.9	84.8	75.9	90.4	83.5	83.2	87.9	86.4	88.6
	差	—	—	—	—	10.0	—	10.0	9.0	12.0	19.1	△ 5.0	△ 6.0	6.5	0.6	3.3
43 放射性医薬品	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	4.0
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.0
44 アレルギー用薬	令和4年9月	68.7	65.2	69.4	72.9	79.1	79.5	79.1	82.7	79.4	78.9	80.5	77.7	78.4	78.3	75.2
	令和5年9月	68.0	68.9	69.9	77.8	81.0	83.9	81.0	85.9	82.7	80.3	82.0	80.1	81.2	79.7	76.6
	差	△ 0.7	3.7	0.5	4.9	1.9	4.4	1.9	3.2	3.3	2.0	1.5	2.4	2.8	1.4	1.4
49 その他の組織細胞機能用医薬品	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び 漢方処方に基づく医薬品	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	令和4年9月	51.3	58.3	65.6	69.2	70.6	69.7	70.6	73.7	69.4	72.0	72.0	66.2	76.2	79.9	79.0
	令和5年9月	50.2	58.5	64.1	59.9	65.2	70.6	65.2	68.7	67.9	70.2	69.9	71.0	70.1	78.4	80.2
	差	△ 1.1	0.2	△ 1.5	△ 9.3	△ 5.4	0.9	△ 5.4	△ 5.0	△ 1.5	△ 6.6	2.9	△ 2.1	△ 6.1	△ 1.5	1.2
62 化学療法剤	令和4年9月	55.2	43.7	75.9	80.8	83.4	83.4	77.6	53.8	80.8	76.6	68.1	69.7	77.0	73.6	68.1
	令和5年9月	37.6	28.2	37.6	62.9	62.8	52.6	62.8	52.2	61.4	71.8	71.2	59.2	71.4	64.8	70.6
	差	△ 17.6	△ 15.5	△ 38.3	△ 17.9	△ 14.8	△ 30.8	△ 14.8	△ 1.6	△ 19.4	△ 4.8	3.1	△ 10.5	△ 5.6	△ 8.8	2.5

年齢階級別の使用割合(対前年度比)

資料No.2-4

薬効分類別	診療月	0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)	
63 生物学的製剤	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
64 寄生動物用薬	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する 医薬品	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
71 副剤用薬	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	令和4年9月	97.1	100.0	89.1	85.2	89.5	89.5	81.8	78.3	70.5	64.4	65.9	62.6	72.4	69.3	72.1	
	令和5年9月	85.7	96.8	86.5	86.3	88.7	88.7	86.0	66.7	73.6	58.4	58.3	67.7	49.7	54.9	67.4	
	差	△ 11.4	△ 3.2	△ 2.6	1.1	△ 11.9	△ 0.8	4.2	△ 11.6	3.1	△ 6.0	△ 7.6	5.1	△ 22.7	△ 14.4	△ 4.7	
73 公衆衛生用薬	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない 医薬品	令和4年9月	—	—	—	0.0	66.7	60.0	0.0	14.3	29.2	28.2	30.2	27.5	28.6	36.7	29.9	
	令和5年9月	—	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	14.3	6.9	12.8	7.3	10.8	8.8	7.9	
	差	—	—	—	—	—	△ 60.0	△ 9.5	△ 9.5	△ 14.9	△ 21.3	△ 17.4	△ 20.2	△ 17.8	△ 27.9	△ 22.0	
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	42.1	8.5	31.8	62.2	75.9	68.6	
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	46.5	21.3	36.5	81.9	67.0	
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	38.0	△ 10.5	△ 25.7	6.0	△ 1.6	
82 非アルカロイド系麻薬	令和4年9月	71.4	53.6	83.3	98.2	79.1	79.6	36.6	41.2	44.6	37.3	54.3	43.5	29.5	47.4	37.2	
	令和5年9月	88.5	92.0	55.9	49.5	83.6	58.3	58.9	70.8	58.0	71.7	41.6	42.6	36.2	40.3	37.6	
	差	17.1	38.4	△ 27.4	△ 48.7	4.5	△ 21.3	22.3	29.6	13.4	34.4	△ 12.7	△ 0.9	6.7	△ 7.1	0.4	

#### 4. 統計分析 (3)若い世代における薬効分類別の使用割合

(資料No.3-1、3-2)

《使用割合が低い若い世代(0歳～19歳まで)の薬効分類別の状況》

- 0歳から19歳の年齢階級において使用割合が高い薬剤は、歯科口腔用薬、腫瘍用薬、ビタミン剤という状況である。
- 0歳から19歳の年齢階級において使用割合が低い薬剤は、化学療法剤、循環器官用薬という状況である。

《年齢階級別の使用割合の高い薬剤の状況》

- 0歳から4歳はビタミン剤 100%、歯科口腔用薬 100%、滋養強壯薬 99.2%である。
- 5歳から9歳は歯科口腔用薬 100%、滋養強壯薬 98.7%、診断用薬(体外診断用医薬品を除く)96.8%である。
- 10歳から14歳は歯科口腔用薬 100%、腫瘍用薬 100%、消化器官用薬 90.8%である。
- 15歳から19歳は歯科口腔用薬 100%、ビタミン剤 94.5%、消化器官用薬 89.1%である。
- 歯科口腔用薬は、全ての年齢階級において使用割合が高い状況である。

《年齢階級別の使用割合の低い薬剤の状況》

- 0歳から4歳はホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)15.9%、化学療法剤 37.6%、その他の代謝性医薬品 48.4%である。
- 5歳から9歳は化学療法剤 28.2%、ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)31.7%、循環器官用薬 44.8%である。
- 10歳から14歳は化学療法剤 37.6%、循環器官用薬 50.0%、末梢神経系用薬 50.6%である。
- 15歳から19歳はその他の治療を主目的としない医薬品 0%、非アルカロイド系麻薬 49.5%、外皮用薬 56.2%である。

##### 【0歳から4歳 薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
ビタミン剤 (20÷20)	100%	ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む) (99÷623)	15.9%
歯科口腔用薬 (1÷1)	100%	化学療法剤 (1,009÷2,681)	37.6%
滋養強壯薬 (3,333÷3,358)	99.2%	その他の代謝性医薬品 (7,754÷16,023)	48.4%

##### 【5歳から9歳 薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (125÷125)	100%	化学療法剤 (1,037÷3,675)	28.2%
滋養強壯薬 (536÷543)	98.7%	ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む) (239÷753)	31.7%
診断用薬(体外診断用医薬品を除く) (30÷31)	96.8%	循環器官用薬 (640÷1,429)	44.8%

【10 歳から 14 歳 薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (117÷117)	100%	化学療法剤 (856÷2,276)	37.6%
腫瘍用薬 (23÷23)	100%	循環器官用薬 (3,011÷6,018)	50.0%
消化器官用薬 (21,939÷24,168)	90.8%	末梢神経系用薬 (847÷1,672)	50.6%

【15 歳から 19 歳 薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (38÷38)	100%	その他の治療を主目的としない医薬品 (0÷7)	0%
ビタミン剤 (8,473÷8,962)	94.5%	非アルカロイド系麻薬 (52÷105)	49.5%
消化器官用薬(26,914÷30,195)	89.1%	外皮用薬 (26,458÷47,065)	56.2%

※診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	X 線造影剤、機能検査用試薬、 その他の診断用薬(体外診断用医薬品を除く)
※消化器官用薬	整腸剤、消化性潰瘍用剤、健胃消化剤、下剤等
※非アルカロイド系麻薬	合成麻薬等
※化学療法剤	サルファ剤、抗結核剤、合成抗菌剤、抗ウイルス剤等
※ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	脳下垂体ホルモン剤、甲状腺、副甲状腺ホルモン剤等
※感覚器官用薬	眼科用剤、耳鼻科用剤等
※腫瘍用薬	代謝拮抗剤、抗腫瘍性抗生物質製剤等
※循環器官用薬	強心剤、不整脈用剤、利尿剤、血圧降下剤等
※その他の治療を 主目的としない医薬品	絆創膏、他に分類されない治療を主目的としない医薬品
※末梢神経系用薬	局所麻酔剤、骨格筋弛緩剤、自律神経剤、発汗剤等
※外皮用薬	化膿性疾患用剤、鎮痛、鎮痒、消炎剤、毛髪用剤等

《昨年度との比較》

○昨年度と比較し、若い世代で最も高い伸びとなっている 10 歳から 14 歳までの薬効分類別の使用割合において、特に泌尿生殖器官及び肛門用薬の伸びが高くなっている。

【10 歳から 14 歳までの薬効分類別の使用割合(前年度比較)】

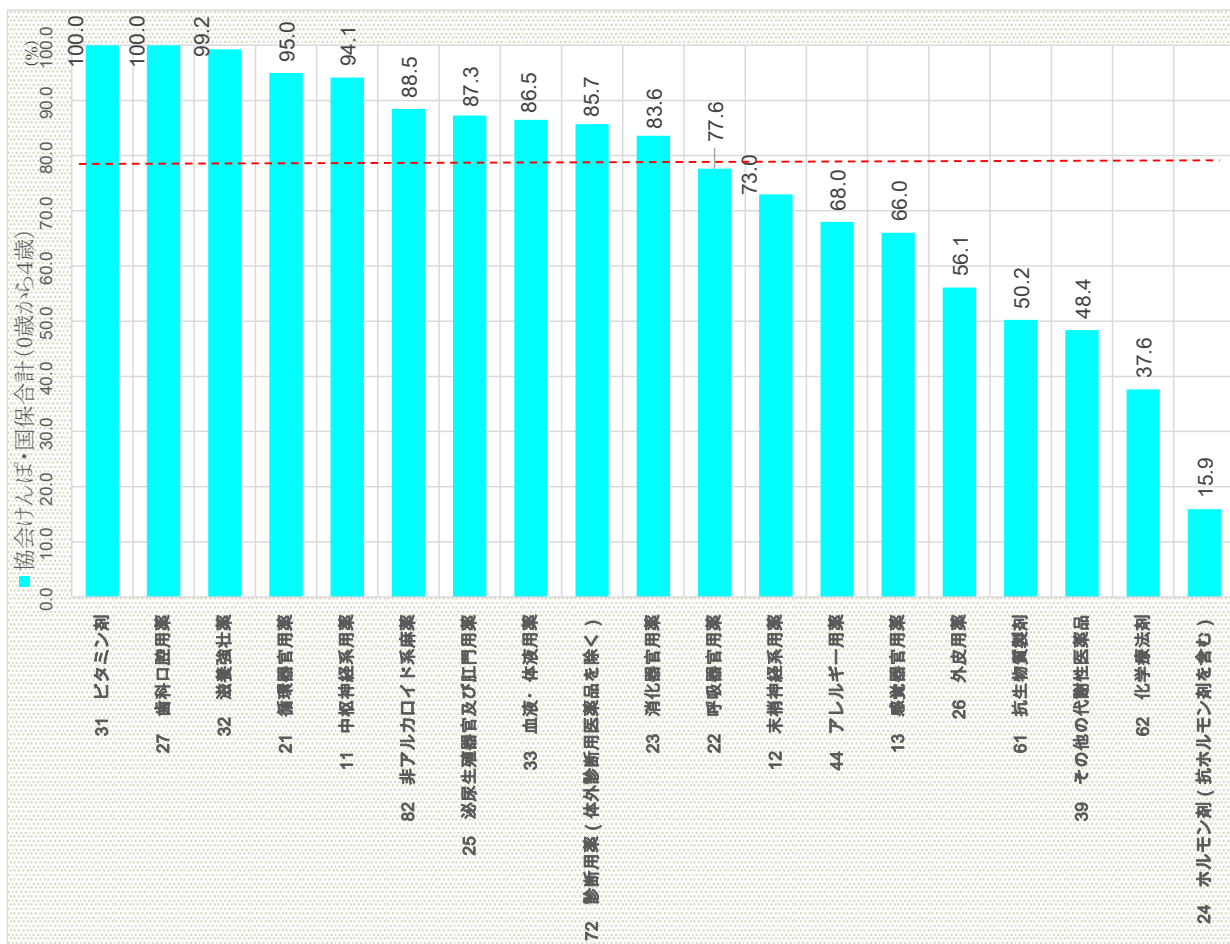
※資料No.3-2 より

薬効分類別	令和 4 年 9 月診療分	令和 5 年 9 月診療分	差(%pt)
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	56.0%	76.4%	20.4
24 ホルモン剤	42.1%	61.5%	19.4
11 中枢神経系用薬	67.3%	81.2%	13.9

※10 歳から 14 歳までの伸び 4.7%pt (P8 より)

若い世代における薬効分類別の使用割合

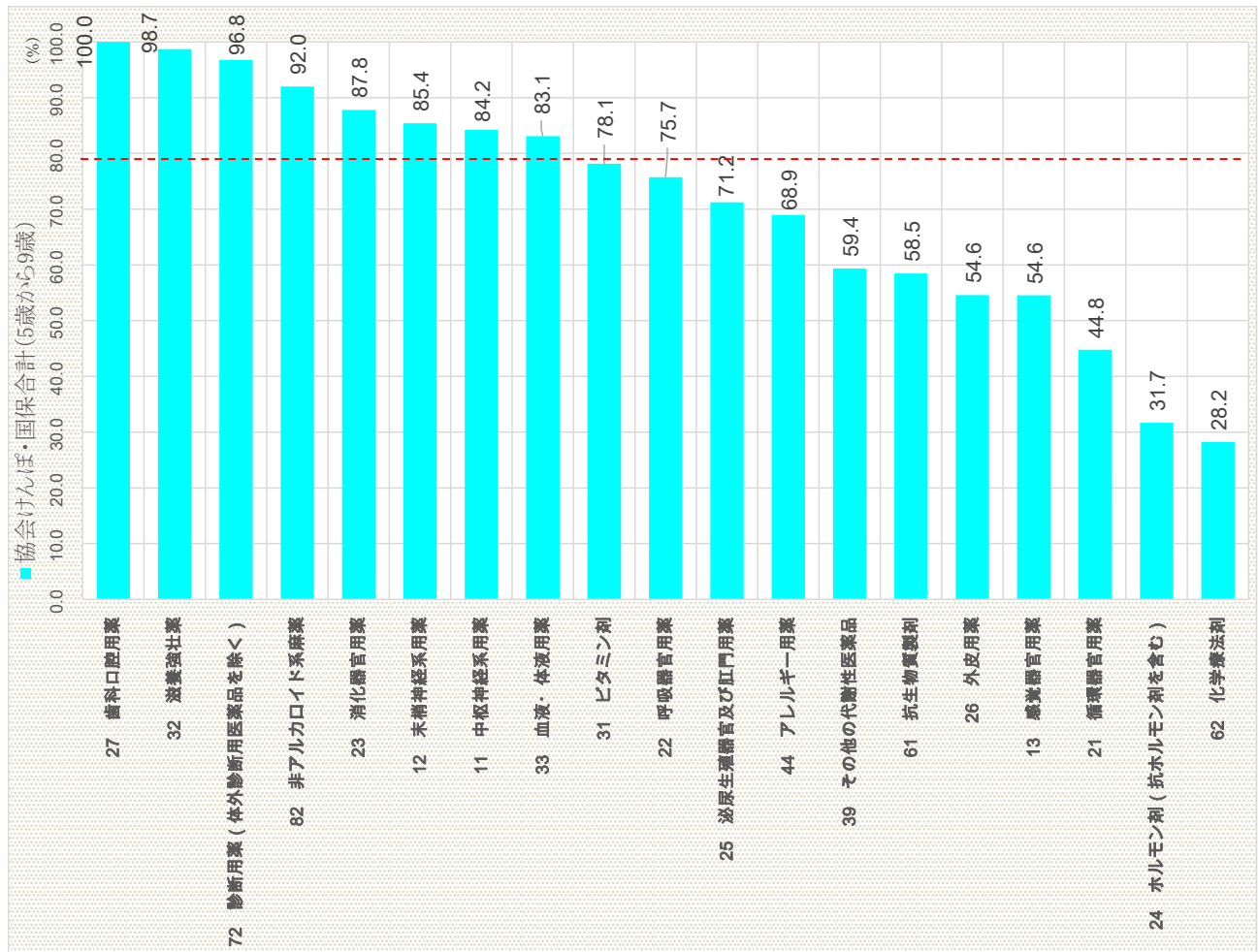
資料No.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計(0歳から4歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数
31 ビタミン剤	100.0	20
27 歯科口腔用薬	100.0	1
32 滋養強壮薬	99.2	3,358
21 循環器官用薬	95.0	723
11 中枢神経系用薬	94.1	24,547
82 非アルカロイド系麻薬	88.5	26
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	87.3	220
33 血液・体液用薬	86.5	103,814
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	85.7	14
23 消化器官用薬	83.6	6,375
22 呼吸器官用薬	77.6	230,713
12 末梢神経系用薬	73.0	111
44 アレルギー用薬	68.0	143,398
13 感覚器官用薬	66.0	2,632
26 外皮用薬	56.1	28,082
61 抗生物質製剤	50.2	11,506
39 その他の代謝性医薬品	48.4	16,023
62 化学療法剤	37.6	2,681
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	15.9	623

若い世代における薬効分類別の使用割合

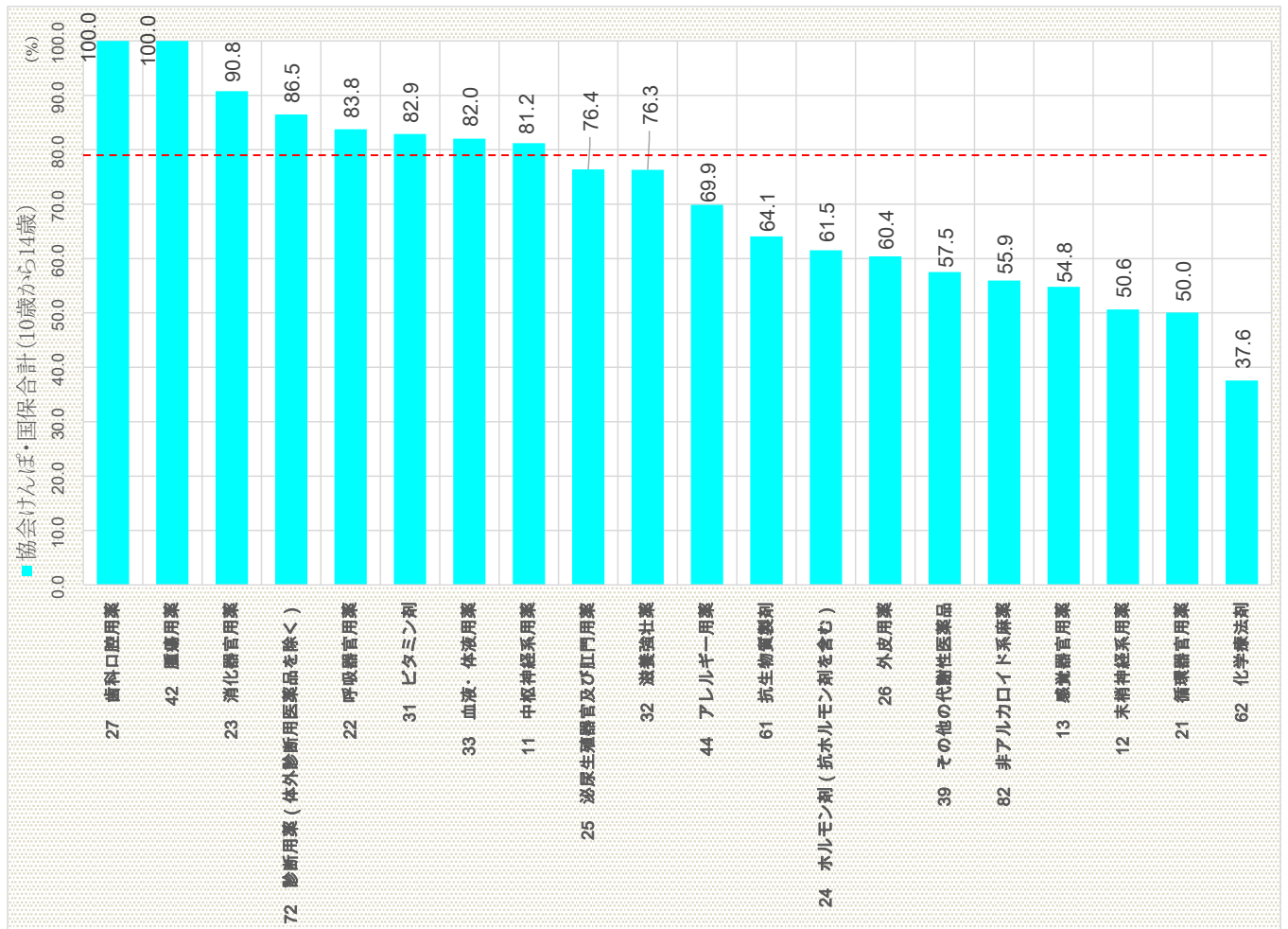
資料No.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計 (5歳から9歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	125
32 滋養強壮薬	98.7	543
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	96.8	31
82 非アロカロイド系麻薬	92.0	25
23 消化器官用薬	87.8	14,474
12 末梢神経系用薬	85.4	442
11 中枢神経系用薬	84.2	39,848
33 血液・体液用薬	83.1	93,377
31 ビタミン剤	78.1	135
22 呼吸器官用薬	75.7	137,252
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	71.2	313
44 アレルギー用薬	68.9	173,496
39 その他の代謝性医薬品	59.4	2,917
61 抗生物質製剤	58.5	17,773
26 外皮用薬	54.6	31,184
13 感覚器官用薬	54.6	6,323
21 循環器官用薬	44.8	1,429
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	31.7	753
62 化学療法剤	28.2	3,675

若い世代における薬効分類別の使用割合

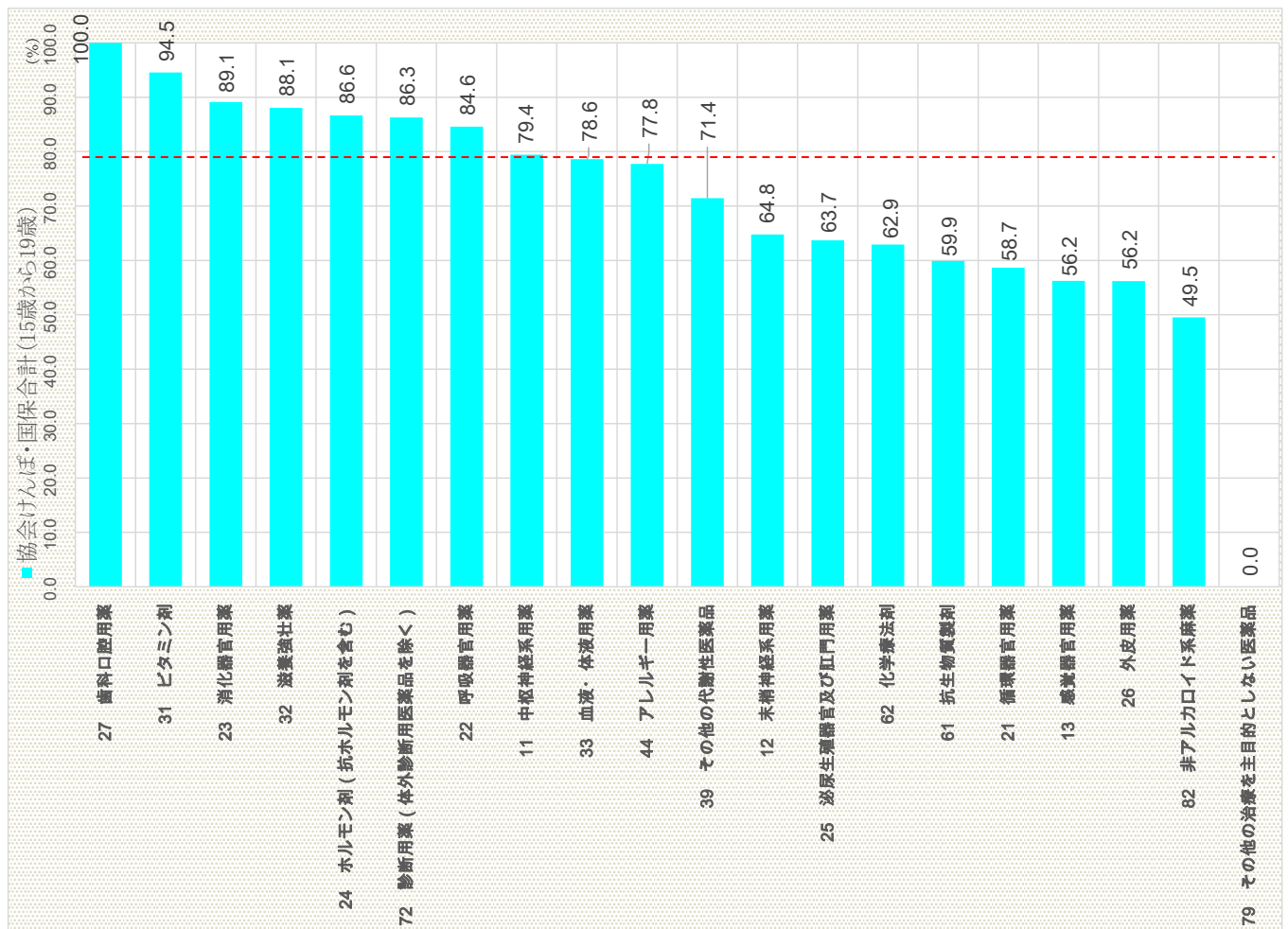
資料No.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計(10歳から14歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数 / 代替薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	117 / 117
42 腫瘍用薬	100.0	23 / 23
23 消化器官用薬	90.8	24,168 / 21,939
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	86.5	37 / 32
22 呼吸器官用薬	83.8	65,591 / 54,951
31 ビタミン剤	82.9	3,549 / 2,942
33 血液・体液用薬	82.0	68,675 / 56,339
11 中枢神経系用薬	81.2	60,320 / 48,991
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	76.4	466 / 356
32 滋養強壮薬	76.3	1,519 / 1,159
44 アレルギー用薬	69.9	109,947 / 76,822
61 抗生物質製剤	64.1	16,050 / 10,285
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	61.5	1,186 / 730
26 外皮用薬	60.4	43,775 / 26,442
39 その他の代謝性医薬品	57.5	5,364 / 3,086
82 非アロカロイド系麻薬	55.9	59 / 33
13 感覚器官用薬	54.8	5,671 / 3,106
12 末梢神経系用薬	50.6	1,672 / 847
21 循環器官用薬	50.0	6,018 / 3,011
62 化学療法剤	37.6	2,276 / 856

若い世代における薬効分類別の使用割合

資料№3-1

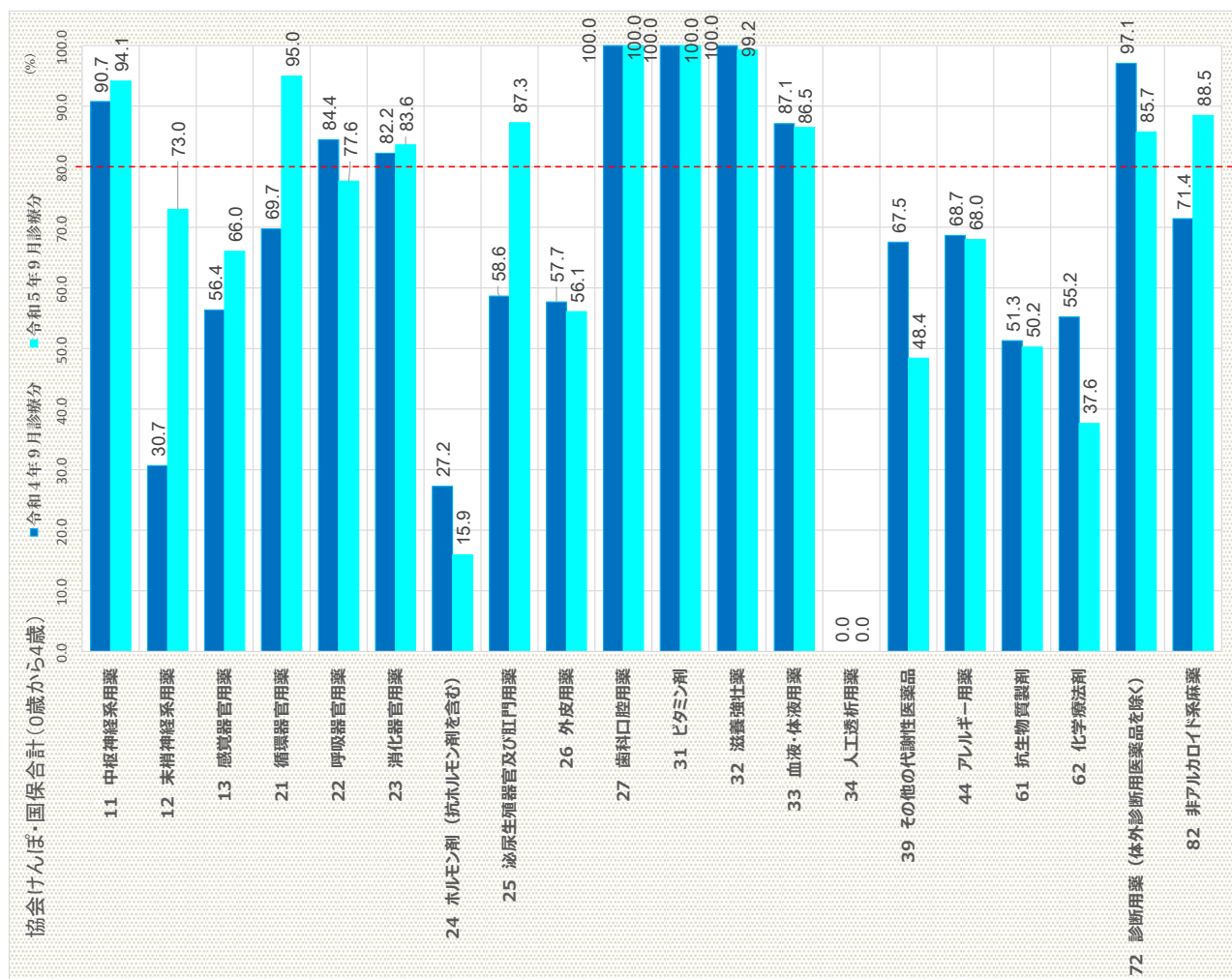


薬効分類別	協会けんぽ・国保合計 (15歳から19歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	38
31 ビタミン剤	94.5	8,962
23 消化器官用薬	89.1	30,195
32 滋養強壮薬	88.1	3,550
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	86.6	6,616
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	86.3	51
22 呼吸器官用薬	84.6	32,996
11 中枢神経系用薬	79.4	78,010
33 血液・体液用薬	78.6	64,470
44 アレルギー用薬	77.8	60,035
39 その他の代謝性医薬品	71.4	8,894
12 末梢神経系用薬	64.8	2,990
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	63.7	540
62 化学療法剤	62.9	2,072
61 抗生物質製剤	59.9	18,927
21 循環器官用薬	58.7	11,737
13 感覚器官用薬	56.2	5,060
26 外皮用薬	56.2	47,065
82 非アロカロイド系麻薬	49.5	105
79 その他の治療を主目的としない医薬品	0.0	7



若い世代における薬効分類別の使用割合(前年度比較)

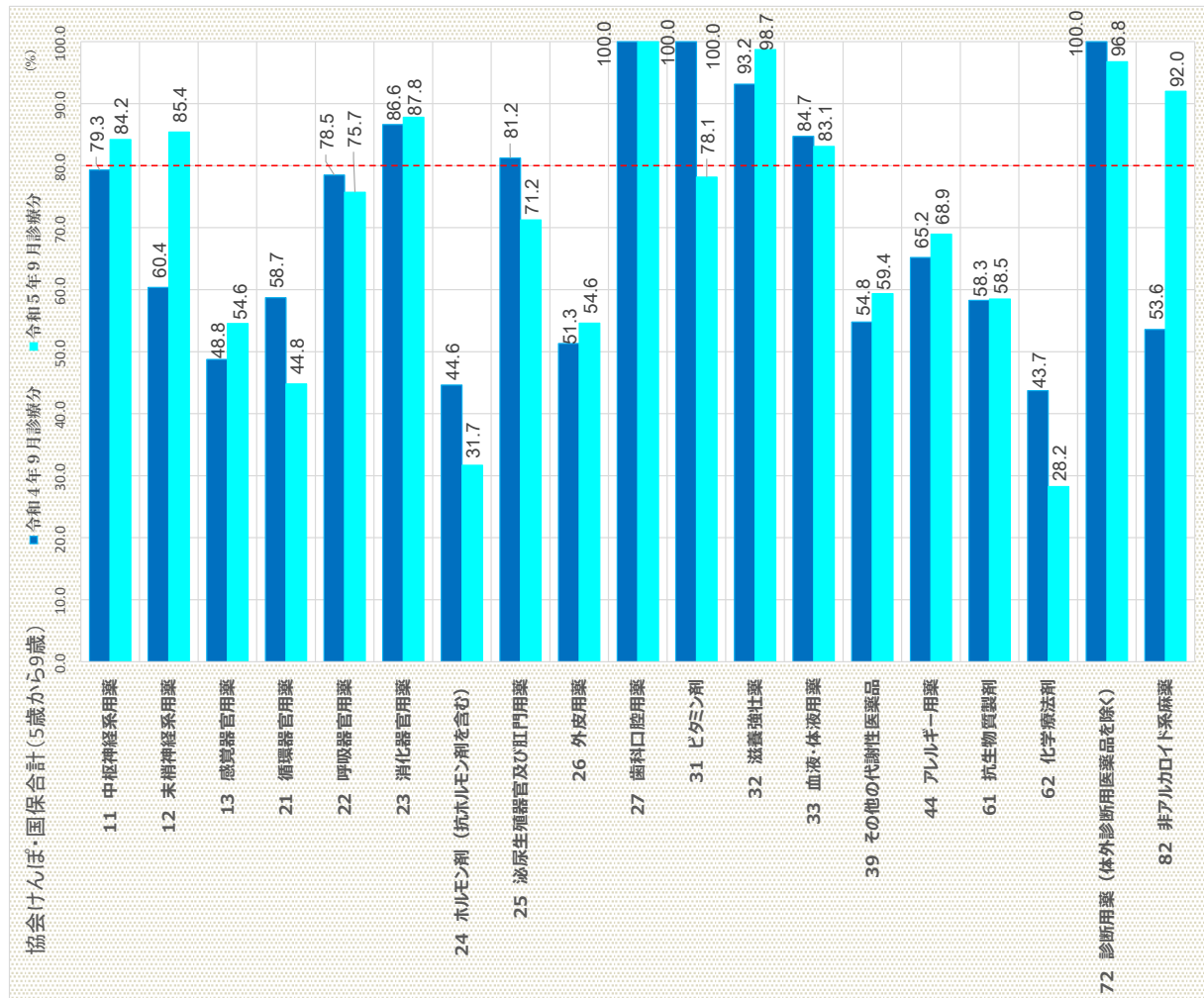
資料№3-2



薬効分類別	令和4年9月診療分			令和5年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
11 中枢神経系用薬	90.7	23,346	21,186	94.1	24,547	23,110
12 末梢神経系用薬	30.7	82	25	73.0	111	81
13 感覚器官用薬	56.4	1,993	1,124	66.0	2,632	1,738
21 循環器官用薬	69.7	380	265	95.0	723	687
22 呼吸器官用薬	84.4	226,259	191,061	77.6	230,713	179,052
23 消化器官用薬	82.2	4,733	3,893	83.6	6,375	5,329
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	27.2	1,025	279	15.9	623	99
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	58.6	191	112	87.3	220	192
26 外皮用薬	57.7	33,046	19,058	56.1	28,082	15,752
27 歯科口腔用薬	100.0	1	1	100.0	1	1
31 ビタミン剤	100.0	208	208	100.0	20	20
32 滋養強壮薬	100.0	2,178	2,178	99.2	3,358	3,333
33 血液・体液用薬	87.1	109,910	95,734	86.5	103,814	89,767
34 人工透析用薬	0.0	88	0	-	-	-
39 その他の代謝性医薬品	67.5	18,348	12,391	48.4	16,023	7,754
44 アレルギ-用薬	68.7	130,593	89,655	68.0	143,398	97,502
61 抗生物質製剤	51.3	11,342	5,816	50.2	11,506	5,779
62 化学療法剤	55.2	1,293	714	37.6	2,681	1,009
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	97.1	34	33	85.7	14	12
82 非アルカロイド系麻薬	71.4	21	15	88.5	26	23

若い世代における薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料№3-2

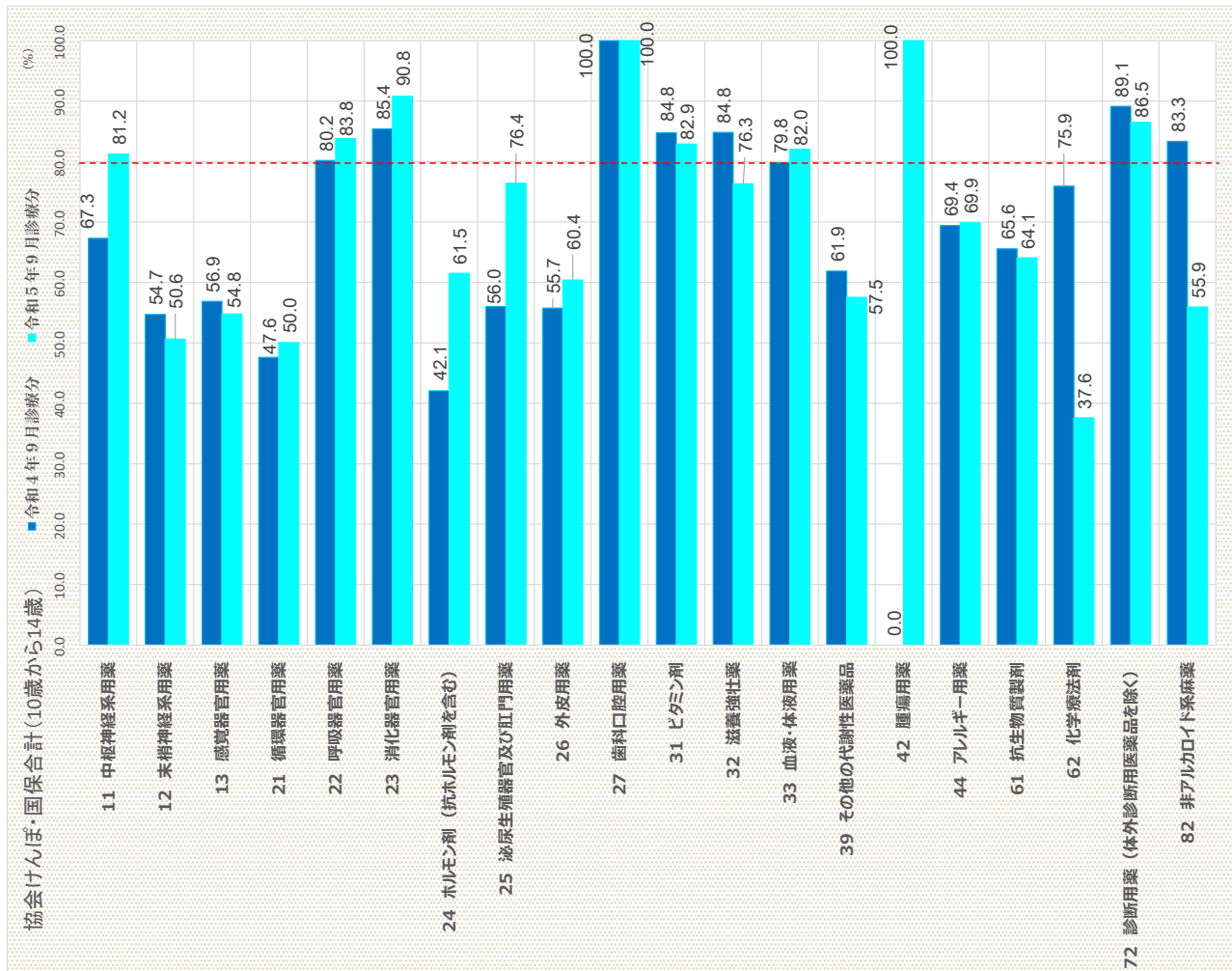


薬効分類	令和4年9月診療分			令和5年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
11 中枢神経系用薬	79.3	23,808	18,878	84.2	39,848	33,554
12 末梢神経系用薬	60.4	270	163	85.4	442	378
13 感覚器官用薬	48.8	6,046	2,948	54.6	6,323	3,450
21 循環器官用薬	58.7	971	570	44.8	1,429	640
22 呼吸器官用薬	78.5	90,962	71,397	75.7	137,252	103,911
23 消化器官用薬	86.6	8,842	7,658	87.8	14,474	12,710
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	44.6	622	277	31.7	753	239
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	81.2	885	719	71.2	313	223
26 外皮用薬	51.3	29,001	14,880	54.6	31,184	17,024
27 歯科口腔用薬	100.0	156	156	100.0	125	125
31 ビタミン剤	100.0	425	425	78.1	135	106
32 滋養強壮薬	93.2	409	381	98.7	543	536
33 血液・体液用薬	84.7	89,232	75,594	83.1	93,377	77,594
39 その他の代謝性医薬品	54.8	2,250	1,233	59.4	2,917	1,732
44 アレルギ-用薬	65.2	149,414	97,400	68.9	173,496	119,625
61 抗生物質製剤	58.3	11,819	6,887	58.5	17,773	10,394
62 化学療法剤	43.7	542	237	28.2	3,675	1,037
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	100.0	24	24	96.8	31	30
82 非アロカロイド系麻薬	53.6	28	15	92.0	25	23

若い世代における薬効分類別の使用割合(前年度比較)

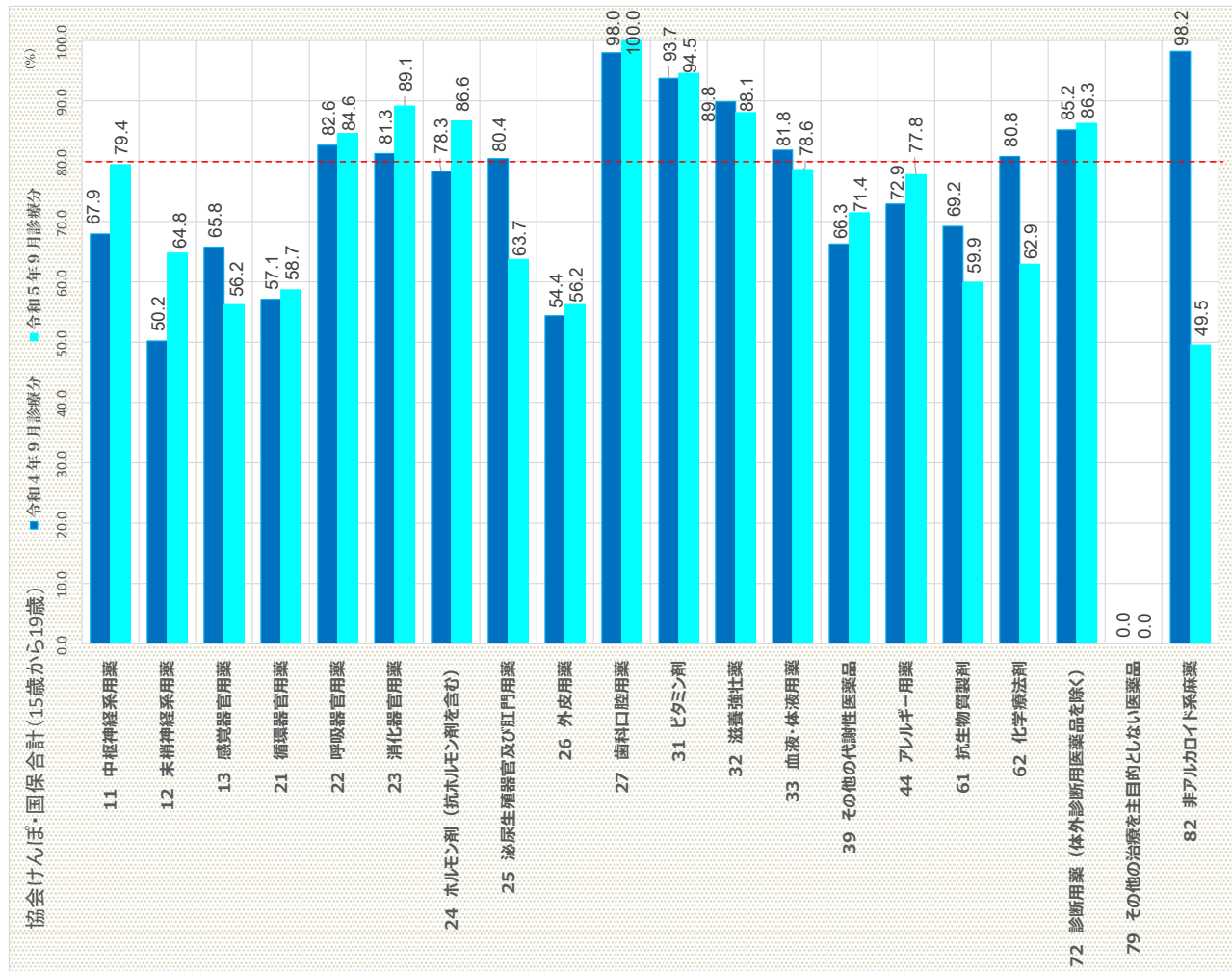
資料№3-2

薬効分類別	協会けんぽ・国保合計(10歳から14歳)			
	令和4年9月診療分		令和5年9月診療分	
	使用割合(%)	対象薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数
11 中枢神経系用薬	67.3	44,772	81.2	60,320
12 末梢神経系用薬	54.7	1,061	50.6	1,672
13 感覚器官用薬	56.9	5,727	54.8	5,671
21 循環器官用薬	47.6	5,030	50.0	6,018
22 呼吸器官用薬	80.2	33,232	83.8	65,591
23 消化器官用薬	85.4	17,425	90.8	24,168
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	42.1	1,167	61.5	1,186
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	56.0	730	76.4	466
26 外皮用薬	55.7	46,293	60.4	43,775
27 歯科口腔用薬	100.0	114	100.0	117
31 ビタミン剤	84.8	5,389	82.9	3,549
32 滋養強壮薬	84.8	1,370	76.3	1,519
33 血液・体液用薬	79.8	55,671	82.0	68,675
39 その他の代謝性医薬品	61.9	6,188	57.5	5,364
42 腫瘍用薬	0.0	4	100.0	23
44 アレルギ-用薬	69.4	96,344	69.9	109,947
61 抗生物質製剤	65.6	9,866	64.1	16,050
62 化学療法剤	75.9	542	37.6	2,276
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	89.1	46	86.5	37
82 非アルカロイド系麻薬	83.3	42	55.9	59



若い世代における薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料№3-2



薬効分類別	令和4年9月診療分		令和5年9月診療分	
	使用割合 (%)	対象薬剤数	使用割合 (%)	対象薬剤数
11 中枢神経系用薬	67.9	69,123	79.4	78,010
12 末梢神経系用薬	50.2	3,747	64.8	2,990
13 感覚器官用薬	65.8	4,048	56.2	5,060
21 循環器官用薬	57.1	8,460	58.7	11,737
22 呼吸器官用薬	82.6	17,971	84.6	32,996
23 消化器官用薬	81.3	27,059	89.1	30,195
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	78.3	5,487	86.6	6,616
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	80.4	689	63.7	540
26 外皮用薬	54.4	50,594	56.2	47,065
27 歯科口腔用薬	98.0	49	100.0	38
31 ビタミン剤	93.7	8,947	94.5	8,962
32 滋養強壮薬	89.8	2,896	88.1	3,550
33 血液・体液用薬	81.8	46,039	78.6	64,470
39 その他の代謝性医薬品	66.3	8,182	71.4	8,894
44 アレルギ-用薬	72.9	48,399	77.8	60,035
61 抗生物質製剤	69.2	14,210	59.9	18,927
62 化学療法剤	80.8	1,259	62.9	2,072
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	85.2	41	86.3	51
79 その他の治療を主目的としない医薬品	0.0	2	0.0	7
82 非アルカロイド系麻薬	98.2	56	49.5	105

#### 4. 統計分析 (4)後期高齢者医療における薬効分類別の使用割合

(資料No.4-1、4-2、4-3)

##### 《使用割合の状況(総数)》

- 75歳以上の使用割合の総数は、80.5%であり、昨年度より2.0%pt伸び、国で掲げた目標値80%を超えている。

※資料No.4-2より

	令和4年9月診療分	令和5年9月診療分	差(%pt)
使用割合(総数)	78.5%	80.5%	2.0

##### 《使用割合の状況(薬効分類別)》

- 75歳以上の使用割合が高い薬剤については、消化器官用薬87.2%、腫瘍用薬86.8%、泌尿生殖器官及び肛門用薬85.4%という状況である。
- 75歳以上の使用割合が低い薬剤については、放射性医薬品1.7%、その他の治療を主目的としない医薬品5.8%、非アルカロイド系麻薬23.9%という状況である。

【75歳以上において使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】

※資料No.4-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
消化器官用薬 (3,892,227÷4,463,205)	87.2%	放射性医薬品 (167÷9,611)	1.7%
腫瘍用薬 (68,608÷79,017)	86.8%	その他の治療を主目的としない 医薬品(15÷258)	5.8%
泌尿生殖器官及び肛門用薬 (550,333÷644,458)	85.4%	非アルカロイド系麻薬 (921÷3,847)	23.9%

##### 《昨年度との比較》

- 昨年度から最も伸びたのは、末梢神経系用薬であり、6.0%pt伸びている。

【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】

※資料No.4-3より

薬効分類別	令和4年9月診療分	令和5年9月診療分	差(%pt)
12 末梢神経系用薬	54.5%	60.5%	6.0
39 その他の代謝性医薬品	76.5%	81.2%	4.6
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	80.8%	85.4%	4.6

##### 《使用割合が高い年齢階級の状況及び昨年度との比較》

- 年齢階級別に見ると100歳以上において使用割合が最も高く、84.4%である。

また、80歳から84歳の年齢階級以外で、80%を超えている。

- 昨年度と比較すると、75歳以上で最も高い伸びとなっているのは、75歳から79歳の年齢階級で昨年度から2.3%pt伸びている。

※資料No.4-3より

年齢階級	75歳から 79歳	80歳から 84歳	85歳から 89歳	90歳から 94歳	95歳から 99歳	100歳以上
令和4年9月	77.9%	77.9%	78.8%	79.8%	81.8%	82.4%
令和5年9月	80.2%	79.8%	80.4%	81.8%	83.0%	84.4%
差(%pt)	2.3	1.9	1.6	2.0	1.2	2.0

75歳以上薬効分類別の使用割合(前年度比較)

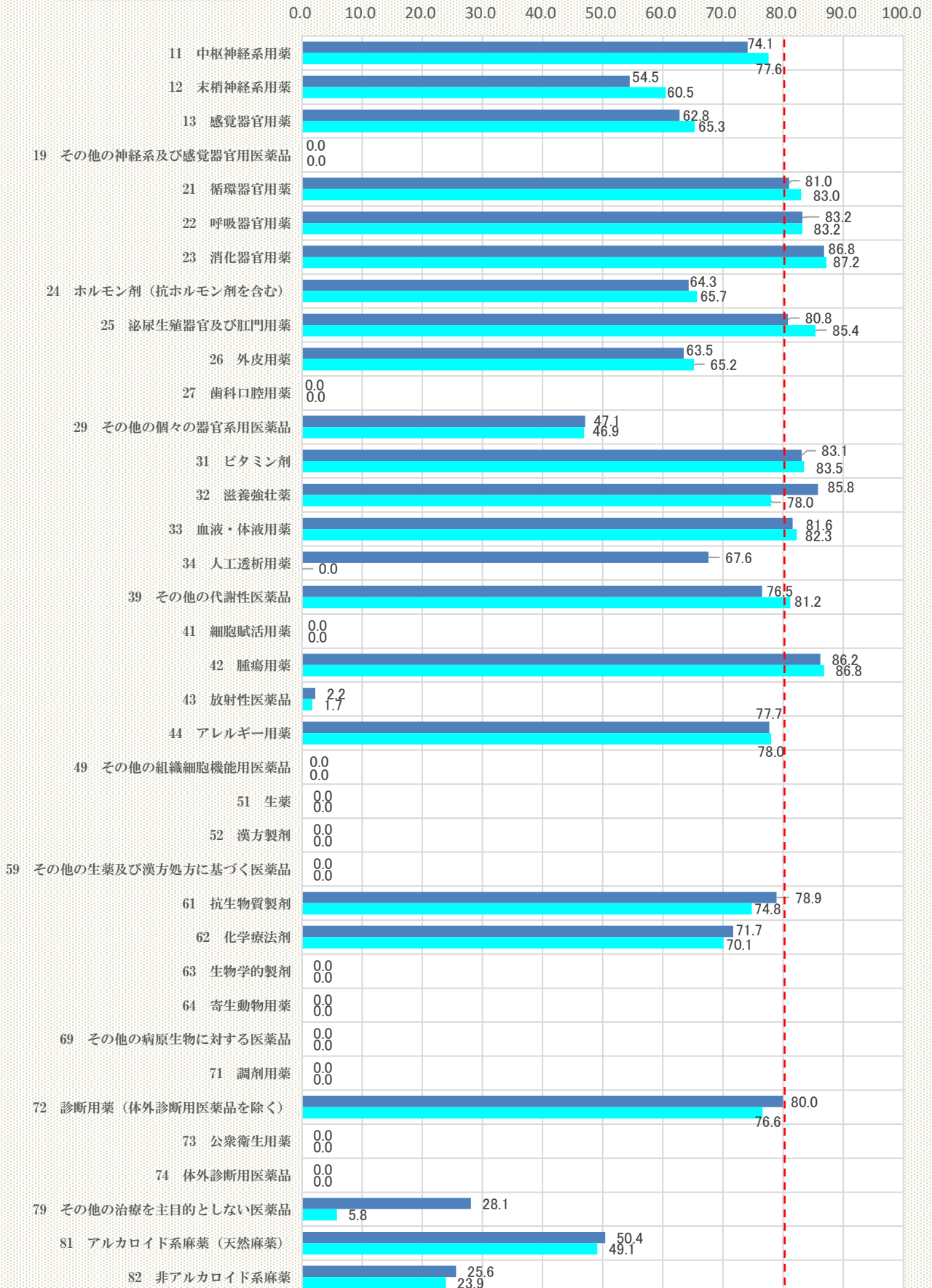
資料No.4-1

総数

■ 令和4年9月

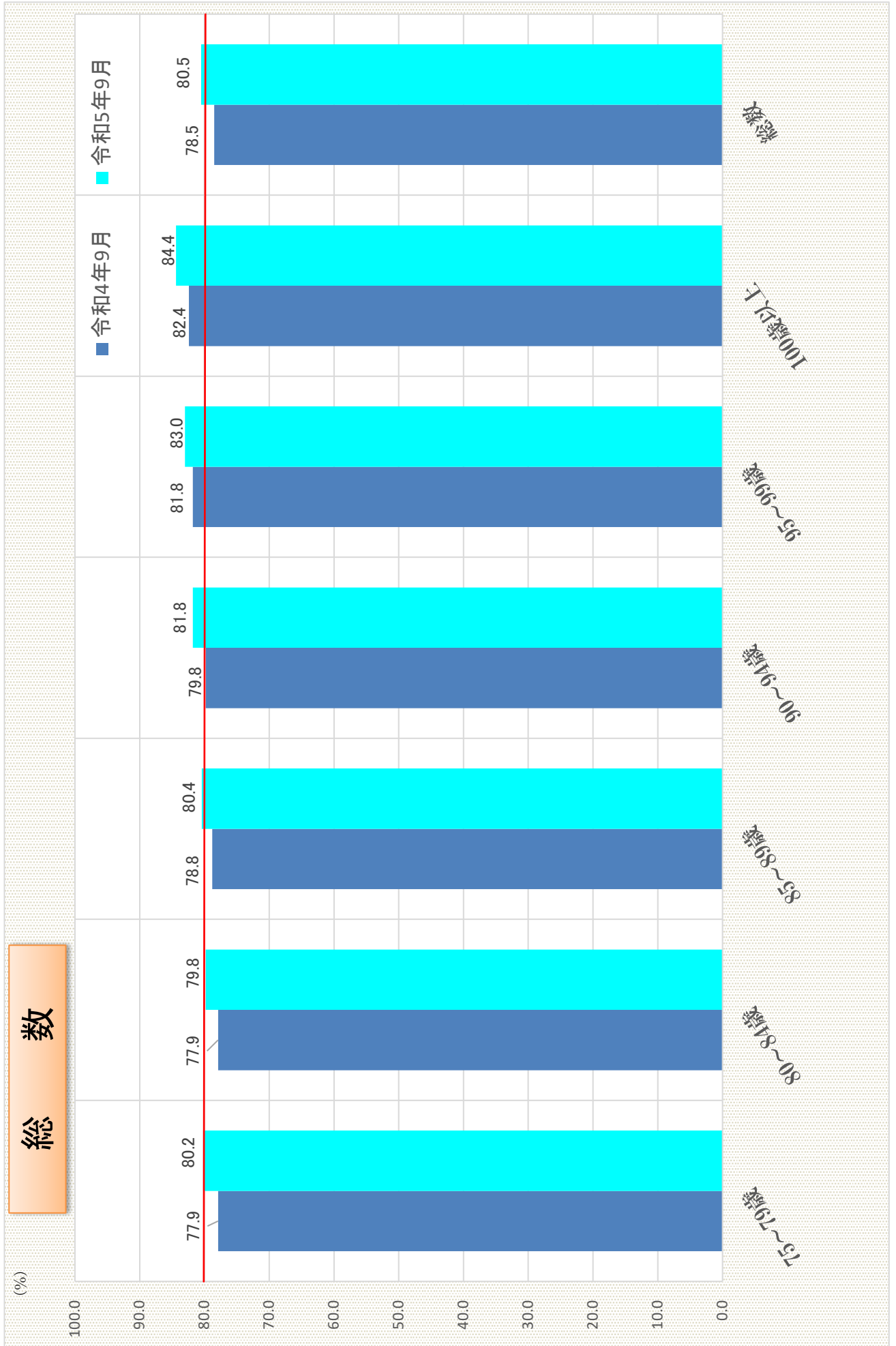
■ 令和5年9月

(%)



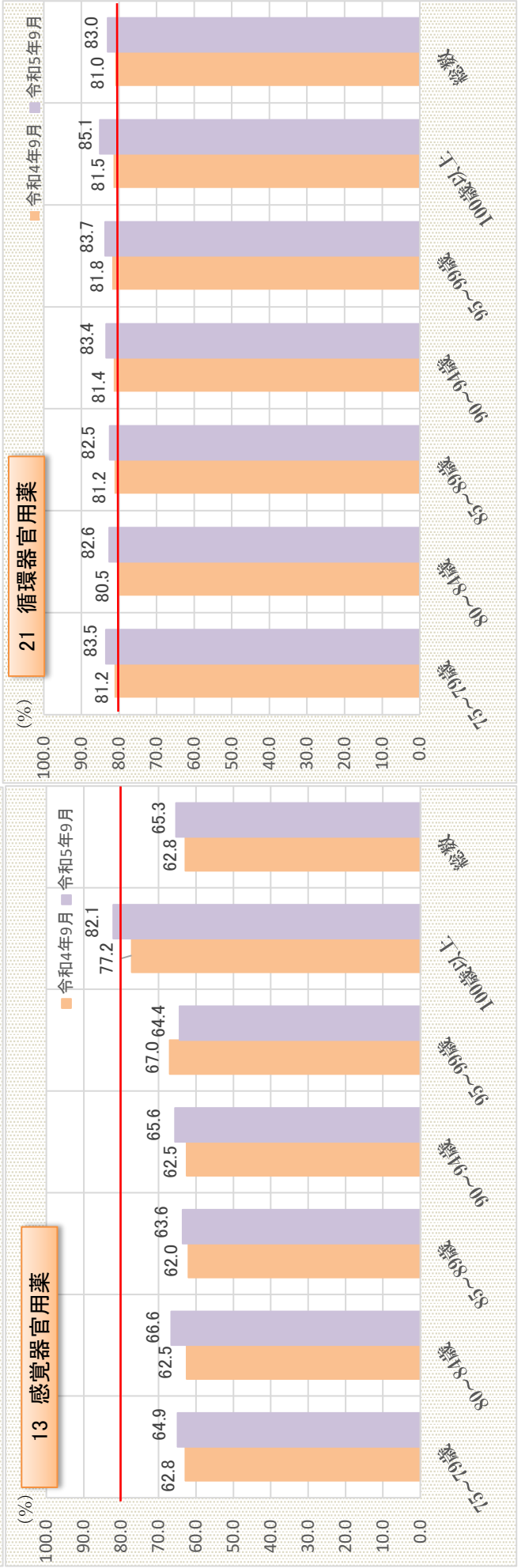
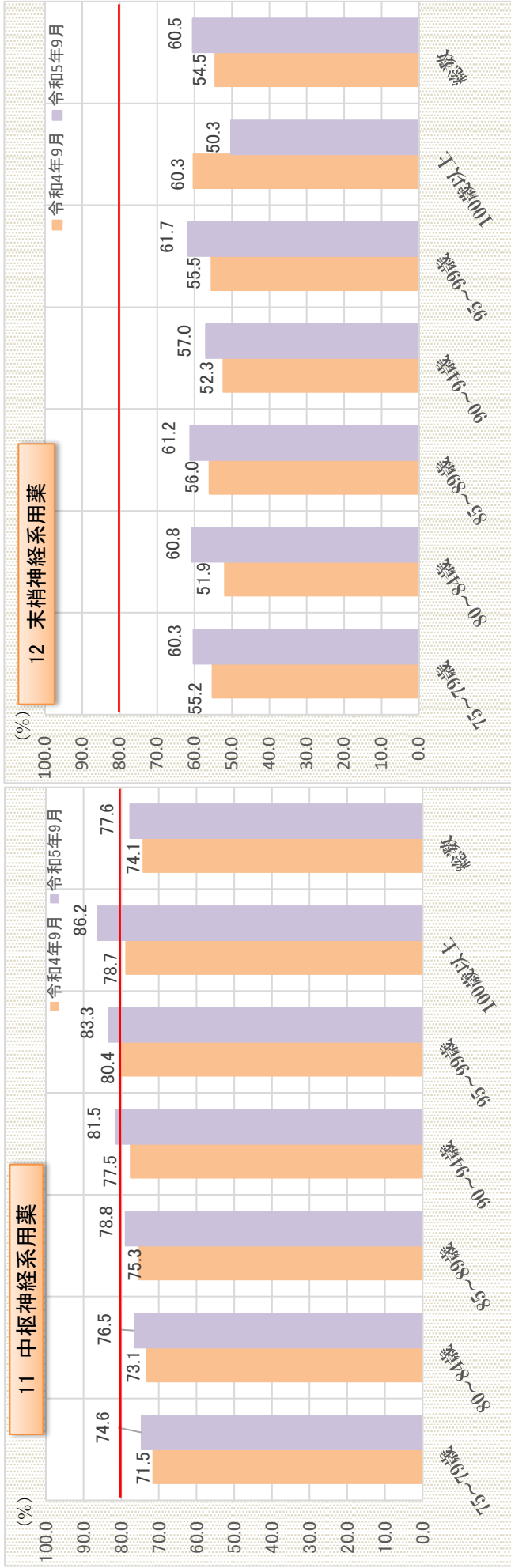
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



# 75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

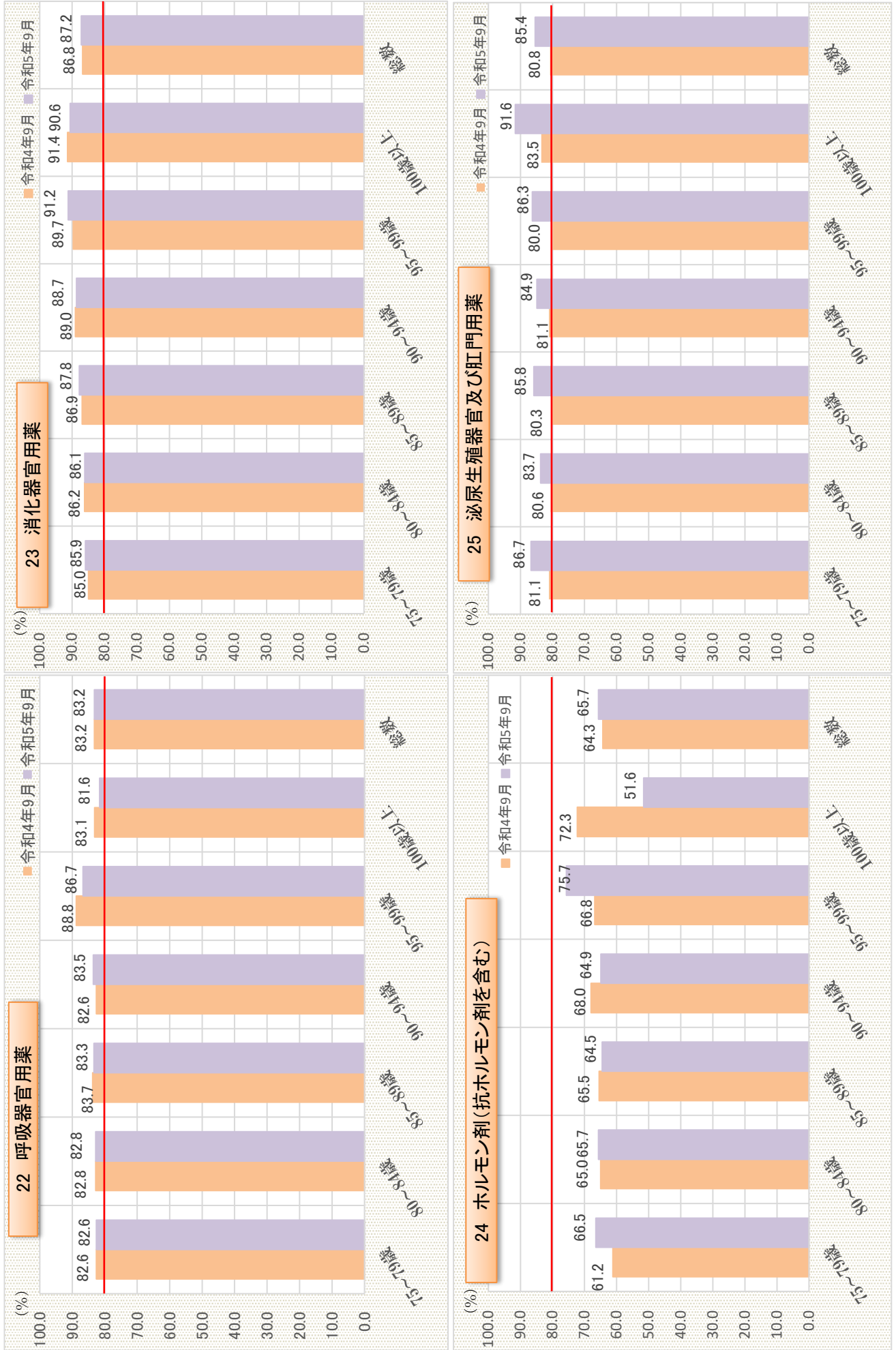
資料No.4-1-1





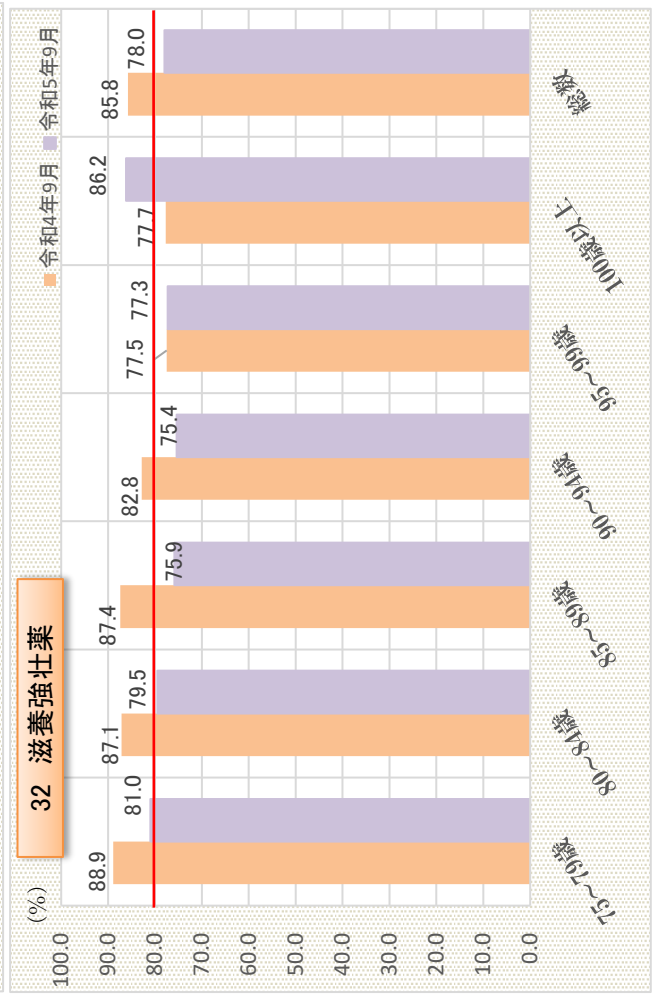
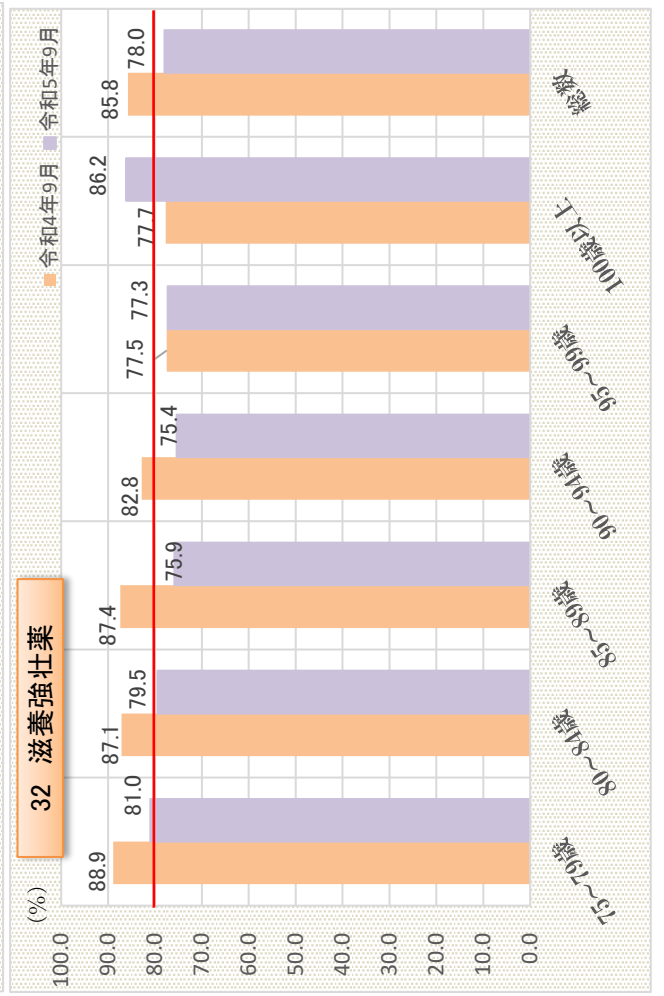
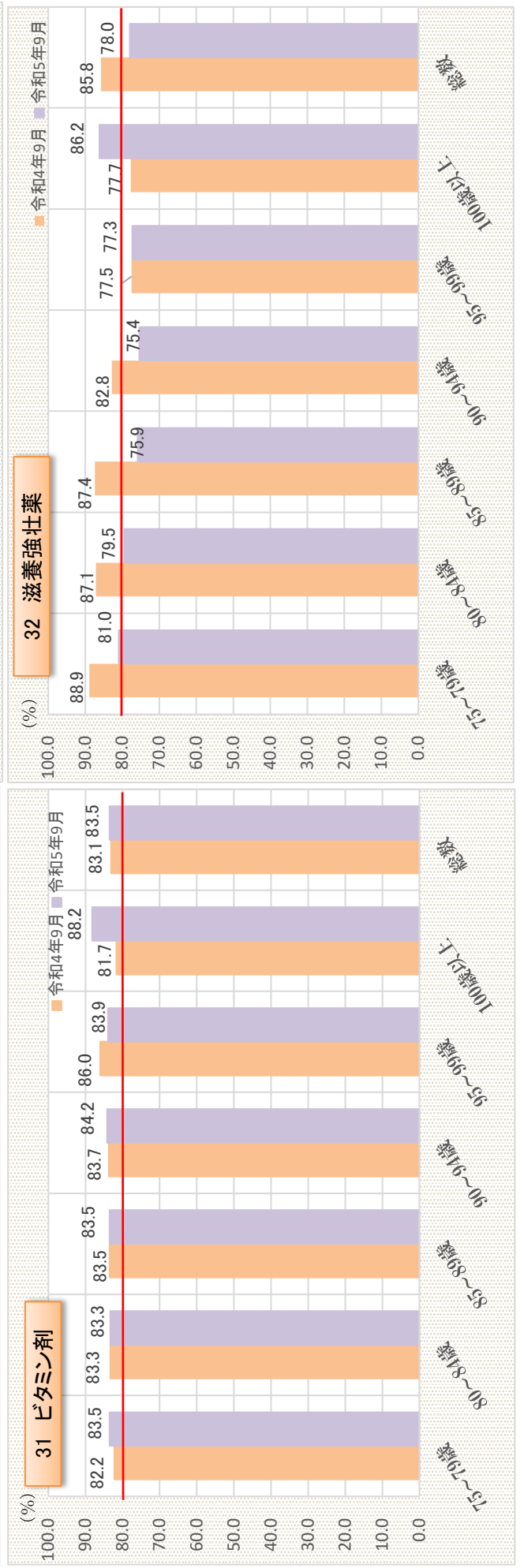
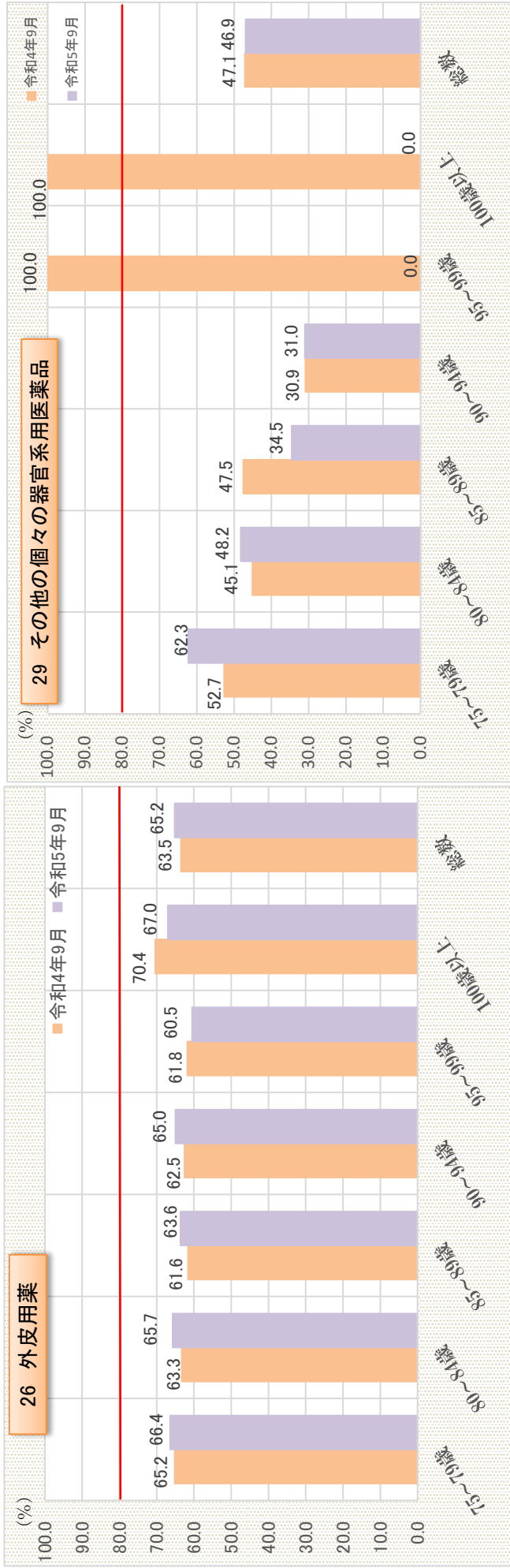
# 75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



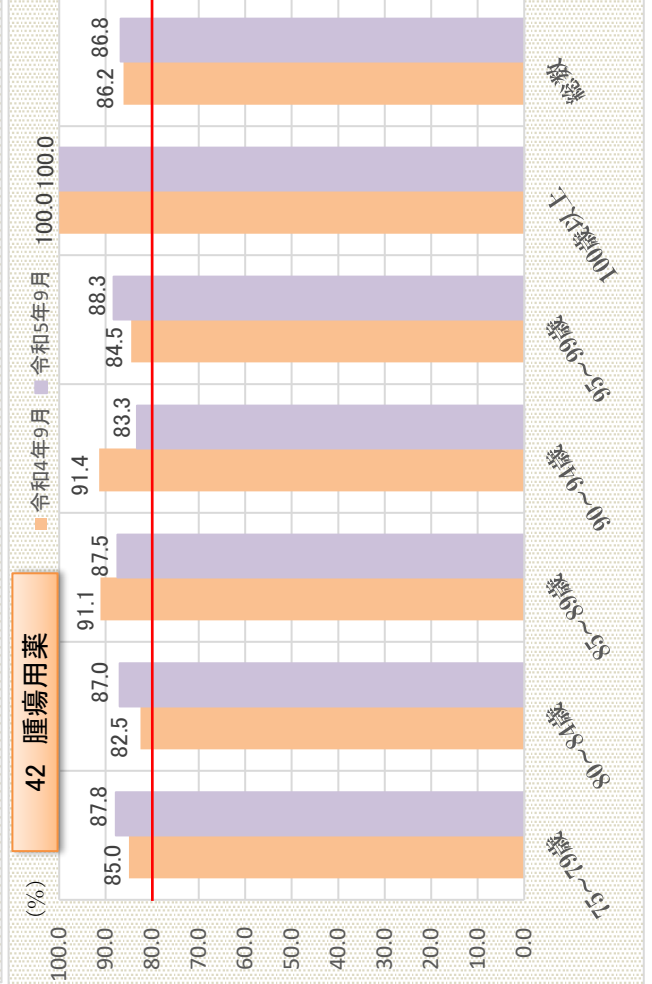
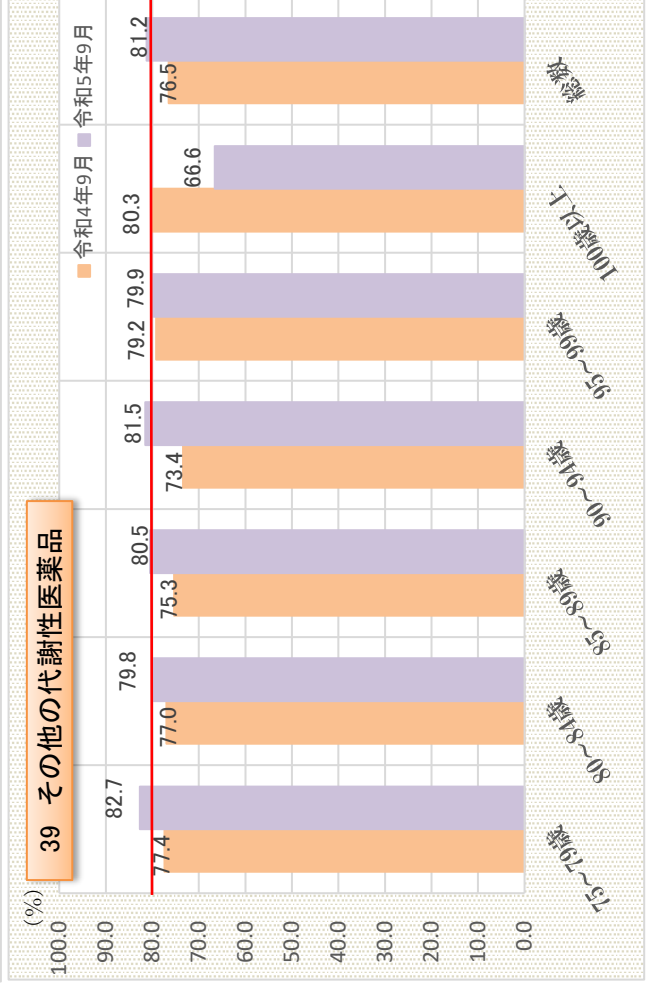
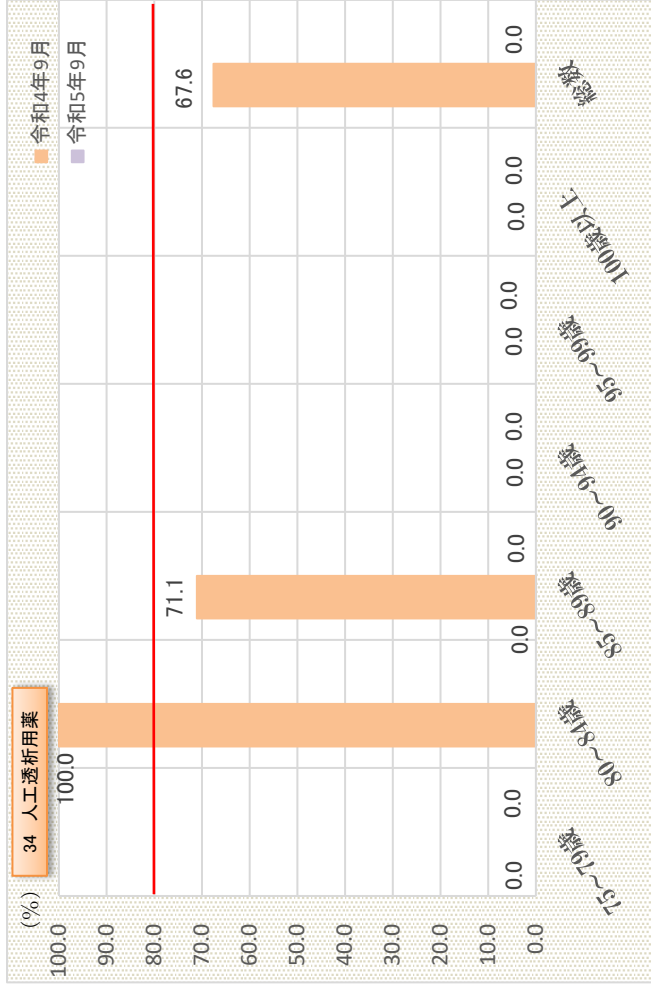
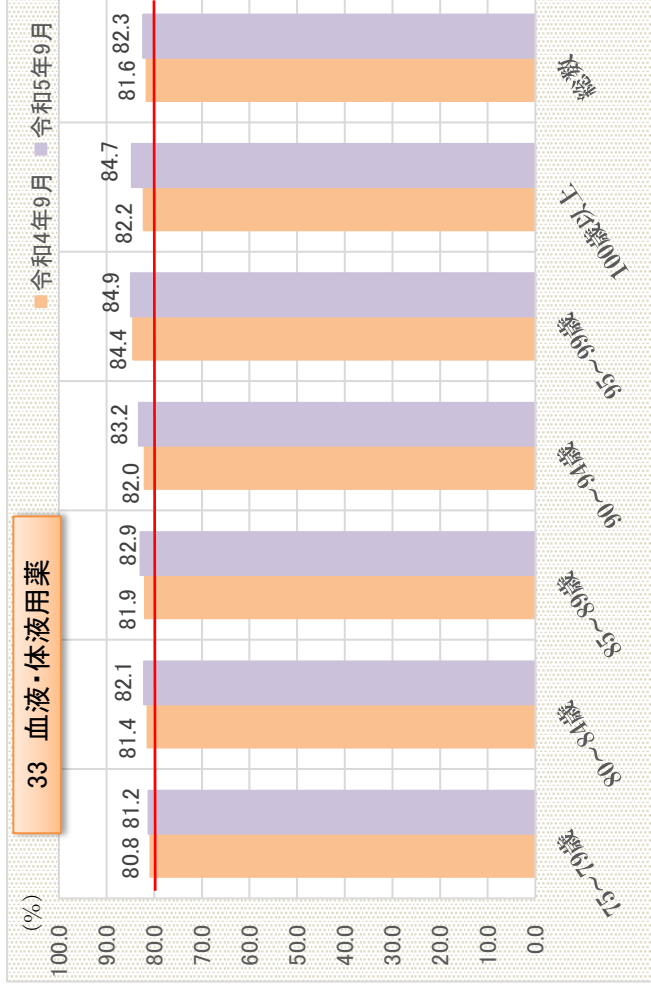
# 75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



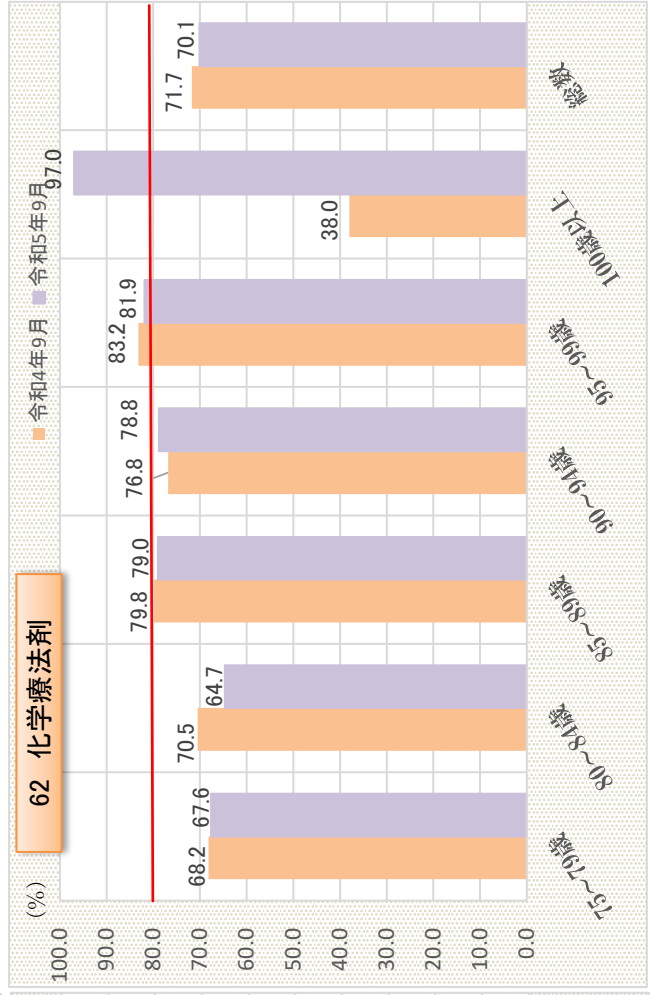
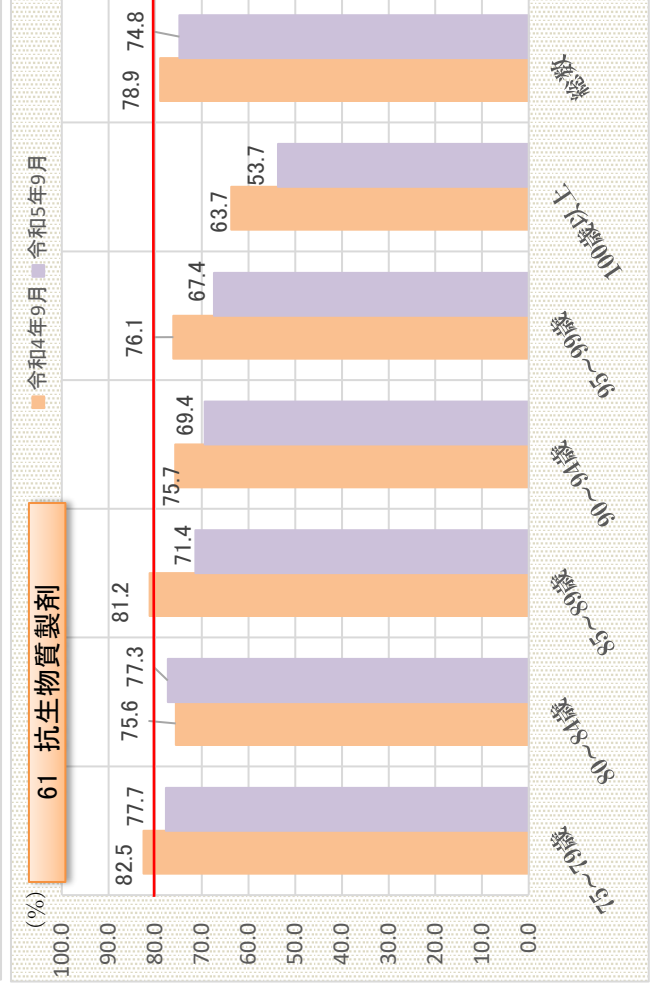
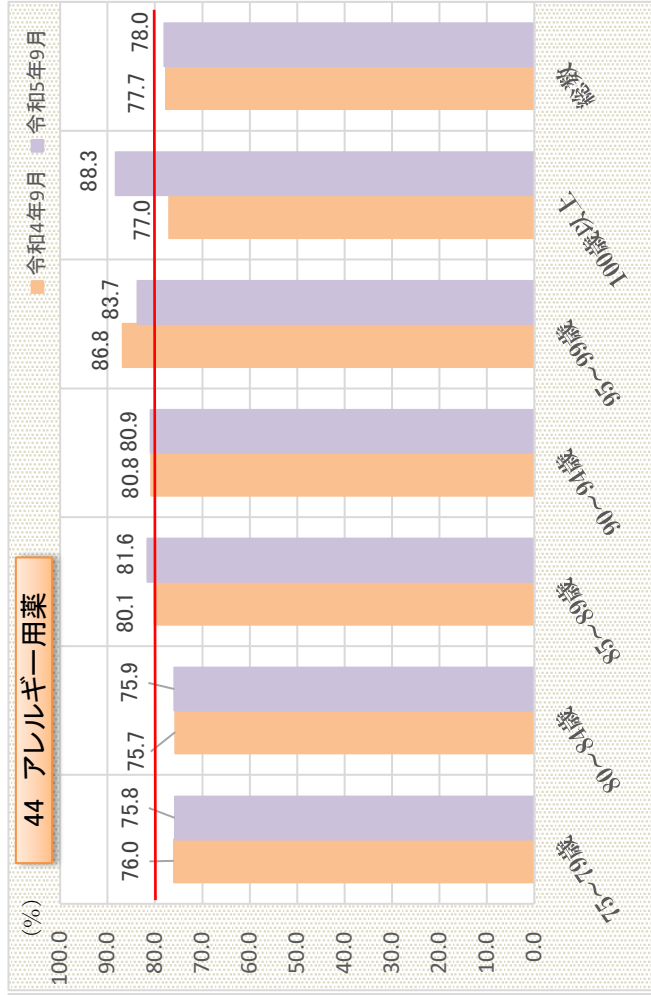
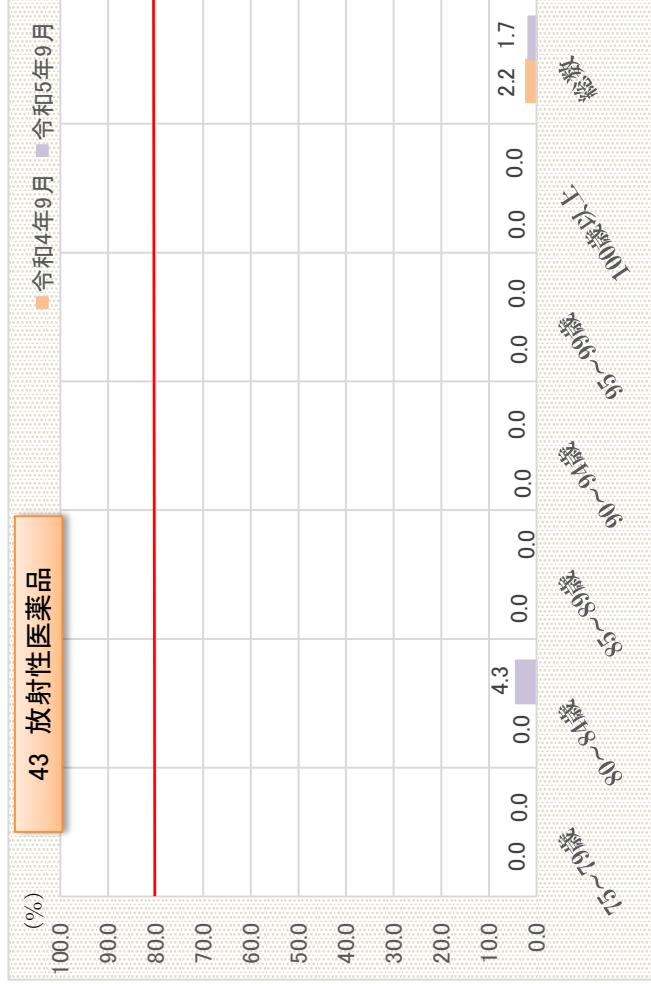
# 75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



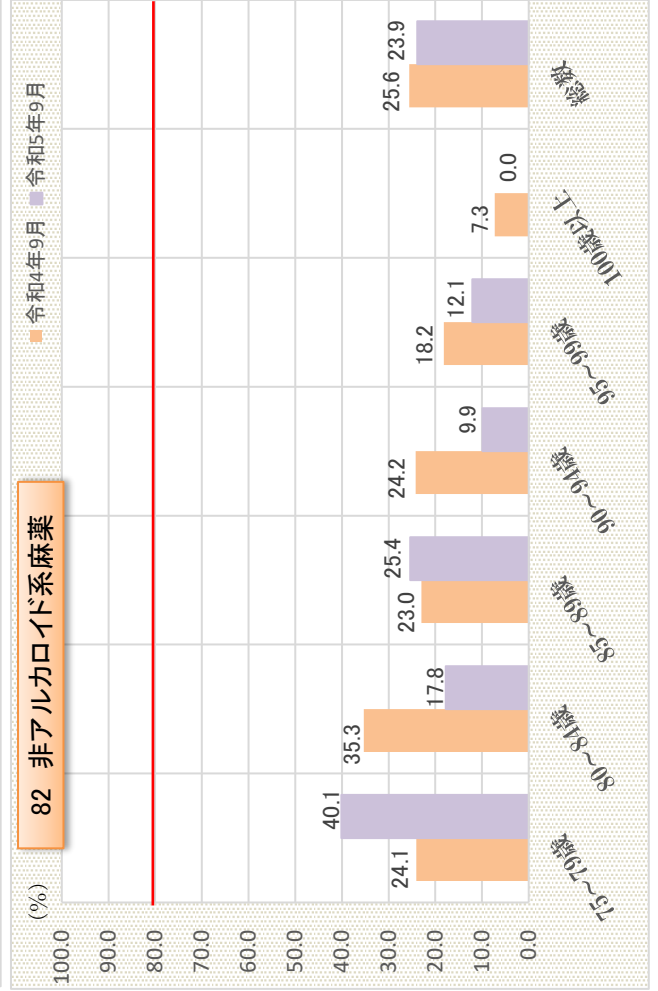
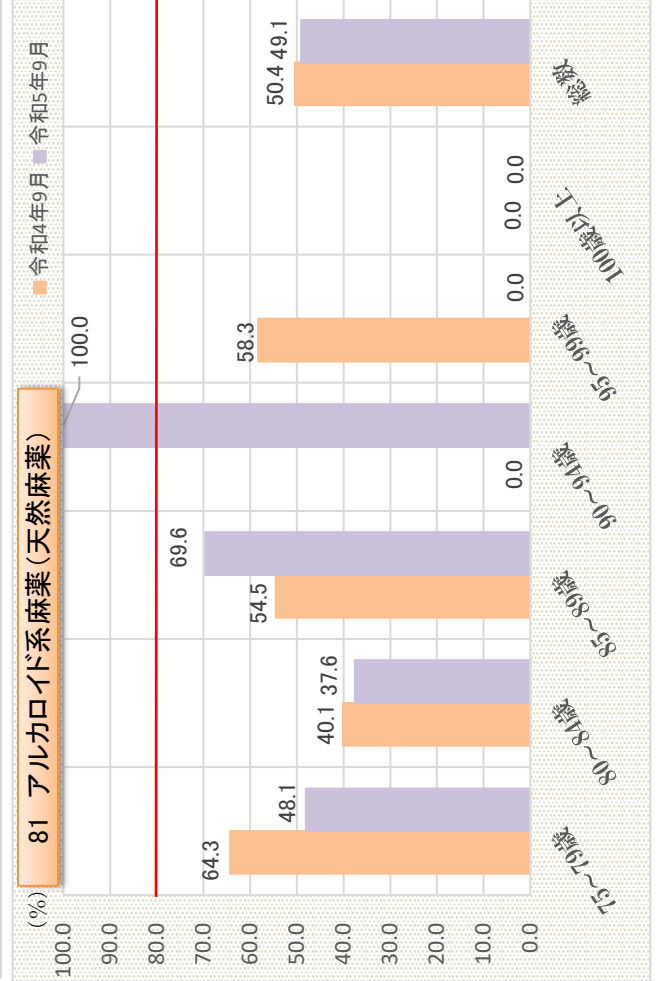
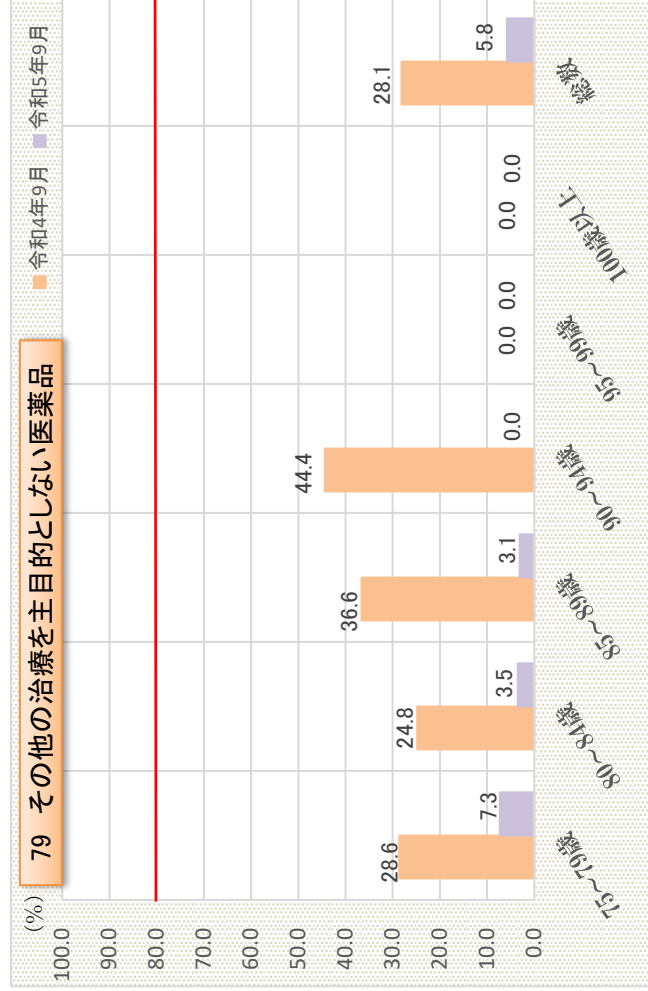
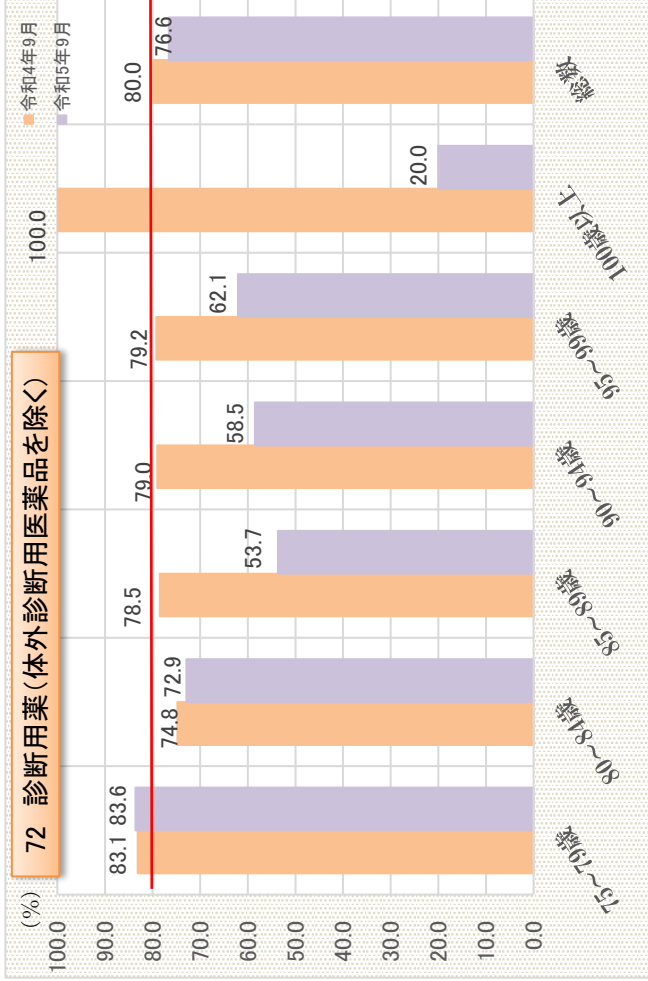
# 75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



# 75歳以上年齢階級別の使用割合（前年度比較）

資料No.4-1



## 75歳以上薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-2

薬効分類別	令和4年9月診療分			令和5年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	78.5	25,279,630	19,853,141	80.5	24,974,824	20,096,485
11 中枢神経系用薬	74.1	3,404,663	2,522,972	77.6	3,297,792	2,557,473
12 末梢神経系用薬	54.5	210,373	114,564	60.5	199,535	120,767
13 感覚器官用薬	62.8	400,016	251,143	65.3	390,739	255,125
19 その他の神経系及び感覚器官用医薬品	—	0	0	—	0	0
21 循環器官用薬	81.0	7,013,325	5,683,648	83.0	7,128,243	5,919,464
22 呼吸器官用薬	83.2	636,788	529,888	83.2	611,873	508,939
23 消化器官用薬	86.8	4,385,256	3,805,317	87.2	4,463,205	3,892,227
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	64.3	177,373	114,052	65.7	166,900	109,590
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	80.8	695,194	561,440	85.4	644,458	550,333
26 外用用薬	63.5	2,551,045	1,619,726	65.2	2,370,133	1,545,522
27 歯科口腔用薬	—	0	0	—	0	0
29 その他の個々の器官系用医薬品	47.1	6,429	3,025	46.9	6,284	2,947
31 ビタミン剤	83.1	1,261,764	1,048,959	83.5	1,244,774	1,039,755
32 滋養強壯薬	85.8	211,403	181,431	78.0	209,450	163,357
33 血液・体液用薬	81.6	2,017,933	1,647,240	82.3	1,945,087	1,600,659
34 人工透析用薬	67.6	185	125	—	0	0
39 その他の代謝性医薬品	76.5	1,628,679	1,246,397	81.2	1,607,762	1,306,038
41 細胞賦活用薬	—	0	0	—	0	0
42 腫瘍用薬	86.2	81,972	70,642	86.8	79,017	68,608
43 放射性医薬品	2.2	7,484	167	1.7	9,611	167
44 アレルギー用薬	77.7	413,628	321,555	78.0	411,232	320,870
49 その他の組織細胞機能用医薬品	—	0	0	—	0	0
51 生薬	—	0	0	—	0	0
52 漢方製剤	—	0	0	—	0	0
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	—	0	0	—	0	0
61 抗生物質製剤	78.9	97,300	76,782	74.8	104,099	77,883
62 化学療法剤	71.7	68,928	49,449	70.1	72,054	50,507
63 生物学的製剤	—	0	0	—	0	0
64 寄生動物用薬	—	0	0	—	0	0
69 その他の病原生物に対する医薬品	—	0	0	—	0	0
71 調剤用薬	—	0	0	—	0	0
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	80.0	2,169	1,735	76.6	4,206	3,222
73 公衆衛生用薬	—	0	0	—	0	0
74 体外診断用医薬品	—	0	0	—	0	0
79 その他の治療を主目的としない医薬品	28.1	363	102	5.8	258	15
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	50.4	3,624	1,828	49.1	4,265	2,096
82 非アルカロイド系麻薬	25.6	3,736	955	23.9	3,847	921

## 75歳以上年齢階級別の使用割合(対前年度比較)

資料No.4-3

薬効分類別	診療月	75歳から79歳 使用割合(%)	80歳から84歳 使用割合(%)	85歳から89歳 使用割合(%)	90歳から94歳 使用割合(%)	95歳から99歳 使用割合(%)	100歳以上 使用割合(%)	総数 使用割合(%)
総 数	令和4年9月	77.9	77.9	78.8	79.8	81.8	82.4	78.5
	令和5年9月	80.2	79.8	80.4	81.8	83.0	84.4	80.5
	差	2.3	1.9	1.6	2.0	1.2	2.0	2.0
11 中枢神経系用薬	令和4年9月	71.5	73.1	75.3	77.5	80.4	78.7	74.1
	令和5年9月	74.6	76.5	78.8	81.5	83.3	86.2	77.6
	差	3.1	3.4	3.5	4.0	2.9	7.5	3.5
12 末梢神経系用薬	令和4年9月	55.2	51.9	56.0	52.3	55.5	60.3	54.5
	令和5年9月	60.3	60.8	61.2	57.0	61.7	50.3	60.5
	差	5.1	8.9	5.2	4.7	6.2	△ 10.0	6.0
13 感覚器官用薬	令和4年9月	62.8	62.5	62.0	62.5	67.0	77.2	62.8
	令和5年9月	64.9	66.6	63.6	65.6	64.4	82.1	65.3
	差	2.1	4.1	1.6	3.1	△ 2.6	4.9	2.5
19 その他の神経系及び感覚器官 用医薬品	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
21 循環器官用薬	令和4年9月	81.2	80.5	81.2	81.4	81.8	81.5	81.0
	令和5年9月	83.5	82.6	82.5	83.4	83.7	85.1	83.0
	差	2.3	2.1	1.3	2.0	1.9	3.6	2.0
22 呼吸器官用薬	令和4年9月	82.6	82.8	83.7	82.6	88.8	83.1	83.2
	令和5年9月	82.6	82.8	83.3	83.5	86.7	81.6	83.2
	差	0.0	0.0	△ 0.4	0.9	△ 2.1	△ 1.5	0.0
23 消化器官用薬	令和4年9月	85.0	86.2	86.9	89.0	89.7	91.4	86.8
	令和5年9月	85.9	86.1	87.8	88.7	91.2	90.6	87.2
	差	0.9	△ 0.1	0.9	△ 0.3	1.5	△ 0.8	0.4
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	令和4年9月	61.2	65.0	65.5	68.0	66.8	72.3	64.3
	令和5年9月	66.5	65.7	64.5	64.9	75.7	51.6	65.7
	差	5.3	0.7	△ 1.0	△ 3.1	8.9	△ 20.7	1.4
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	令和4年9月	81.1	80.6	80.3	81.1	80.0	83.5	80.8
	令和5年9月	86.7	83.7	85.8	84.9	86.3	91.6	85.4
	差	5.6	3.1	5.5	3.8	6.3	8.1	4.6
26 外皮用薬	令和4年9月	65.2	63.3	61.6	62.5	61.8	70.4	63.5
	令和5年9月	66.4	65.7	63.6	65.0	60.5	67.0	65.2
	差	1.2	2.4	2.0	2.5	△ 1.3	△ 3.4	1.7
27 歯科口腔用薬	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
29 その他の個々の器官系用医薬品	令和4年9月	52.7	45.1	47.5	30.9	100.0	100.0	47.1
	令和5年9月	62.3	48.2	34.5	31.0	0.0	—	46.9
	差	9.6	3.1	△ 13.0	0.1	△ 100.0	—	△ 0.2
31 ビタミン剤	令和4年9月	82.2	83.3	83.5	83.7	86.0	81.7	83.1
	令和5年9月	83.5	83.3	83.5	84.2	83.9	88.2	83.5
	差	1.3	0.0	0.0	0.5	△ 2.1	6.5	0.4
32 滋養強壯薬	令和4年9月	88.9	87.1	87.4	82.8	77.5	77.7	85.8
	令和5年9月	81.0	79.5	75.9	75.4	77.3	86.2	78.0
	差	△ 7.9	△ 7.6	△ 11.5	△ 7.4	△ 0.2	8.5	△ 7.8
33 血液・体液用薬	令和4年9月	80.8	81.4	81.9	82.0	84.4	82.2	81.6
	令和5年9月	81.2	82.1	82.9	83.2	84.9	84.7	82.3
	差	0.4	0.7	1.0	1.2	0.5	2.5	0.7
34 人工透析用薬	令和4年9月	0.0	100.0	71.1	—	—	—	67.6
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
39 その他の代謝性医薬品	令和4年9月	77.4	77.0	75.3	73.4	79.2	80.3	76.5
	令和5年9月	82.7	79.8	80.5	81.5	79.9	66.6	81.2
	差	5.3	2.8	5.2	8.1	0.7	△ 13.7	4.7
41 細胞賦活用薬	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—

## 75歳以上年齢階級別の使用割合(対前年度比較)

資料No.4-3

薬効分類別	診療月	75歳から79歳 使用割合(%)	80歳から84歳 使用割合(%)	85歳から89歳 使用割合(%)	90歳から94歳 使用割合(%)	95歳から99歳 使用割合(%)	100歳以上 使用割合(%)	総数 使用割合(%)
42 腫瘍用薬	令和4年9月	85.0	82.5	91.1	91.4	84.5	100.0	86.2
	令和5年9月	87.8	87.0	87.5	83.3	88.3	100.0	86.8
	差	2.8	4.5	△ 3.6	△ 8.1	3.8	0.0	0.6
43 放射性医薬品	令和4年9月	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	2.2
	令和5年9月	0.0	4.3	0.0	0.0	—	—	1.7
	差	0.0	4.3	0.0	0.0	—	—	△ 0.5
44 アレルギー用薬	令和4年9月	76.0	75.7	80.1	80.8	86.8	77.0	77.7
	令和5年9月	75.8	75.9	81.6	80.9	83.7	88.3	78.0
	差	△ 0.2	0.2	1.5	0.1	△ 3.1	11.3	0.3
49 その他の組織細胞機能用医薬品	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	令和4年9月	82.5	75.6	81.2	75.7	76.1	63.7	78.9
	令和5年9月	77.7	77.3	71.4	69.4	67.4	53.7	74.8
	差	△ 4.8	1.7	△ 9.8	△ 6.3	△ 8.7	△ 10.0	△ 4.1
62 化学療法剤	令和4年9月	68.2	70.5	79.8	76.8	83.2	38.0	71.7
	令和5年9月	67.6	64.7	79.0	78.8	81.9	97.0	70.1
	差	△ 0.6	△ 5.8	△ 0.8	2.0	△ 1.3	59.0	△ 1.6
63 生物学的製剤	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
64 寄生動物用薬	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する医薬品	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
71 調剤用薬	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	令和4年9月	83.1	74.8	78.5	79.0	79.2	100.0	80.0
	令和5年9月	83.6	72.9	53.7	58.5	62.1	20.0	76.6
	差	0.5	△ 1.9	△ 24.8	△ 20.5	△ 17.1	△ 80.0	△ 3.4
73 公衆衛生用薬	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	令和4年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和5年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない医薬品	令和4年9月	28.6	24.8	36.6	44.4	—	—	28.1
	令和5年9月	7.3	3.5	3.1	0.0	—	—	5.8
	差	△ 21.3	△ 21.3	△ 33.5	△ 44.4	—	—	△ 22.3
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	令和4年9月	64.3	40.1	54.5	0.0	58.3	—	50.4
	令和5年9月	48.1	37.6	69.6	100.0	0.0	—	49.1
	差	△ 16.2	△ 2.5	15.1	100.0	△ 58.3	—	△ 1.3
82 非アルカロイド系麻薬	令和4年9月	24.1	35.3	23.0	24.2	18.2	7.3	25.6
	令和5年9月	40.1	17.8	25.4	9.9	12.1	0.0	23.9
	差	16.0	△ 17.5	2.4	△ 14.3	△ 6.1	△ 7.3	△ 1.7



#### 4. 統計分析 (5) 協会けんぽ・国保・後期 薬効分類別の使用割合

(資料No.5-1、5-2)

《使用割合の状況(総数)》

- 協会けんぽ、国保、後期を合算した使用割合の総数は、80.8%であり、昨年度より1.9%pt伸びている。

※資料No.5-2より

	令和4年9月診療分	令和5年9月診療分	差(%pt)
使用割合(総数)	78.9%	80.8%	1.9

《使用割合の状況(薬効分類別)》

- 使用割合が高い薬剤については、歯科口腔用薬 95.6%、消化器官用薬 87.0%、腫瘍用薬 86.6%という状況である。
- 使用割合が低い薬剤については、放射性医薬品 1.7%、その他の治療を主目的としない医薬品 7.6%、非アルカロイド系麻薬 36.9%という状況である。

【使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】

※資料No.5-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (1,608÷1,682)	95.6%	放射性医薬品 (207÷11,836)	1.7%
消化器官用薬 (6,451,496÷7,418,798)	87.0%	その他の治療を主目的としない 医薬品(56÷738)	7.6%
腫瘍用薬 (139,703÷161,237)	86.6%	非アルカロイド系麻薬 (3,591÷9,723)	36.9%

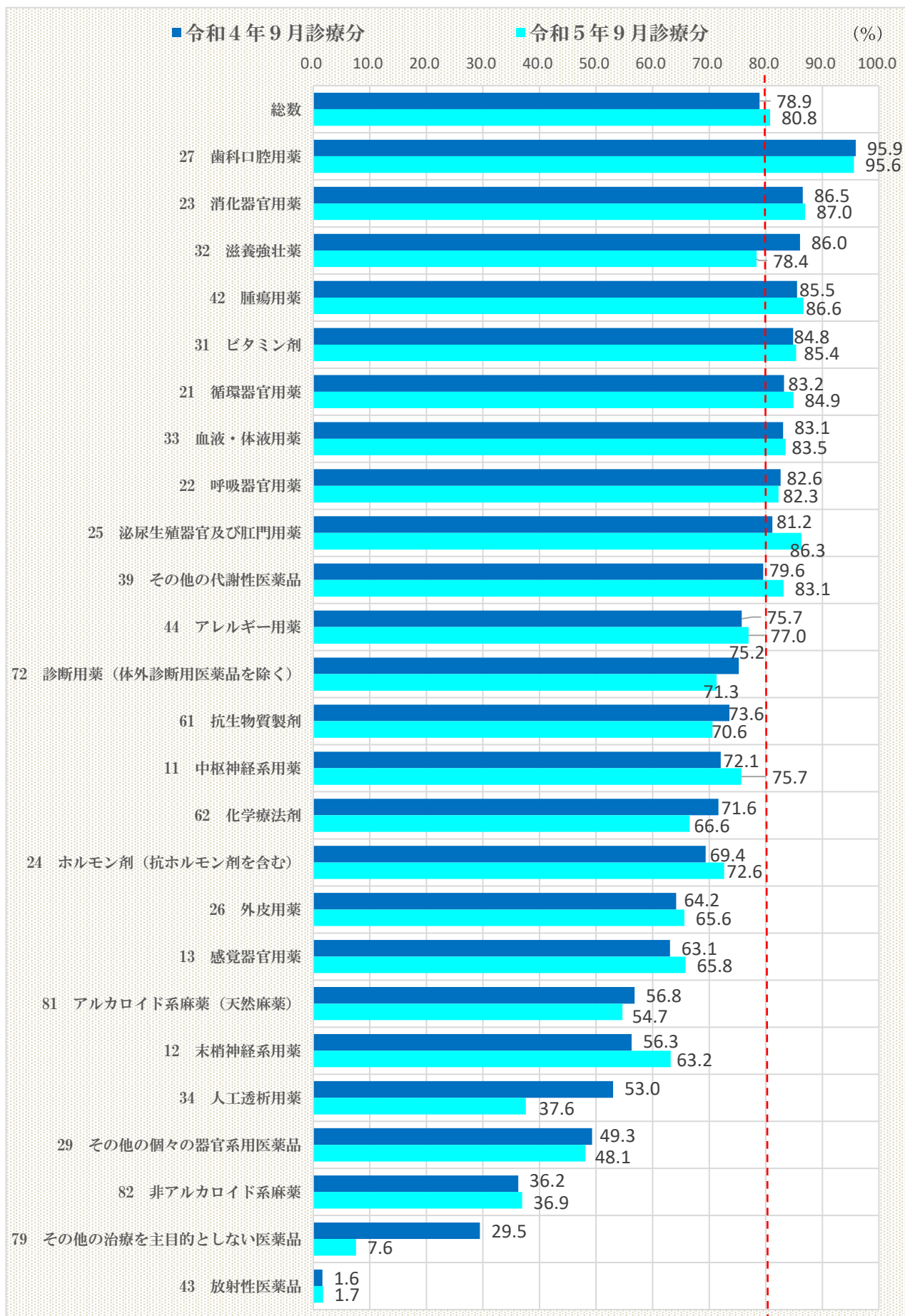
《昨年度との比較》

- 昨年度から最も伸びたのは、末梢神経系用薬であり、6.9%pt伸びている。

【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】

※資料No.5-2より

薬効分類別	令和4年9月診療分	令和5年9月診療分	差(%pt)
12 末梢神経系用薬	56.3%	63.2%	6.9
25 泌尿生殖器官及び 肛門用薬	81.2%	86.3%	5.1
11 中枢神経系用薬	72.1%	75.7%	3.6



協会けんぽ・国保・後期 薬効分類別の使用割合(前年度比較) 資料No.5-2

薬効分類別	令和4年9月診療分			令和5年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	78.9	49,079,921	38,730,950	80.8	48,196,523	38,931,569
27 歯科口腔用薬	95.9	1,813	1,739	95.6	1,682	1,608
23 消化器官用薬	86.5	7,345,751	6,356,257	87.0	7,418,798	6,451,496
32 滋養強壯薬	86.0	348,314	299,703	78.4	335,105	262,618
42 腫瘍用薬	85.5	165,195	141,279	86.6	161,237	139,703
31 ビタミン剤	84.8	2,065,574	1,752,319	85.4	1,997,548	1,705,298
21 循環器官用薬	83.2	13,203,268	10,988,413	84.9	13,145,379	11,157,612
33 血液・体液用薬	83.1	3,661,538	3,041,569	83.5	3,597,506	3,004,345
22 呼吸器官用薬	82.6	1,564,913	1,292,769	82.3	1,710,488	1,407,257
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	81.2	1,014,676	823,599	86.3	932,159	804,546
39 その他の代謝性医薬品	79.6	3,743,072	2,978,192	83.1	3,628,167	3,016,701
44 アレルギー用薬	75.7	1,676,112	1,269,478	77.0	1,740,041	1,339,245
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	75.2	4,995	3,758	71.3	7,490	5,342
61 抗生物質製剤	73.6	319,772	235,220	70.6	355,771	251,116
11 中枢神経系用薬	72.1	7,736,746	5,574,442	75.7	7,373,725	5,579,946
62 化学療法剤	71.6	182,633	130,850	66.6	188,275	125,304
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	69.4	378,803	262,755	72.6	372,221	270,417
26 外用用薬	64.2	4,431,908	2,843,614	65.6	4,034,595	2,647,796
13 感覚器官用薬	63.1	707,112	446,113	65.8	685,327	451,003
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	56.8	10,075	5,723	54.7	10,966	5,996
12 末梢神経系用薬	56.3	486,604	273,950	63.2	468,124	295,751
34 人工透析用薬	53.0	1341	711	37.6	141	53
29 その他の個々の器官系用医薬品	49.3	9,994	4,926	48.1	9,480	4,564
82 非アルカロイド系麻薬	36.2	8,624	3,125	36.9	9,723	3,591
79 その他の治療を主目的としない医薬品	29.5	950	280	7.6	738	56
43 放射性医薬品	1.6	10,138	167	1.7	11,836	207

## 4. 統計分析 (6)山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合

(資料No.6-1、6-2、6-3)

### 1. 使用データの概要

- 厚生労働省ホームページに掲載された、保険者別の後発医薬品の使用割合(数量シェア)を使用する。 ※毎年度、9月・3月診療分が掲載される。
- 今回使用するデータは令和3年3月分～令和5年3月分となる(令和6年3月時点掲載)

※以下、2. ～3. については、「データに係る留意点」より抜粋

### 2. 集計に当たっての保険者の単位等

#### (1)全保険者種別の共通事項

- 原則として、レセプトに記載された保険者番号ごとに集計・算出する。
- 保険者番号・保険者名は、データ抽出の対象月時点のものを用いる。

#### (2)保険者種別ごとの個別事項

##### ①国民健康保険

- 保険者番号ごとに集計し、同一市町村の「国民健康保険」と「退職者医療」は合算して集計する。

##### ②国民健康保険組合

- 保険者番号ごとに集計する。

##### ③健康保険組合

- 保険者番号ごとに集計することを原則とし、支部や特例退職被保険者などにより複数の保険者番号をもつ健保組合については、合算して集計する。その際、合算による集計後の保険者番号・所属都道府県は、当該健保組合の本部のものを用いる。

##### ④全国健康保険協会

- 保険者番号中の法別番号が「01(協会一般)」「03(日雇特例一般)」「04(日雇特例特別)」である3区分を合算して集計する。

##### ⑤共済組合

- 保険者番号ごとの集計を原則とし、支部により複数の保険者番号をもつ共済組合については、合算して集計する。その際、合算による集計後の保険者番号・所属都道府県は、当該共済組合の本部のものを用いる。

##### ⑥後期高齢者医療広域連合

- 各都道府県の後期高齢者医療広域連合ごとに合算して集計する。その際、合算による集計後の保険者番号は、各都道府県の広域連合の番号を用いる。

### 3. 抽出データの算出方法等

#### (1)保険者別の後発医薬品使用割合(数量シェア)の計算方法

- ONDBのレセプトデータを活用し、次の計算方法により保険者別の医薬品数量のデータを抽出して保険者別の後発医薬品の使用割合を算出している。

#### ○使用割合(数量シェア)

$$\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}]})$$
で算出している。

(2)抽出対象のレセプト

○医科入院、DPC(出来高払い部分は対象。包括払い部分は対象外)、医科入院外、  
歯科、調剤

(3)その他の主な留意点

○ONDBの性質上、審査支払機関の支払請求に係るレセプトのうち電算処理に係るもの(電子レセプト)が算出対象となり(紙レセプトに係るものは対象外)、また、記載の不備等によりNDBに集約されないレセプトは対象外となること。なお、保険者が審査支払機関に差し戻したレセプトは、既にNDBに集約済みであるため算出の対象となる。

○集計の対象月の診療に係るレセプトであっても、医療機関からの請求の遅れ等によりデータ抽出時に審査支払機関からNDBへ格納がなされていないレセプトは抽出の対象外となる。

#### 4. 統計分析

(1)山梨県\_保険者別ジェネリック医薬品使用割合 (資料No.6-1、6-2、6-3)

《使用割合の状況(令和5年3月診療分)》

○使用割合が高い保険者は、身延町 87.3%、早川町 87.2%、南部町 84.5%という状況である。

○使用割合が低い保険者は、医師国保組合 67.7%、丹波山村 71.3%、昭和町 75.7%という状況である。

【使用割合の上位・下位5保険者】

※資料No.6-1 より

上位		下位	
保険者名	使用割合	保険者名	使用割合
身延町	87.3%	医師国保組合	67.7%
早川町	87.2%	丹波山村	71.3%
南部町	84.5%	昭和町	75.7%
韮崎市	84.3%	小菅村	76.6%
富士河口湖町	84.1%	富士吉田市	76.8%

《前年度同月との比較(令和5年3月診療分)》

○前年度同月の使用割合を比較し、最も伸びたのは、丹波山村であり、3.8%pt 伸びている。

【前年度同月比較上位3保険者】

※資料No.6-1 より

保険者名	令和4年3月診療分	令和5年3月診療分	差(%pt)
丹波山村	67.5%	71.3%	3.8
富士川町	78.1%	81.9%	3.7
山中湖村	75.9%	78.8%	2.9

山梨県\_保険者別ジェネリック医薬品使用割合

資料No.6-1

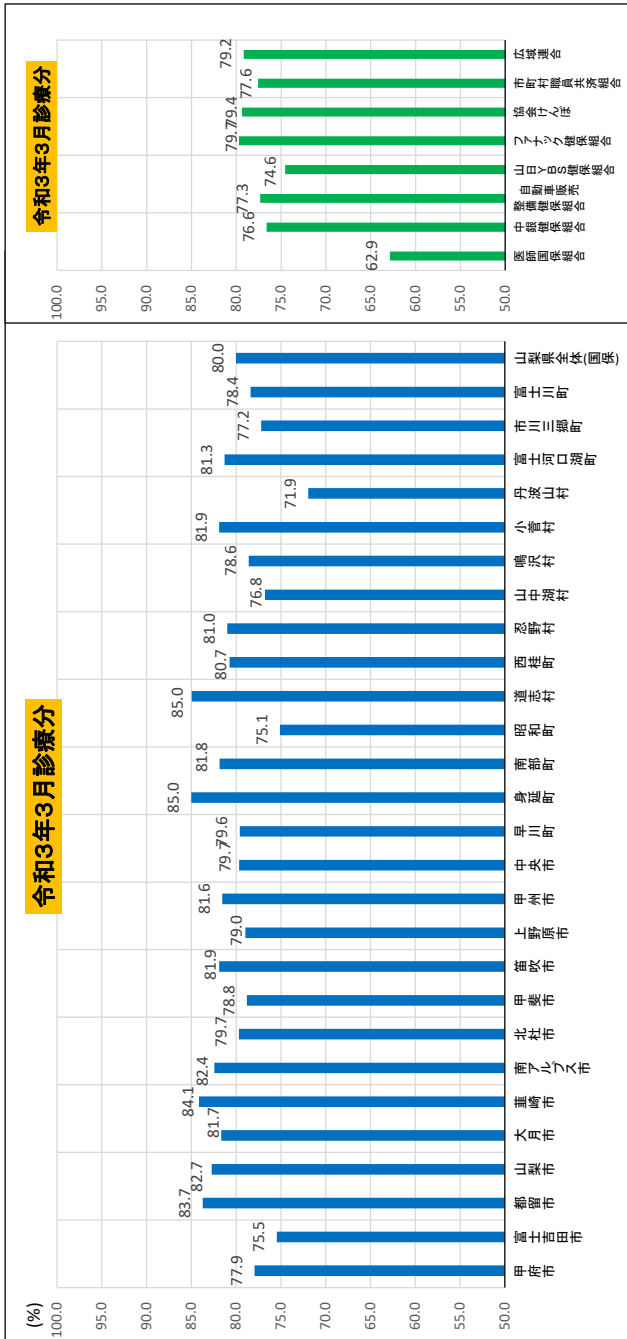
保険者種別	保険者番号	保険者名	診療月				
			令和3年3月分	令和3年9月分	令和4年3月分	令和4年9月分	令和5年3月分
			使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)
国民健康保険	190017	甲府市	77.9%	78.9%	77.9%	79.9%	79.9%
	190025	富士吉田市	75.5%	74.8%	75.6%	76.2%	76.8%
	190041	都留市	83.7%	82.4%	81.7%	82.2%	83.1%
	190058	山梨市	82.7%	83.7%	83.1%	83.1%	83.3%
	190066	大月市	81.7%	81.1%	81.8%	81.5%	82.8%
	190074	韭崎市	84.1%	83.2%	82.3%	83.0%	84.3%
	190082	南アルプス市	82.4%	82.2%	81.9%	82.6%	82.9%
	190090	北杜市	79.7%	79.4%	80.6%	81.1%	81.4%
	190108	甲斐市	78.8%	80.0%	79.1%	80.0%	80.4%
	190116	笛吹市	81.9%	82.2%	81.9%	82.7%	82.6%
	190124	上野原市	79.0%	79.0%	78.7%	80.2%	79.8%
	190132	甲州市	81.6%	82.3%	80.6%	82.4%	81.7%
	190140	中央市	79.7%	80.0%	79.2%	79.6%	80.9%
	190728	早川町	79.6%	84.0%	85.8%	84.9%	87.2%
	190736	身延町	85.0%	84.4%	84.7%	86.6%	87.3%
	190744	南部町	81.8%	84.6%	82.2%	84.0%	84.5%
	190793	昭和町	75.1%	75.2%	75.6%	76.4%	75.7%
	190975	道志村	85.0%	83.5%	84.7%	84.4%	80.7%
	190983	西桂町	80.7%	79.9%	78.2%	79.8%	80.2%
	190991	忍野村	81.0%	82.0%	79.2%	81.7%	81.8%
	191007	山中湖村	76.8%	77.7%	75.9%	77.1%	78.8%
	191049	鳴沢村	78.6%	80.0%	80.7%	79.3%	81.1%
	191064	小菅村	81.9%	84.7%	79.5%	84.8%	76.6%
	191072	丹波山村	71.9%	63.4%	67.5%	63.0%	71.3%
	191080	富士河口湖町	81.3%	82.6%	81.6%	81.7%	84.1%
191098	市川三郷町	77.2%	78.3%	76.9%	78.3%	78.6%	
191106	富士川町	78.4%	79.8%	78.1%	80.7%	81.9%	
		山梨県全体(国保)	80.0%	80.4%	79.9%	80.9%	81.3%
国民健康保険組合	193672	山梨県医師国民健康保険組合	62.9%	64.2%	65.7%	64.7%	67.7%
健康保険組合	06190037	山梨中央銀行健康保険組合	76.6%	78.5%	76.8%	78.1%	77.0%
	06190086	山梨県自動車販売整備健康保険組合	77.3%	79.3%	78.1%	81.3%	79.8%
	06190136	山日YBS健康保険組合	74.6%	80.6%	79.3%	81.0%	79.9%
	06190144	フアナック健康保険組合	79.7%	77.8%	78.9%	78.3%	80.7%
全国健康保険協会	01190016	全国健康保険協会山梨支部	79.4%	80.1%	79.2%	80.6%	80.4%
共済組合	32190415	山梨県市町村職員共済組合	77.6%	79.9%	77.5%	80.6%	79.6%
後期高齢者医療広域連合	39190004	山梨県後期高齢者医療広域連合	79.2%	79.5%	80.0%	80.5%	81.6%

※厚生労働省「保険者別の後発医薬品の使用割合(毎年度公表)より」

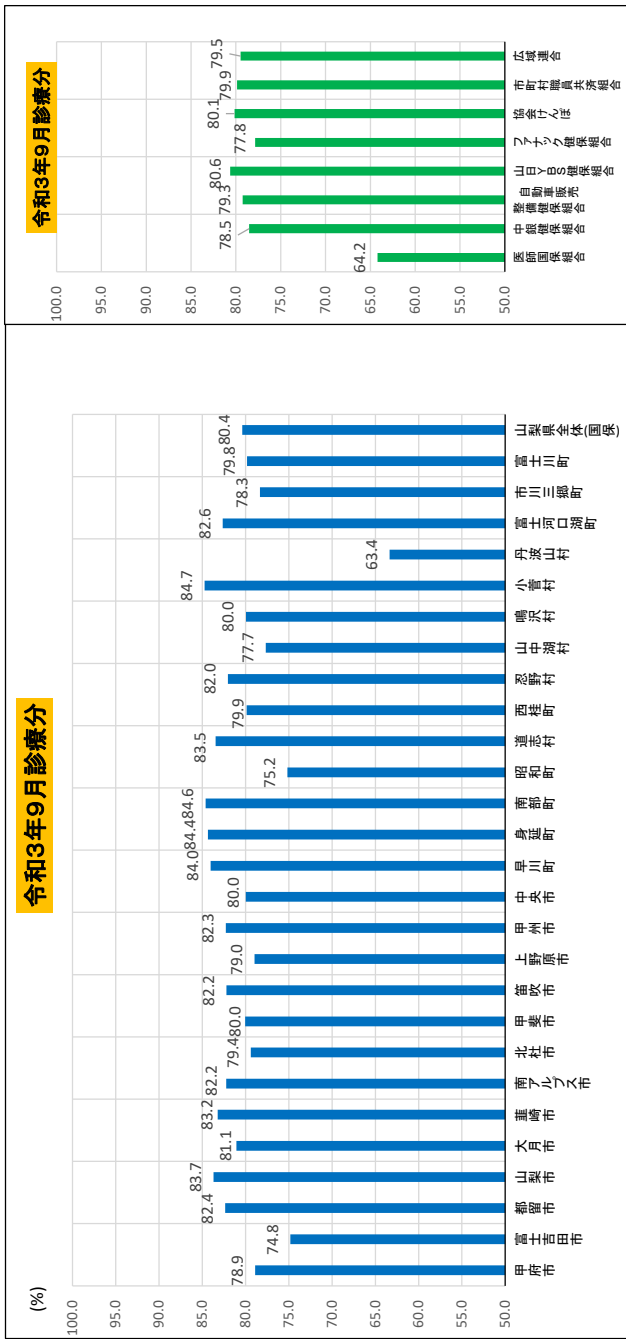
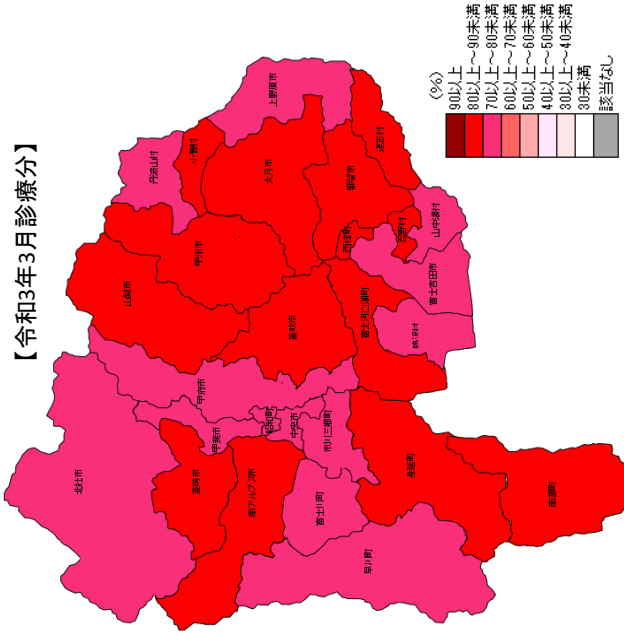
※毎年度、9月・3月の診療分のデータが厚生労働省ホームページに掲載される

※NDBのレセプトデータを活用し、次の計算方法により保険者別の医薬品数量のデータを抽出して保険者別の後発医薬品の使用割合を算出されている  
 使用割合(数量シェア) = 後発医薬品の数量 ÷ (後発医薬品がある先発医薬品の数量 + 後発医薬品の数量)

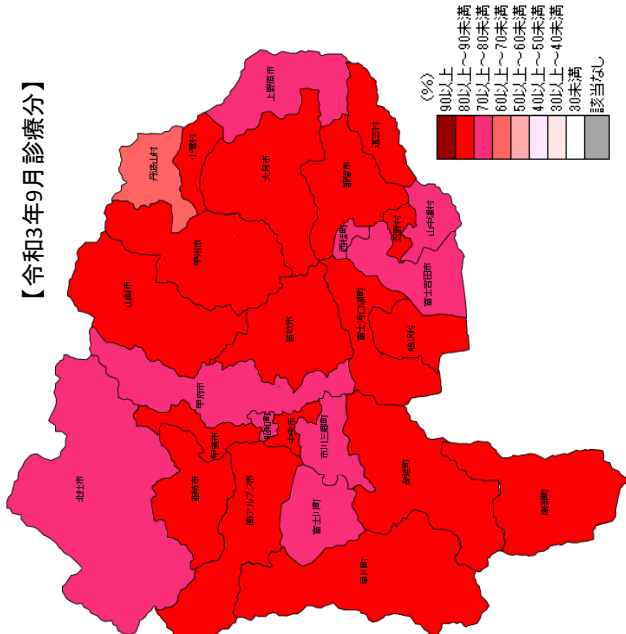
山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合\_グラフ



山梨県国保保険者別ジェネリック医薬品使用割合\_マップ



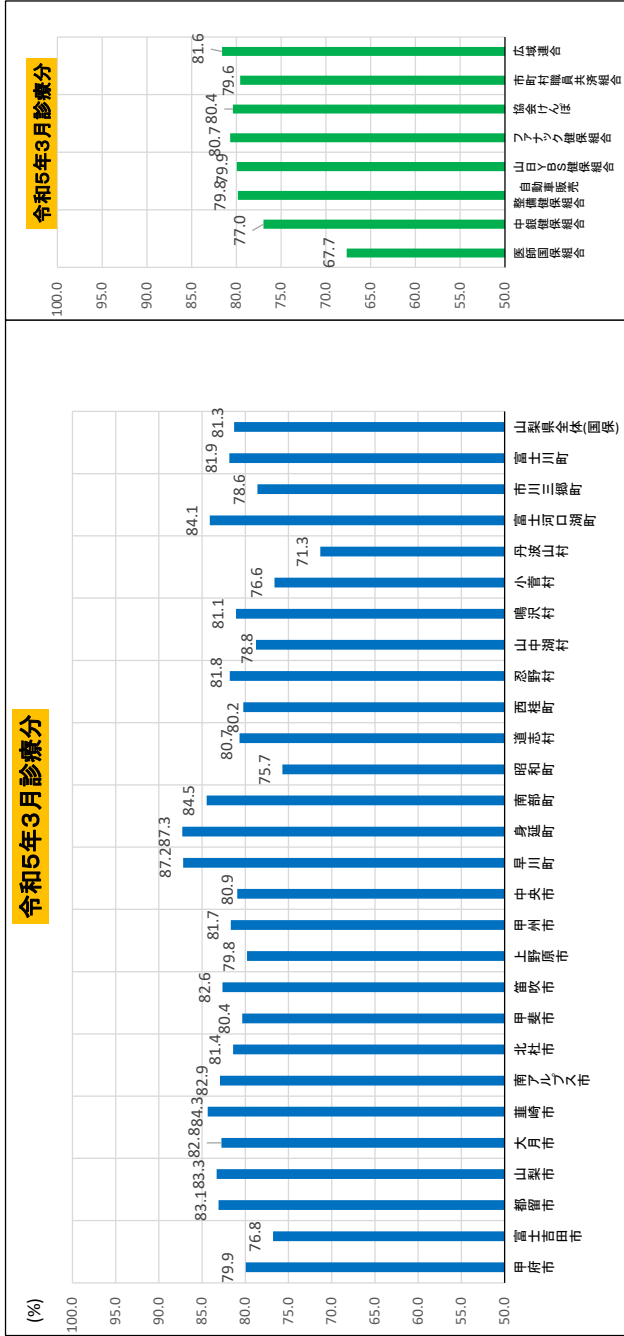
【令和3年9月診療分】



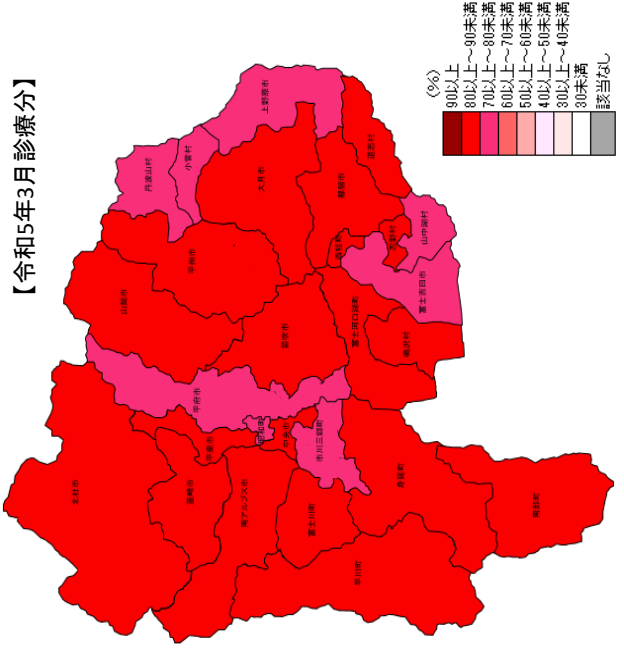




山梨県保険者別ジェネリック医薬品使用割合\_グラフ

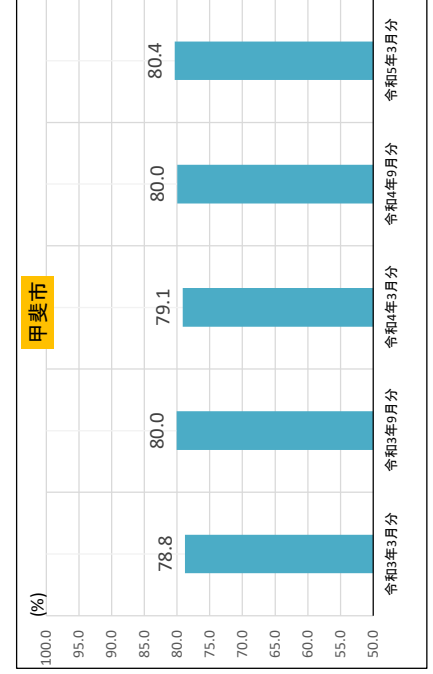
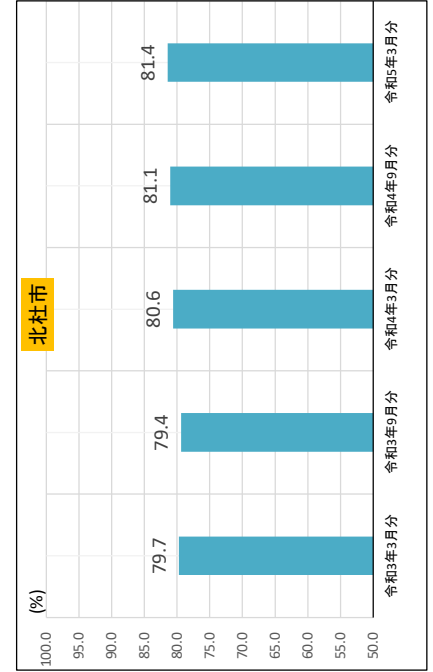
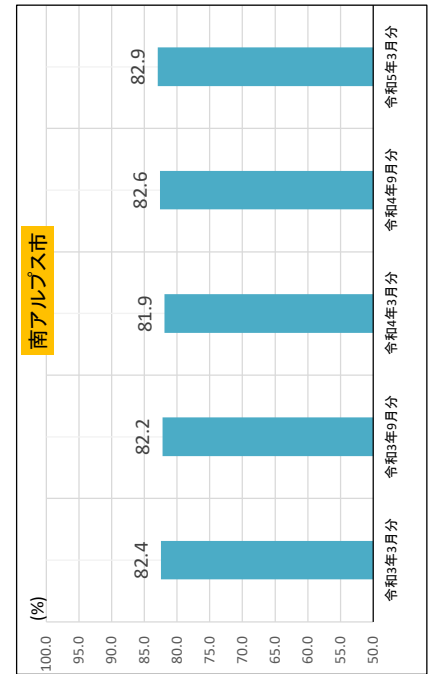
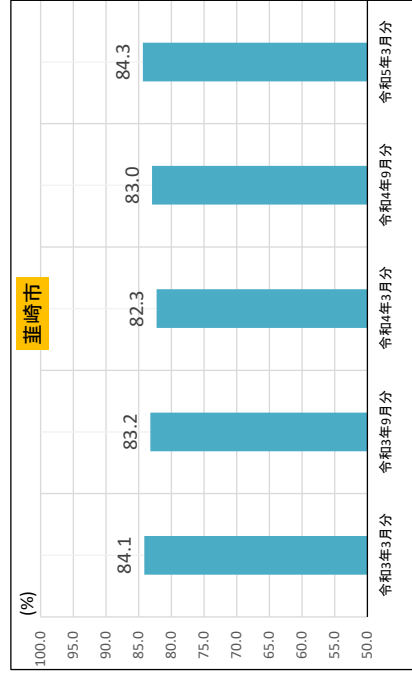
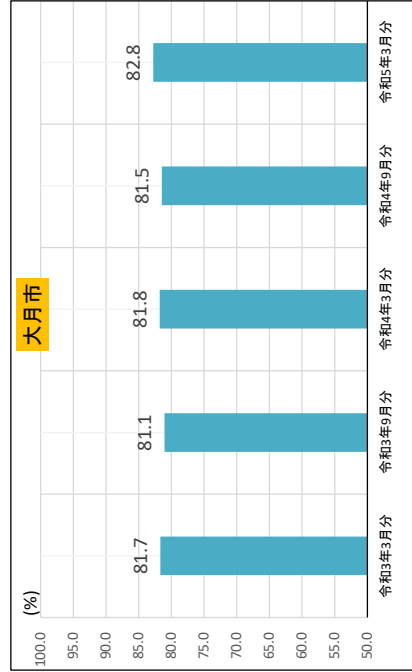
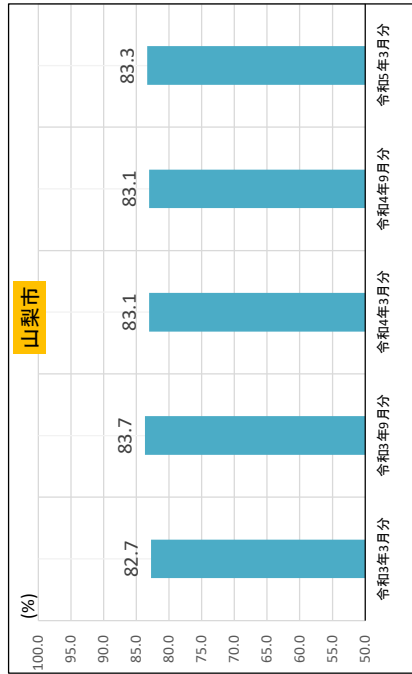
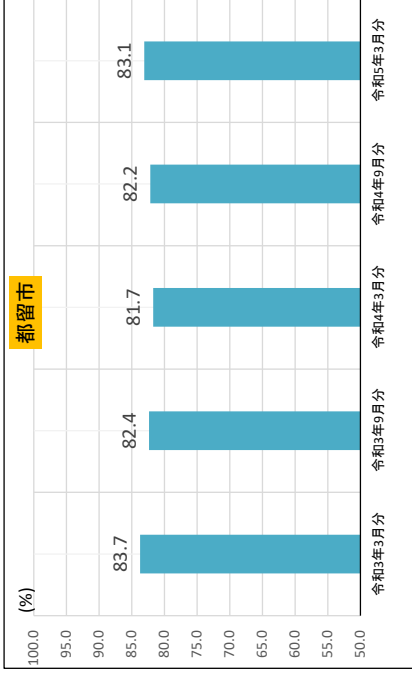
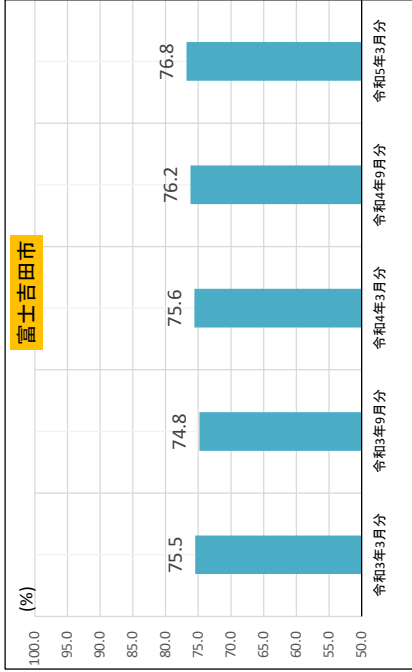
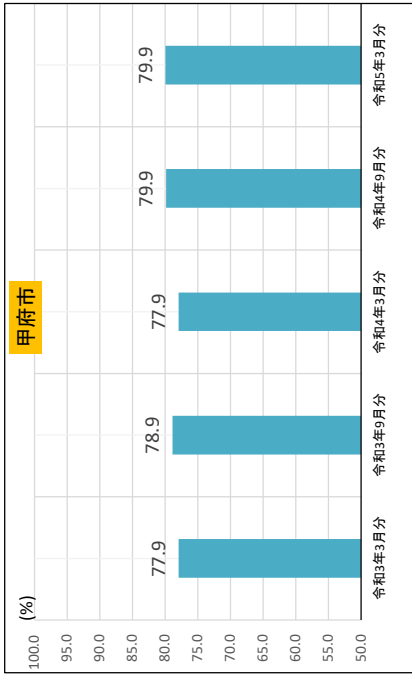


山梨県\_国保保険者別ジェネリック医薬品使用割合\_マップ



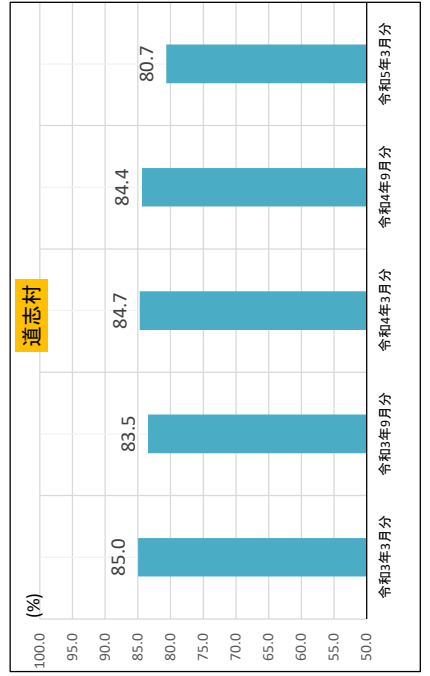
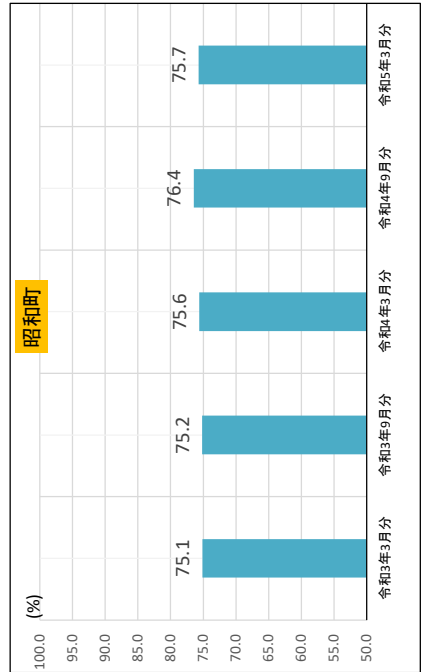
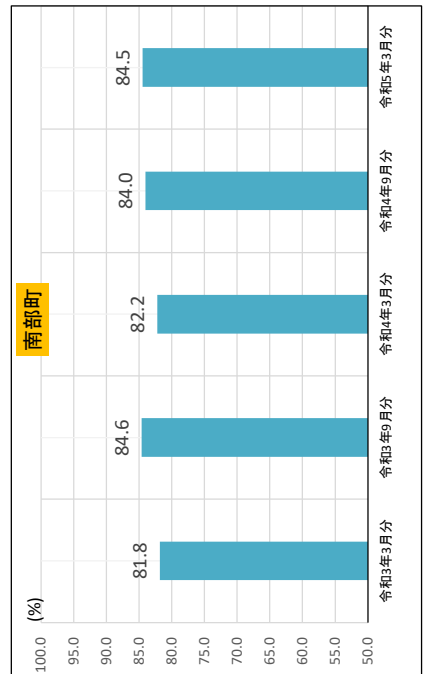
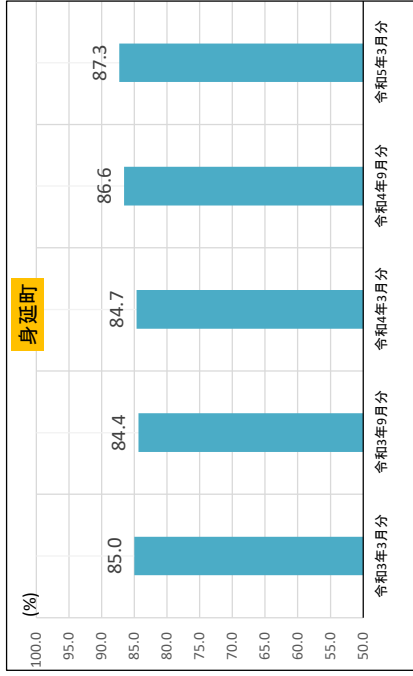
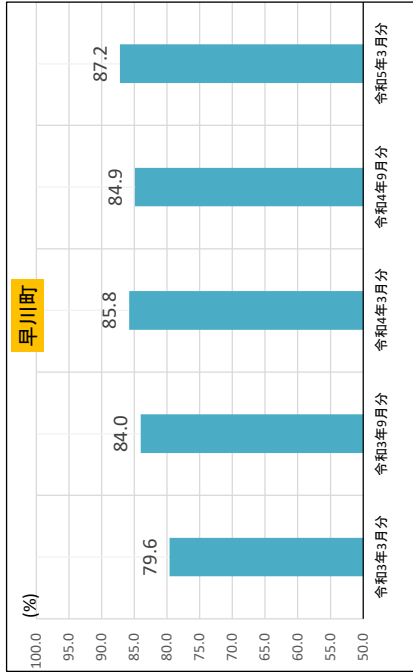
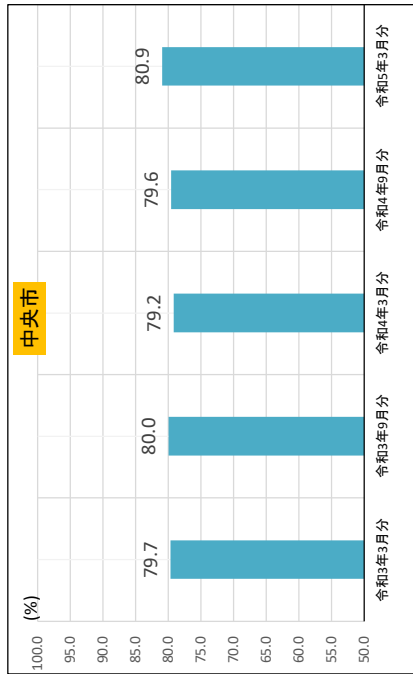
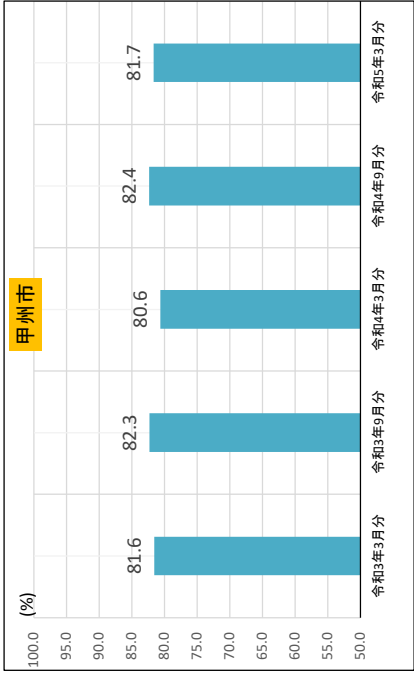
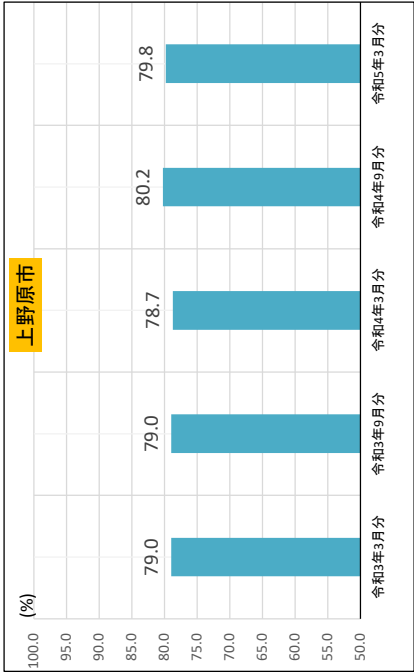
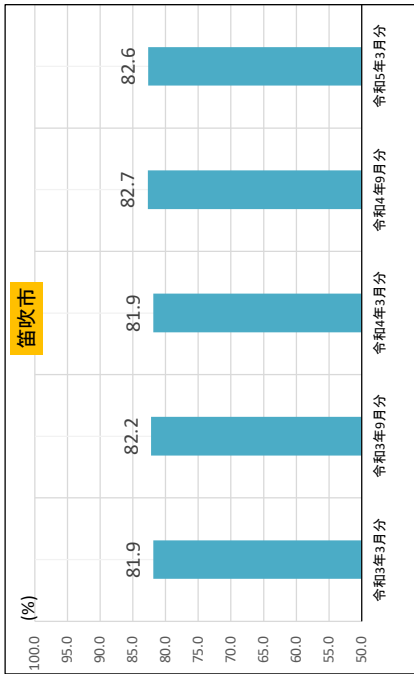
山梨県 保険者別、診療年月別ジェネリック医薬品使用割合

資料№6-3



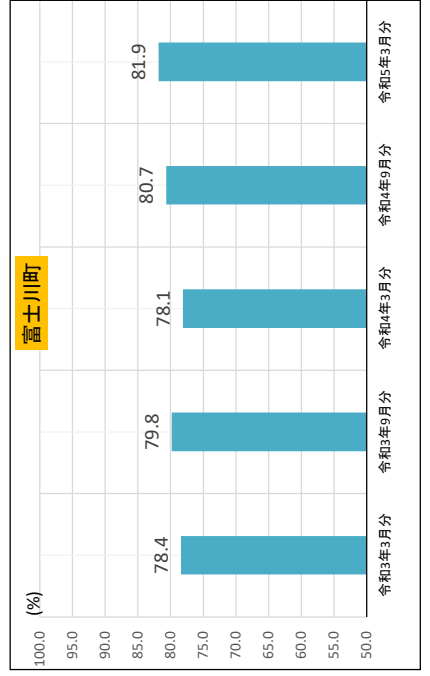
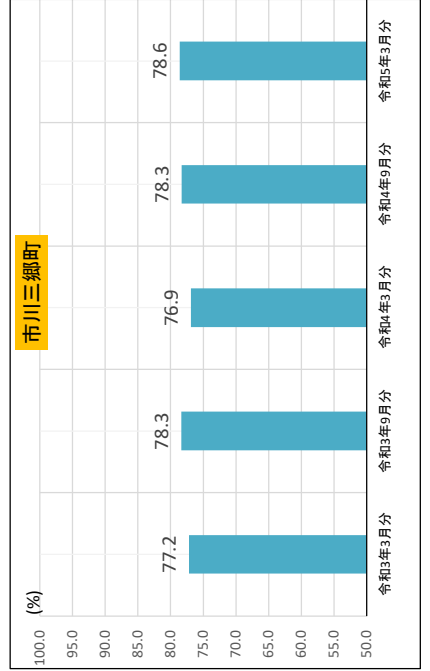
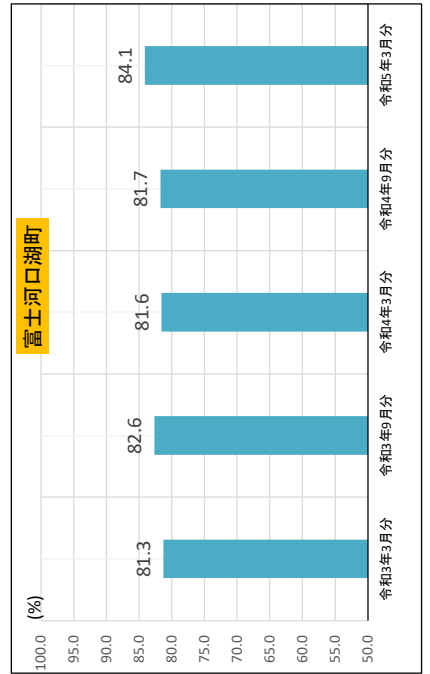
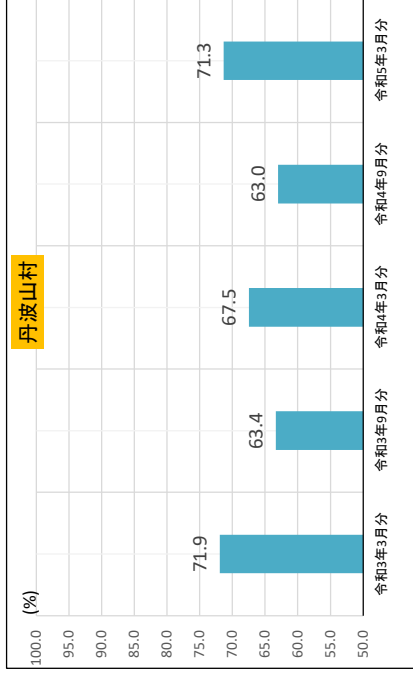
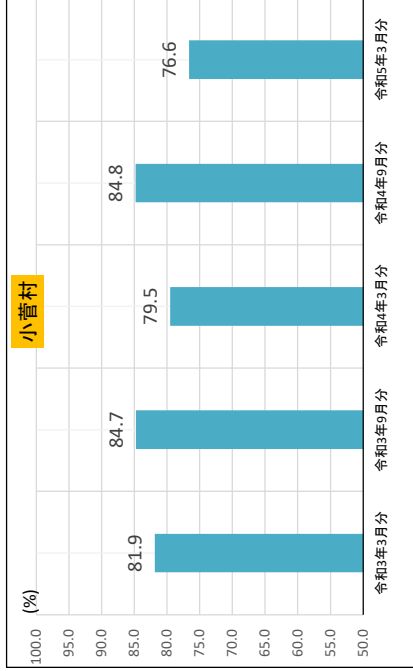
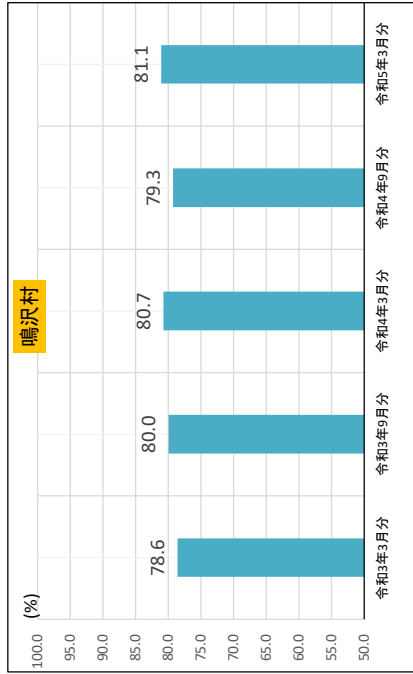
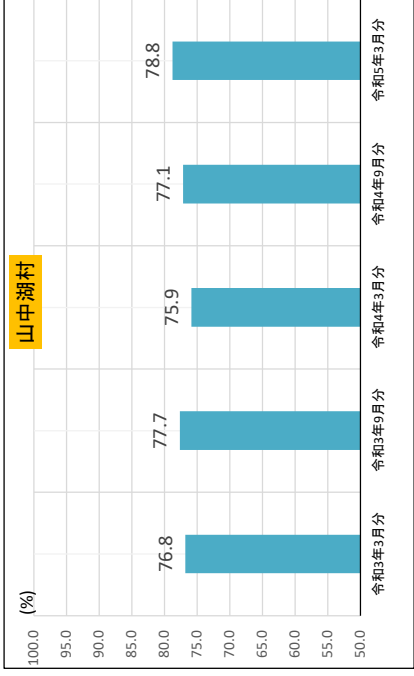
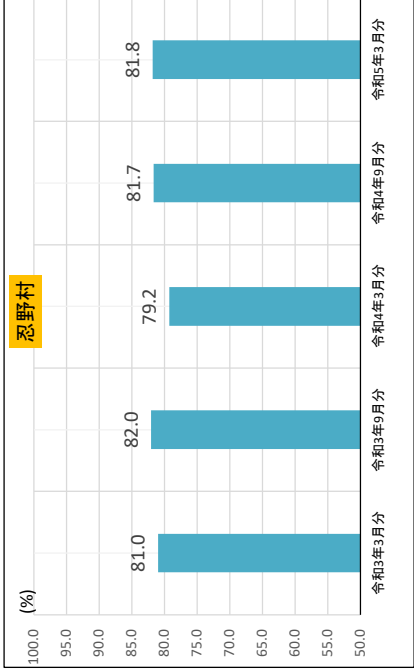
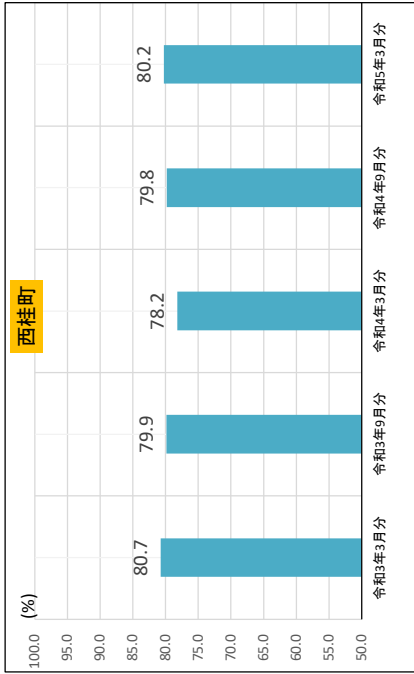
山梨県\_保険者別、診療年月別シネネリック医薬品使用割合

資料No.6-3



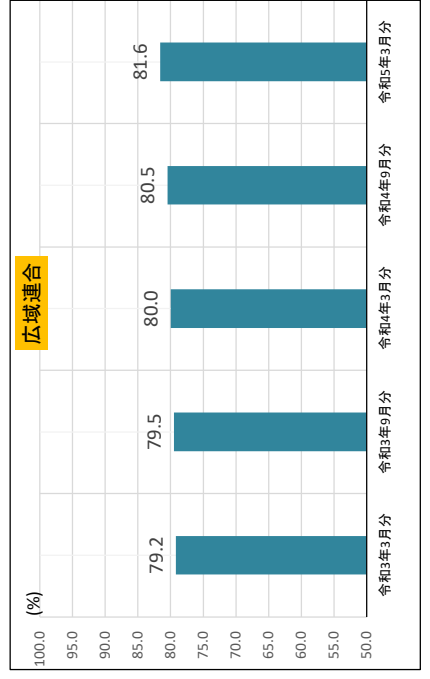
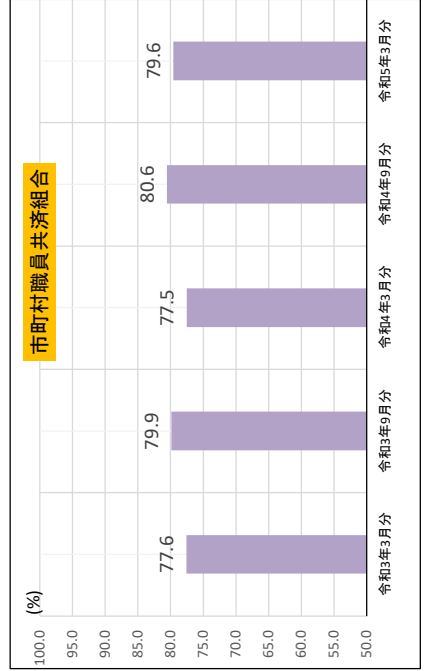
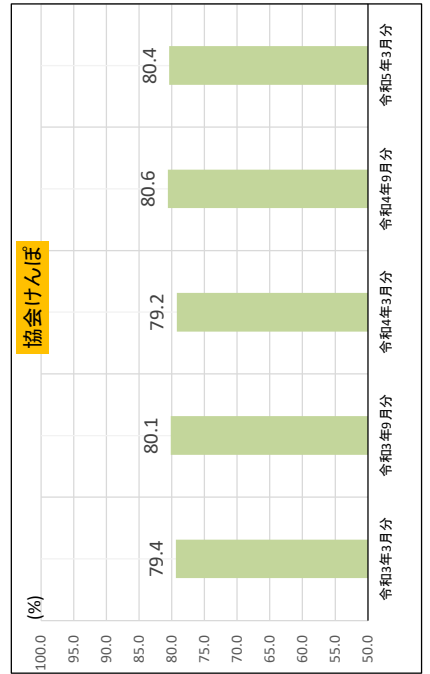
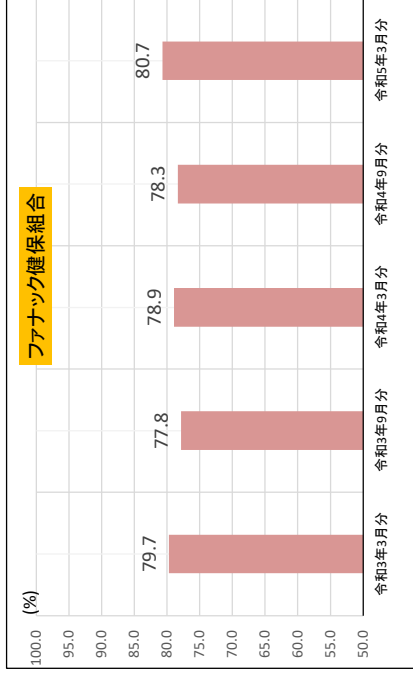
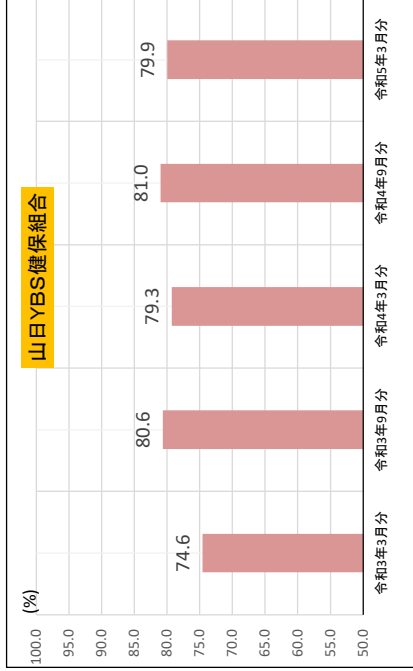
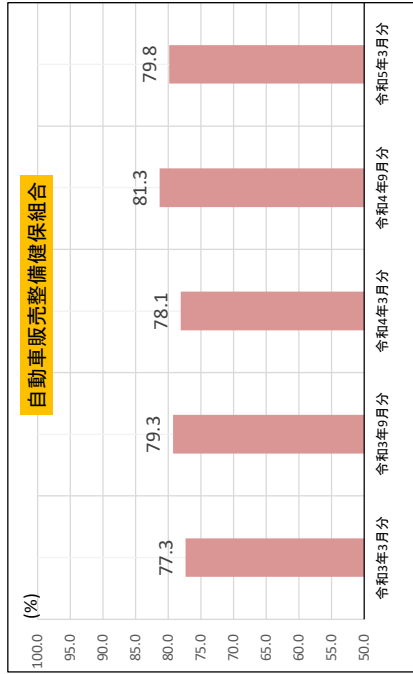
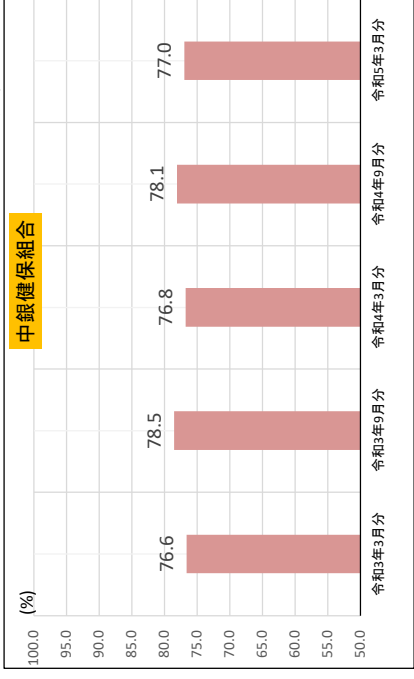
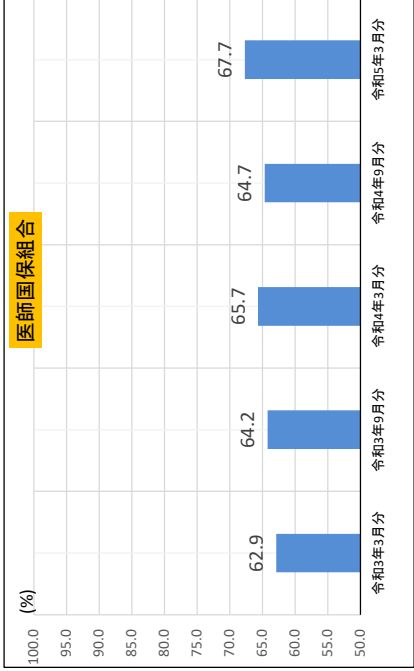
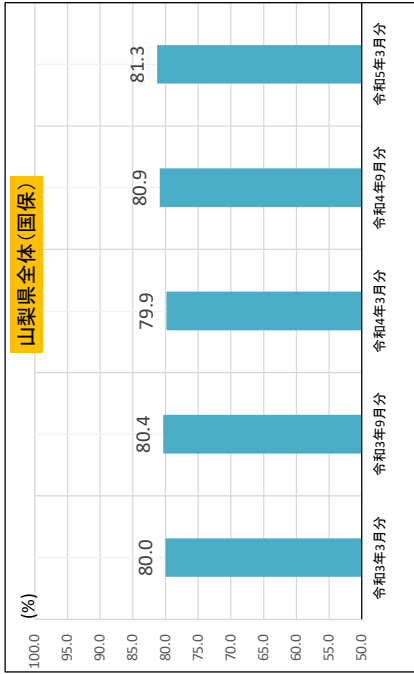
山梨県\_保険者別、診療年月別シネリック医薬品使用割合

資料No.6-3



山梨県\_保険者別、診療年月別シネリック医薬品使用割合

資料No.6-3



## 5. まとめ

### 《後発医薬品の使用促進について》

今回の統計結果から、本県では若い世代(0歳から19歳)の使用割合が低いことが分かった。

0歳から74歳までの使用割合は81.4%(昨年度より1.8%ptの伸び)、75歳以上の使用割合は80.5%(昨年度より2.0%ptの伸び)であり、国で掲げた目標値80%を超えていることが分かった。

また、保険者(地域)ごとにみると、80%に届いていない保険者もあることが分かった。

このことより、保険者協議会は、若い世代を含め、幅広い年代の方々に対し、ジェネリック医薬品が安心・安全な薬剤であることや医療費の抑制につながることを、引き続きイベント等の場や広報により周知していく。